

関東大都市圏における在日ムスリムの
社会的ネットワークと適応に関する調査研究

課題番号 17530394

平成 17 年度～平成 18 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)

研究成果報告書

平成 19 年 3 月

研究代表者 店田 廣文 (早稲田大学・人間科学学術院・教授)

研究組織

研究代表者：店田廣文（早稲田大学・人間科学学術院・教授）

研究分担者：村田久（山村学園短期大学・保育学科・専任講師）

高橋陽子（早稲田大学・人間科学学術院・助手）

研究協力者：石川基樹（早稲田大学大学院人間科学研究科・博士後期課程）

岡井宏文（早稲田大学大学院人間科学研究科・博士後期課程）

北爪秀紀（早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程修了）

池端宏之（早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程）

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 17 年度	2400	0	2400
平成 18 年度	1100	0	1100
総計	3500	0	3500

研究発表

（1）学会誌等

岡井宏文, 2006, 「イスラミック・トラベラーズ・タブリーギー・ジャマーアトのプログラムへの参与観察の紹介」, 『Migrant's-ネット』10月号通巻93号, 移住労働者と連帯する全国ネットワーク, pp14-15

（2）口頭発表

高橋陽子・店田廣文

関東大都市圏における在日ムスリム調査・中間報告

第78回日本社会学会大会 一般研究報告(2)宗教

2005年10月23日（法政大学（相模キャンパス））

岡井宏文 在日ムスリムの社会的ネットワークと適応

第23回 イスラム人口研究懇談会 2006年4月15日（早稲田大学）

岡井宏文 在日ムスリムの諸類型 — 「在日ムスリム調査」の調査結果より—
第 79 回日本社会学会大会 一般研究報告(2)宗教
2006 年 10 月 28 日 (立命館大学 (衣笠キャンパス))

高橋陽子・店田廣文
関東大都市圏における在日ムスリム実態調査・中間報告
第 79 回日本社会学会大会 一般研究報告(2)宗教
2006 年 10 月 28 日 (立命館大学 (衣笠キャンパス))

店田廣文 在日ムスリムの生活実態と意識—関東大都市圏における社会調査より—
多文化関係学会関東地区研究会 2007 年 3 月 24 日 於:慶應大学 (三田キャンパス)

(3) 出版物

早稲田大学人間科学学術院・アジア社会論研究室『在日ムスリム調査 関東大都市圏調査
第一次報告書』(2006 年 8 月)

早稲田大学人間科学学術院・アジア社会論研究室『「在日ムスリム調査」 —モスク調査の
記録—』(2006 年 12 月)

目次

はしがき.....	2
第1章 日本における在日ムスリム研究の現状 — 1990年以降の学術情報の検討をふまえて—	
店田 廣文.....	3
第2章 モスクの設立とイスラーム組織の展開	
岡井 宏文.....	15
第3章 マレーシア・モスク調査の記録	
北爪 秀紀.....	43
付章 マレーシアにおける ALEPS 調査の企画と実施 (ALEPS 調査票を含む)	
店田 廣文.....	63
付録 『在日ムスリム調査』(再録).....	95

はしがき

本報告書は、平成 17 年度から 18 年度にかけて実施した日本学術振興会科学研究費助成による調査研究「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」の最終成果報告である。この調査研究では、関東大都市圏に居住するイスラム教徒（ムスリム）を対象として日本国内における社会的ネットワークと適応に関する研究、および在外の在日経験を有するムスリムのネットワークについても研究を行うこととして、質問紙を使用した社会調査をそれぞれ実施した。

2005 年度から 2006 年度にかけて、在日ムスリムの意識調査と全国に散らばるモスク（イスラム教寺院）やハラールショップなどについての実態調査をおこなった。それらの結果は、『在日ムスリム調査 関東大都市圏調査 第一次報告書』（2006 年 8 月）、および『「在日ムスリム調査」－モスク調査の記録－』（2006 年 12 月）として、それぞれ刊行した。

第 2 年度である 2006 年度には、マレーシアにある ALEPS（東方政策元日本留学生同窓会）のメンバーを対象として、在日経験を有するムスリムの、日本と外国における「ムスリム・ネットワーク」をとらえるための質問紙を使用した調査を企画した。当初は、2006 年 11 月に実施予定であったが、実施が 2007 年 2 月までずれ込み、現在調査票の回収作業中である。残念ながら、今回の最終報告書では調査結果を報告できないが、改めて別の形で刊行したい。また 2006 年度にも、日本全国のモスク調査さらにマレーシアのモスク調査を実施しており、後者の記録も今回は収録した。

この 2 年間の研究過程で、在日ムスリムが直面する子弟教育問題に関わることになり、本研究とは別に新たな調査企画に参加することになったが、今後の研究では、日本をふくめアジアのムスリム・ネットワークを視野に入れることを強く意識しつつ、研究を進めていきたいと考えている。

今回の調査研究全体については、在日ムスリムの対象者の方々、各地域のモスク管理者の方々など多くの人たちから多大なご協力をいただいた。また、突然の調査協力依頼にもかかわらず、マレーシアの東方政策元日本留学生同窓会のメンバーの方々からも多大のご協力をいただいた。改めて、これらの皆様に厚く御礼申し上げる次第である。

平成 19 年（2007 年）3 月

早稲田大学人間科学学術院

店田 廣文

第1章 日本における在日ムスリム研究の現状

－1990年以降の学術情報の検討をふまえて－

店田廣文

本章では、1990年以降の日本における在日ムスリム研究の現状を、書籍、雑誌論文、学会発表や研究会発表などの情報を整理し、研究状況の概要を記述する。

戦前日本における在日ムスリム人口の状況を捉えるのは容易ではないが、「わが国におけるイスラム研究の第一のブーム」（前嶋信次「イスラム研究ブームことはじめ－先次大戦末までの思い出」『日本とアラブ－思い出の記（その1）』日本アラブ関係国際共同研究国内委員会事務局、1980年、20頁）といわれた1930年代後半から1945年までの戦中期には国策としてのイスラーム政策の影響もあり、在日ムスリムに関する情報への関心も高かった。1931年に名古屋モスク（イスラーム寺院）、1935年に神戸モスク、1938年に東京回教礼拝堂が開設されたことから推測されるように、第二次大戦前には既にある程度の在日ムスリム人口が存在していた。阪神地方には、当時のインド人ムスリムやロシアからの難民としてのトルコ系住民をふくめ「千名近いムスリム」が住んでいたとみられる（田澤拓也『ムスリムニッポン』1998年、75頁）。また、首都圏在住のムスリムについては、東京富ヶ谷の回教学校での毎週金曜日の礼拝に「トルコ系の人々が50～60人」ほど集まっていたとの記述がある（同書、92頁）。これらの情報から判断すると、1940年代前半の在日ムスリム人口はおそらく数千人程度であったものと考えられる。

一方、現代の日本では、アジア域内からの外国人入国者数の増加とともに、ムスリムの入国者数も増加傾向にある。出入国管理政策の改定などの要因により、1990年前後に入国者数の多かったイランやパキスタン、バングラデシュをはじめとする国々からの入国者は、一時に比べ激減しているものの、インドネシア国籍の在日ムスリムを筆頭として在留人口は漸増傾向にあり、日本人ムスリムも含めておよそ10万人のムスリムが日本には在住していると言われるが、人口概数にも諸説があり、「外国人ムスリムの数は、不法滞在者を含めて20万人とも30万人」（前掲書、214頁）という数字もあがっている。いずれにしても在日ムスリムの存在感が増していることは間違いないところであり、また、現在日本各地にムスリムが集うモスクや、ハラール・ショップ（イスラームに則った食料品や日用品の販売店舗）があることが確認されていることに加えて、ネット上のイスラーム関係のホームページやエスニック・メディアなども数多くあり、雑誌や新聞などが発刊されているのが現状である。

日本における在日ムスリムを対象とした比較的大規模の社会調査として、これまでイラン人を対象とした東京大学医学部保健社会学教室による『上野の街とイラン人－摩擦と共生－』（1992年）および、筑波大学社会学研究室『在日イラン人－景気後退下における生

活と就労』(1994年)が実施され報告書が刊行されている。これらの調査は、1990年代前半という外国人労働者問題が顕在化した時期にあって、日本に流入した外国人労働者の1類型としてイラン人を対象としたものであり、在日ムスリムに焦点を当てた包括的調査とは言いがたいものであるが、日本における在日ムスリムを対象とする調査の嚆矢として特記すべきものであろう。

一方、ニューカマー外国人である、中国人、日系ブラジル人に対する調査として、奥田道大・田嶋淳子編『池袋のアジア系外国人』(1991年)をはじめ、奥田道大・鈴木久美子編『エスノポリス・新宿/池袋』(2001年)、小内透・酒井恵真編『日系ブラジル人の定住化と地域社会』(2001年)、梶田孝道ほか『顔の見えない定住化：日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』(2005年)など数多く出版され、自治体による外国人住民調査についても多数の報告書が刊行されている。したがって、在日外国人に関する調査研究が稀少であるとはいえないが、在日ムスリム研究に関しては極めて少ないのが現状である。この背景には、在日ムスリムの在留外国人人口(2005年末現在、201万人)に占める割合が5%程度であるという量的な少なさがあるが、本報告書でも言及されている在日ムスリムの「コミュニティ」の族生という現状を鑑みるならば、調査研究の量的少なさは特筆に値すると逆説的には言えよう。とはいえ、近年の研究発表の状況を見ると在日ムスリム研究が増加しつつあるというのも間違いのないように思われた。そこで、改めて近年のさまざまな学術研究情報を入手整理して、在日ムスリム研究の現状を把握することとしたのである。

下記に提示した研究の推移を検討してみると、やはり1990年代終わり頃までの取り上げ方は外国人労働者としての関心からであり、在日ムスリムという呼称よりも在日イラン人、パキスタン人、バングラデシュ人などというものである。とはいえ、その後1990年代後半になって在日ムスリムへの関心が高まり、日本のイスラーム研究や中東やアジアに関する地域研究者の間でも、日本に住んでいるムスリムを研究課題として提示するものも出てくるようになる。ただし、具体的な学術研究論文や研究発表として頻出してくるのは、もう少し後のことである。その契機の一つは、やはり「9.11」という大きな事件をあげることも出来るが、それとは別に在日ムスリムの定住化が着実に進んできたことがあげられよう。論文や研究発表のなかに、国際結婚をテーマとするもの、外国人ムスリムと日本人配偶者との関係をテーマとするものが出てくるようになったことも、定住化の現実を反映するものであろう。また一方でこれまでの移動や定住の経緯を辿り、改めて日本社会と移民の関係性を取り上げるような研究が近年に増えつつあることも特筆できよう。

これら論文や評論などで取り上げられた在日ムスリムの国籍をタイトルから判断して分類してみると、ムスリム全般に次いで、イラン人、バングラデシュ人、パキスタン人の順に多く、現在のところ在留人口が多いインドネシア人やマレーシア人などは個別には殆ど扱われていない。インドネシア人の在留資格をみると、研修・留学・就学で5千人、特定

活動（技能実習など）で7千人をそれぞれ超えていること、マレーシア人の在留資格も留学だけで2千人を超えていることなど、イラン人、パキスタン人とは異質な傾向である。ただし、バングラデシュ人には留学を在留資格とするものが多いことには留意しておきたい。国籍による論文などの多寡には、従来の外国人労働者問題研究という視点から判断すれば当然の結果ともいえるが、在日ムスリム研究という立場からみればインドネシア人などに関する在日ムスリムとしての研究も今後必要であろう。もちろん、留学生や就学生として、あるいは外国人労働者として研究対象となっているのだが、在日ムスリム研究を標榜するならば東南アジアのムスリムも対象として取り上げていくべきであろう。

今後も、在日ムスリムの存在感の高まりに準じて、在日ムスリム研究あるいは滞日ムスリム研究は増加していくことが予想されるが、本研究の継続課題としては、在日ムスリムの仕事として注目されてきたエスニック・ビジネスやその起業と展開を焦点として、社会的経済的活動とそこに機能している宗教的ネットワークを主な課題として取り上げる予定である。なお、今回の学術情報の整理に当たっては、新聞報道や週刊雑誌の記事など、またウェブ上での情報については全く取り上げていない。それらは改めて整理し検討することとする。

在日ムスリム研究：学術情報一覧（1990年以降）：

在日ムスリム研究の書籍・論文・評論・エッセイ等（刊行年順）

日本のパキスタン人労働者問題（外国人流入問題と地域〈特集〉）

深町 宏樹

地域開発（通号 307）[1990.04] p28～32

アジアから日本への出稼ぎ労働者の実態 —バングラデシュ出身者の場合

三宅 博之

アジア経済 [1990.9] 27～49

イスラム教徒留学生のお祈りと飲食生活に関する調査報告書

新潟大学教養学部社会学研究室 1990

報告 在日イラン人労働者—イラン側の事情〔含 質疑応答〕（キリスト教文化研究所共同研究「移動と定住」公開シンポジウム—移民研究をめぐる問題と方向—在日外国人の問題を中心に）

メフディ ターレブ・原 隆一

キリスト教文化研究所研究年報 (通号 26) [1992] 230～235

代々木公園のイラン人

緒方 健二

法学セミナー (通号 467) [1993.11] p10～13

日本人大学院生とイスラム教徒大学院留学生の宗教意識・行動の比較

森 永寿・杉万 俊夫

社会心理学研究 9(1) [1993.12] 22～32

日本への出稼ぎバングラデシュ労働者の実態調査

NIRA 研究報告書 [1993]

バングラデシュの海外出稼ぎ労働者

三宅 博之・長谷 安朗編

明石書店 [1993]

日本のバングラデシュ人 - 新世界の現実

ライスル・A・マハムード

アジアからみる アジアをみる (中村尚司・河村能夫編) 阿吽社 [1994] 142～169

「在日イラン人」の明暗

山岸 智子

国際交流 63号 [1994] 50～57

段階的市民権を提唱する - 在日イラン人への調査をふまえて (外国人定住の時代<特集>)

駒井 洋

世界 (通号 596) [1994.06] 122～133

日本で働く - あるイラン人青年の記録

岡田 恵美子

日本のエスニック社会 (駒井 洋編) 明石書店 [1996] 20～64

日本を漂流するバングラデシュの若者たち

若林 チヒロ

日本のエスニック社会（駒井 洋編） 明石書店 [1996] 65～92

景気後退下における在日イラン人

倉 真一

日本のエスニック社会（駒井 洋編） 明石書店 [1996] 229～252

足立区のムスリム

笹川 耕太郎

地理 41-11 [1996] 166～169

日本で学ぶアジア系外国人 - 研修生・留学生・就学生の生活と文化変容 -

浅野 慎一

大学教育出版 [1997]

関東近郊のモスクを訪ねて

桜井 啓子

PRIME（プライム） 8号 [1998.3]

越境する食文化と移民ネットワーク - 在日ムスリム移民の増加とハラール食品産業の展開

樋口 直人・丹野 清人・樋口 里華

食生活研究 19 卷 3 号、[1998.9] 4-12

アジア系ムスリム就労者のストレス対処

井上 晶子

東京大学大学院教育学研究科紀要 39 卷 [1999] 255～264

元日本就労パキスタン人労働者の移動の軌跡

五十嵐 泰正

移民研究年報 6 号 [1999] 21～41

日本の中のイスラーム教徒

駒井 洋

イスラム世界 52 [1999] 64～68

日本の南アジア系移民の歴史とその動向

南埜 猛・工藤 正子・澤 宗則

文部省科学研究費・特定領域研究(A)「南アジアの構造変動とネットワーク」Discussion paper no. 2, [1999. 7]

食文化の越境とハラール食品産業の形成 -在日ムスリム移民を事例として

樋口 直人・丹野 清人

社会科学研究(通号 13) [2000. 02] 99～131

東京モスク--在日イスラーム教徒の心のよりどころ (特集 イスラーム わが隣人たち)

裴 昭

世界(679) [2000. 9] 1～8, 98～99

外国人ムスリムと日本人女性の結婚--結婚満足度の規定要因の分析から

竹下 修子

ソシオロジ 45(2) (通号 139) [2000. 10] 55～68

外国人のイメージ--日本のマスメディアにおけるイラン人を事例に

倉 真一

宮崎公立大学人文学部紀要 8(1) [2000] 71～89

滞日ムスリムの教育問題

杉本 均

多文化教育の国際比較 (江原武一編著) 玉川大学出版部 [2000] 309～325

パキスタン人ムスリムの妻となった日本人女性の家族形成 -夫方親族との相互訪問の旅から構築されていく現代日本の異文化家族-

工藤 正子

旅の文化研究所研究報告 9 [2000] 109～121

在日ムスリム・コミュニティ

桜井 啓子

NIRA 研究報告書 文化摩擦にみるイスラム世界の虚像と実像 [2000] 29～38

日本人妻のイスラームへの適応--外国人ムスリムを夫にもつ妻の実例分析から

竹下 修子

愛知学院大学教養部紀要 48(3) (通号 129) [2001] 155～172

東京の多文化主義社会への可能性 - 在日ムスリムと食のタブーを手がかりに

真嶋 亜有

ヴェスタ 43 [2001] 41~43

“隣人たち”との「共生」を考える 日本に暮らすイスラム教徒たち (特集 イスラームと、
どうつきあうか?)

窪田 吉孝

望星 33(1) (通号 383) [2002.1] 48~53

日本に根づくムスリムとモスクの文化

中澤 まゆみ

金曜日 10-3 [2002.1] 23~25

神戸モスクで出会った人びと - ムスリムとして生きる

河 昭子・白砂 大地

部落解放 499 [2002.3] 8, 80~91

ムスレムになった日本人 (1) (2) (3)

中澤 まゆみ

金曜日 406/407/408 [2002.4] 62~64 54~56 56~58

日本の外国人ムスリム (特集 移民のエスニシティと活力) -- (日本のアジア系移民)

王 建新

アジア遊学 39 [2002.5] 137~147

イスラーム教徒における社会文化空間と教育問題

杉本 均

変容する日本社会と文化 (宮島喬・加納弘勝編) 東京大学出版会 [2002] 145~167

多民族共生社会としての日本を考える - 在日ムスリムに対する日本政府、地方公共団体、
民間の対応

片倉 もとこ・仙波 友理

総合政策研究 10 [2003.7] 209~224

滞日バングラデシュ人の職業経歴

稲葉 奈々子・樋口 直人

コミュニケーション学科論集 14 [2003.9] 89～106

滞日バングラデシュ人労働者・出稼ぎの帰結--帰還移民 50 人への聞き取りを通じて

樋口 直人・稲葉 奈々子

茨城大学地域総合研究所年報 36 [2003] 43～66

国際結婚におけるエスニシティの表彰としての宗教--外国人ムスリムと日本人女性のカップルの場合 (シンポジウム:エスニシティと家族)

竹下 修子

家族研究年報 28 [2003] 14～26

モスクの現状と展望

シディキ、M. A. R.

多文化社会への道 (駒井洋編著) 明石書店 [2003] 141～172

移住者によるネットワークの形成と崩壊: イラン人帰国者へのインタビュー調査より

森田 典子

日本の外国人、外国の日本人 (岩崎信彦他著) 昭和堂 [2003]

日本のムスリム社会

桜井 啓子

ちくま新書 [2003]

文化摩擦に関する研究ノート--来日ムスリム留学生のムスリム・アイデンティティに焦点を当てて

下峠 哲朗

淑徳大学大学院研究紀要 10 [2003] 91～110

ネットワークは国境を越えて--帰国したイラン人労働者が不動産開発を始めるまで

樋口 里華・稲葉 奈々子・丹野 清人

九州国際大学国際商学論集 15(3) (通号 26) [2004.3] 91～105

マージナル化か、ニッチ形成か--滞日バングラデシュ人の労働市場、1985-2001

樋口 直人・稲葉 奈々子
茨城大学地域総合研究所年報 37 [2004] 61～70

日本のムスリム社会
駒井 洋
中京女子大学研究紀要 38 [2004] 31～40

日本のムスリム社会を歩く
駒井 洋
イスラーム世界 (片倉もとこ他編) 岩波書店 [2004] 198～212

日本におけるイスラーム教徒の墓地と埋葬 -東京トルコ人協会と日本ムスリム協会の事例から
池田 千洋
民俗文化研究 6 [2005.8] 70～100

埋葬状況からみた在日ムスリムコミュニティ
樋口 裕二
常民文化 28 [2005] 43～69

ムスリムとして暮らすということ (特集 多文化共生社会の実現に向けて 「外国人が」日本を変える)
桜井 啓子
外交フォーラム 18-5 [2005] 28～31

イラン人来日の背景と経緯--出稼ぎイラン人の軌跡・渡日編
稲葉 奈々子・樋口 直人
コミュニケーション学科論集 19 [2006.3] 157～192

イスラミック・トラベラーズ
岡井宏文
Migrants-ネット 93 [2006.9] 14～15

日本のムスリム社会を歩く
駒井 洋

グローバル化時代の日本型多文化共生社会 (駒井洋著) 明石書店 [2006] 143～162

滞日パキスタン人のエスニック・ビジネス —中古車輸出業とトランスナショナルな親族配置—

福田友子

千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 34 コミュニティ形成におけるメディア経験と語り [2006] 117～129

在日ムスリムに関する学会・研究会発表 (発表年順)

(1) イスラム人口研究懇談会

仙波友理 (中央大学大学院) 「在日ムスリムの生活とネットワーク—埼玉県春日部市の事例を中心に—」 2002年1月21日 (国立社会保障・人口問題研究所)

山岸智子 (明治大学) 「来日イラン人をめぐる諸問題」 2002年1月21日 (国立社会保障・人口問題研究所)

福田友子 (東京都立大学大学院) 「滞日パキスタン人のコミュニティ形成—エスニック・ビジネスを中心に—」 2004年7月1日 (早稲田大学)

竹下修子 (愛知学院大学) 「外国人ムスリムと日本人女性の結婚—妻のイスラームへの適応—」 2004年9月13日 (早稲田大学)

樋口裕二 (成城大学大学院) 「埋葬状況からみた在日ムスリムコミュニティ」 2004年12月9日 (早稲田大学)

岡井宏文 (早稲田大学大学院) 「在日ムスリムの社会的ネットワーク」 2006年4月15日 (早稲田大学)

高橋陽子 (早稲田大学) 「関東大都市圏における在日ムスリム調査・中間報告」 2006年10月26日 (早稲田大学)

工藤正子 (青山学院女子短期大学・東京大学非常勤講師) 「重層的世界におけるジェンダーの再編と自己の再定義—パキスタン人ムスリム移民の妻たち」 2006年12月18日 (早稲

田大学)

(2) 日本中東学会・第18回年次大会 公開シンポジウム「日本の中のムスリム社会」
(於：東京大学) 2002年5月12日

日本におけるパキスタン人：歴史的動向 井上あえか (東京大学)

イラン人の日本体験 山岸智子 (明治大学)

日本のムスリム移民：定住化へのスペースづくり 桜井啓子 (学習院女子大学)

西ヨーロッパのムスリム移民：共生の課題とは何か 内藤正典 (一橋大学)

(3) 第78回日本社会学会大会 テーマセッション「日本のムスリム社会」
(於：法政大学) 2005年10月23日

1 日本におけるムスリム二世世代の教育問題 愛知学院大学 竹下修子

2 国際結婚とエスニック・ビジネス —滞日パキスタン人と日本人配偶者を事例として—
東京都立大学 福田友子

3 在日パキスタン人を夫とする日本人女性の家庭内役割 —宗教・ジェンダー・エスニシティの交差—
青山学院女子短期大学 工藤正子

4 マイノリティ・マジョリティ関係からみる共生の展開過程 —日本人ムスリマの生活課題とその対応を手がかりに—
清和大学短期大学部 寺田貴美代

5 埋葬状況からみた日本のムスリムコミュニティ 成城大学 樋口裕二

6 関東大都市圏における在日ムスリム調査・中間報告 早稲田大学 高橋陽子

(4) その他の研究発表

① 第79回日本社会学会大会 2006年10月28日 於：立命館大学

高橋陽子・店田廣文 関東大都市圏における在日ムスリム実態調査・中間報告

岡井宏文 在日ムスリムの諸類型 —「在日ムスリム調査」の調査結果より—

② 多文化関係学会関東地区研究会 2007年3月24日 於：慶應大学

澤田達一 イスラームとイスラーム教徒

店田廣文 在日ムスリムの生活実態と意識—関東大都市圏における社会調査より—

③ その他の研究発表

仙波友里

在日ムスリムの生活を支えるネットワーク

第 36 回日本民族学会大会 2002 年 6 月 1 日 (金沢大学)

木村真冬

公立学校におけるエスニック・マイノリティの宗教の受容：イスラーム教徒の児童・生徒の受け容れをめぐって

第 55 回日本教育社会学会大会 2003 年 9 月 20 日 (明治学院大学)

以上

第2章 モスクの設立とイスラーム組織の展開

岡井宏文

1. はじめに.....	16
2. 異郷の中のイスラーム.....	16
3. 祈りの場の誕生.....	19
3-1. 現在の状況.....	19
3-2. 誕生のプロセス ——モスクができるまで.....	22
3-3. 連帯の拡大—何がモスクの設立ラッシュを可能にしたか.....	24
4. 地域におけるモスクの発展と連帯.....	27
4-1. 施設の充実と維持.....	27
4-2. 連帯と機能的拡大.....	28
5. イスラーム組織の活動.....	30
5-1. イスラーム団体・組織の活動.....	30
5-2. タブリーギー・ジャマーアトとは何か.....	31
5-3. 宗教実践のかたち.....	33
5-4. 活動のもたらすもの.....	38
6. おわりにかえて ——イスラーム・ネットワークの誕生.....	39
参考文献.....	40

1. はじめに

日本では、1990年代初頭より、アジア諸地域からの来日人口の増加と共に、関東大都市圏を中心として、各地にモスクが設立されてきた。その多くは、その地域に居住するムスリムたちの手によって作られてきたものである。現在も、全国に位置するモスクの数は飛躍的に増加している。こうした動きを可能にしている要因とは一体何であろうか。本章は、ムスリムが持つネットワーク、とりわけモスクを基点とした地域内で形成されるネットワークに注目し、具体的な事例の分析から、この問いに迫る。モスク設立に至るまでの過程を追ひ、現在モスクがムスリムにとってどのような場になりつつあるのかという点について考察する。次に、モスクと密接な関わりを持つムスリムによって運営されるイスラーム組織に注目し、彼らの活動がもたらす影響について考察する。モスクやイスラーム組織は、果たしてムスリムたちにとって、現在どのような意味を持ち、どのような役割を持っているのだろうか。モスクを対象とした調査結果とそこで得られた語りをもとに、日本のイスラームの現在を切り取ってみたい¹。

なお、本章では、ムスリムの礼拝施設として、モスクとムサッラー（小規模礼拝施設）の2種類が登場する。個々の礼拝施設に限定して言及する際には、上記の呼称を使用するが、両方を包含して言及する際には礼拝施設という呼称を使用することとする。

2. 異郷の中のイスラーム

本題に入る前に、わが国より40年以上も早くムスリム系移民の流入を経験してきた、ヨーロッパの状況について簡単に触れておこう。ヨーロッパは、これまでイスラームなるものをその「周縁」(梶田 Nielsen)で経験してきた²。しかし、第2次世界大戦後、多くの外国人労働者を導入したことによって、多くのムスリムをその内に抱える結果となっている³。我々が、これから確認するのは、こうした外国人労働者のヨーロッパへの定着と共に作り上げられてきた、内なるイスラーム世界の状況である。

こうした、内なるイスラーム世界は、どのようにして生まれたのであろうか。ダセットは、ヨーロッパの内部におけるイスラームの登場は、彼らの生活上の局面の変化と密接に関連していると指摘する。例えば多くのマグリブ系移民を抱えるフランスの事例を参照してみよう。フランスにおける最初のモスクは1921年、パリにおいて建設が開始され、1926年に完成している (Robinson: 1999)。しかし、後発のモスク設立の動きが目立つようにな

¹ 本章における、個々の礼拝施設の具体的な事例やムスリムの語りなどの記述は、早稲田大学大学院人間科学研究科アジア社会論研究室が実施した「全国モスク調査」の一連の調査データによっている。

² 周縁におけるイスラームの経験に関する議論については、ニールセンや梶田、サイドなどを参照してほしい。

³ 各国によって、個々の事情は異なるが、旧宗主国と植民地間のつながりや、第2次世界大戦後に訪れた好景気と高度成長期、それに伴う労働力の移入などがその端緒となった。その後石油ショックに伴う労働力の受け入れが停止されたことや、それに伴う家族呼び寄せを契機として、定住化は進行してきた。各国の詳しい状況については、佐久間、Nielsen (イギリス) ケペル (フランス) ワールドンブルグ (オランダ)などを参照してほしい。

るまでには、かなりの隔絶がある。その後 1967 年にパリ北部のベルヴィル (Belleville Mosque)、1979 年にスターリングラード駅付近 (Mosque ad-Dawa)、また 1972 年には、クリシーにタブリーギー・ジャマーアト⁴系のモスクが設立されるなどの動きがあったが、最初のモスク設立から 40 年余りの歳月を必要としていることが分かる。Robinson(1999)は、こうした動向を、フランスの移民政策と関連付け、1950 年代や 1960 年代の、多くの移民労働者は、2、3 年で帰国することを志向していたため、宗教実践については「目立たないよう」行うことでも満足していたが、1973 年の石油危機による経済停滞および 1974 年の出稼ぎ労働者の新規移入差し止めを契機として、礼拝施設の設立や他のイスラーム的要素が表出しはじめたとしている。つまり、その流入が開始された初期にあっては、彼らの多くは本来の目的にもっぱら勤しむ「ホモエコノムクス (経済人)」(梶田 1996 : 118) であったのだが、石油ショックに伴う労働力の受け入れが停止されたことや、それに伴う家族呼び寄せを契機として、彼らは自らの文化を異郷のなかで表出させていったというのである。また、ケペル (1992) は、こうした要因に加え、世界規模で展開する「イスラーム復興」の動きを捉え、中でも日常生活のなかでイスラーム規範を遵守しつつイスラーム化された空間を作り出し、個人の実存を組織しなおす「下からの再イスラーム化」の動きがヨーロッパ内部においても生起していると指摘する。ケペルはこれを「良き信徒」による「不敬虔な」周囲の環境からの「脱習慣」の過程と捉え、現実的にはイスラーム的価値に沿った日常生活の枠組みの再構築が行われているとした。この認識が、ヨーロッパに暮らすムスリム全体を、どれだけをカバーするものであるのかという議論はさておき、定住化によって、異なる文化を持つホスト社会のなかで家族生活を営む上で、イスラーム的な実践はもとより、教育や社会福祉の充実が志向されるなか、こうした需要を満たすために移民がホスト社会のなかで組織した各種のイスラーム団体が多数出現する結果となっている。地域内のネットワークなどを基盤とした私的な集まりから、海外の組織に基盤を持つものまでその在り様は多様であるが、異郷における宗教基盤の整備は、こうした組織を基盤としつつ移民たちが中心となって行われてきた⁵。礼拝施設にしてもアパートの一室や、ガレージなどを利用したムサッラーのほか、ミナレットなど建築にイスラーム的要素が表出しているモスクまで確認できる。では、モスクをはじめとする礼拝施設は、移民たちにとってどのような意味を持つのであろうか。モスクの最も基本的な機能は、いうまでもなく礼拝の場としてのそれである。ただし、異郷にあって、モスクが持つ機能はこれだけに

⁴ 1920 年代半ばに、ムハンマド・イリヤースがインドで起こしたイスラーム復興運動のひとつ。礼拝などの基本的な宗教行為の日常的な実践を説き、基本的な信仰概念の学習や無償布教員の組織化を促したことに特徴がある。現在では、インド全域やパキスタン、バングラデシュといった南アジアのみならず、東南アジア、アフリカ、さらには、西欧諸国のムスリム移民社会に影響を与えている。なお政治的な動きと意識的な距離を保つことも大きな特徴である。

⁵ 移民が礼拝施設を設立するための主たる行為者となることに違いはないが、各国の状況に応じて、外部からのサポートもまた重要な意味を持つ場合もある。例えばオランダでは、オランダ人ボランティアや教会、オランダ政府の助成、サウジアラビアなど海外のイスラーム諸国からの助成、国際的なイスラーム組織などが礼拝施設の設立にあたり重要なサポート源となっている (Waardenburg 1988 : 14)。

とどまらない。ワールデンブルグによれば、移民社会におけるムスリムにとってモスクの持つ機能や意味は一般的に、①金曜日の集団礼拝などを実施する信仰の場としての機能、②共通の宗教によって結ばれていると感じる人々にとっての出会いの場としての機能、③自らが持ち込んだ文化・社会価値を継承する活動の中心としての機能、④子ども（大人）に対するイスラーム教育の場としての機能、⑤ホスト社会と異なるアイデンティティを付与する機能、⑥イスラームのプレゼンスを強調する機能に分類されるという（Waardenburg1988 : 13）。重要なのは礼拝など、基本的なニーズを満たしつつ、礼拝施設は受け入れ社会との関係性のなかで、新たな機能が付与されていることが見て取れるという点である。これまでの議論から、受け入れ社会における、ムスリム移民と周囲の環境との差異が、こうした機能の付与に繋がっていると見ることも出来るだろう⁶。加えて、こうした礼拝施設の持つ機能と西欧社会との関係性のほかに、礼拝施設とそれと密接な関係にあるイスラーム団体との関係性にも目を向けておく必要がある。ヨーロッパには、公式・非公式を問わず多くのイスラーム団体が設立されている。それらは、地域内のネットワーク、言語や、出身地、国際的なイスラーム組織の理念によって組織されるものまで様々であり、それゆえモスクは、それぞれ異なる色彩を持っている。ゆえに、一口に西欧におけるイスラームといっても、ひとつの国の中でさえその在り様は多様である。こうしたことから、同様の団体や理念によって設立されたモスクが、各地域を接合し、地域の枠を超えたネットワークを作り出すといった状況も生まれている⁷。イギリスの事例を参照してみよう。イギリスのムスリム系移民の主な出身地は、パキスタン、バングラデシュ、インドといった南アジアと、アラブ諸国、アフリカ、トルコ／トルコ領キプロス、マレーシア、イランの大きく6つのブロックに大別される（Graves1999）。中でも最大のグループは、南アジアに出自を持つグループであり、こうした人々の手によってモスクやイスラーム団体が工業地帯を中心としてイギリス内部に多数設立されている。ただし、Faustによると、各モスクや団体が行っている活動は、一様ではなく、本章でも扱うことになる、タブリーギー・ジャマーアトをはじめ、ジャマーアト・イスラーミー、アハマディーヤといった南アジアに出自を持つ活動があり、互いに「競合」しつつ独自の組織化を行っているという（Faust2000 : 143）。タブリーギー・ジャマーアトも、各地でその理念に基づいた宗教実践やモスクの設立に関与すると共に、学校の設立などの活動を行っている。

ヨーロッパに腰をすえたムスリム系移民たちによって形成されてきた内なるイスラーム世界は、受け入れ社会の環境に応じて移民のニーズを満たすプラットフォームとなり、成熟してきた。だが、その一方、第2、第3世代の誕生により、世代間のギャップが生まれるなど、再びムスリム系移民にとってのイスラームとは何かという問いもまた、彼らのなかに生起している。

6

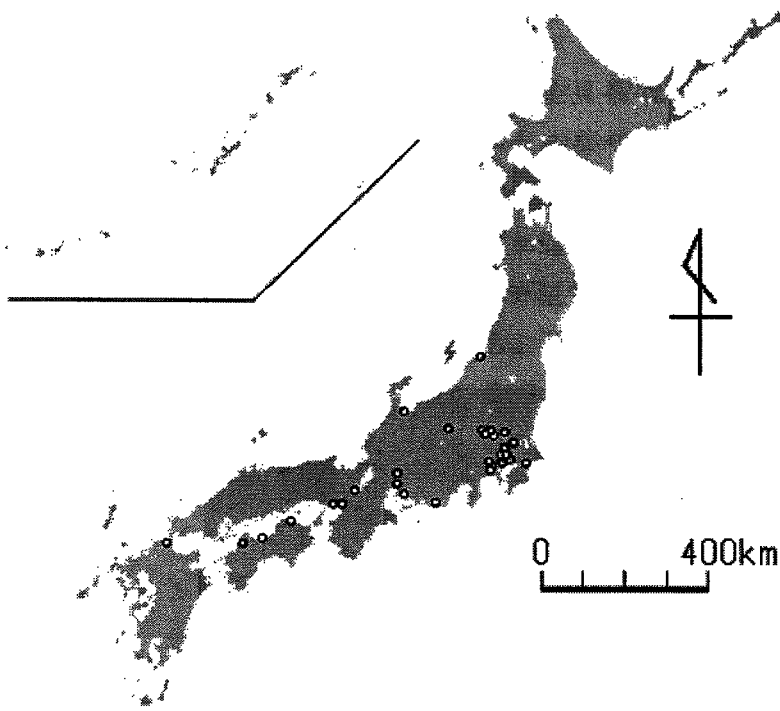
7

さて、翻って日本のイスラームは現在どのような段階にあり、何が生まれているのであろうか。以下では、とりわけ 1990 年以降のニューカマーの活動に注目しつつ、とりわけモスクとイスラーム団体の活動を出発点として日本のイスラームの状況を読み解いていくことにしよう。

3. 祈りの場の誕生

3-1. 現在の状況

最初に、現在の日本のモスクがどのような状況にあるのかイメージしておこう。そもそも日本にはどの程度モスクがあり、どのような位置関係にあるのだろうか。以下に示した図は、全国に分布するモスクを地図上にプロットしたものである（図表 1）。



No.	名称(通称を記載)	所在地	No.	名称(通称を記載)	所在地
1	つくばモスク	茨城県	21	小山モスク	栃木県
2	海老名モスク	神奈川県	22	足利モスク	栃木県
3	横浜モスク	神奈川県	23	新安城モスク	愛知県
4	伊勢崎モスク	群馬県	24	豊田モスク	愛知県
5	館林モスク(クーバモスク)	群馬県	25	名古屋モスク	愛知県
6	境町モスク	群馬県	26	名古屋港モスク	愛知県
7	戸田モスク	埼玉県	27	岐阜モスク	岐阜県
8	八潮モスク	埼玉県	28	浜松モスク	静岡県
9	一ノ割モスク	埼玉県	29	富山モスク	富山県
10	所沢モスク	埼玉県	30	坂城モスク	長野県
11	行徳モスク	千葉県	31	新潟モスク	新潟県
12	日向モスク	千葉県	32	出来島モスク	大阪府
13	白井モスク	千葉県	33	イスラーム文化センター	京都府
14	東京ジャーミー	東京都	34	神戸モスク	兵庫県
15	アラブ・イスラーム学院	東京都	35	東広島モスク	広島県
16	八王子モスク	東京都	36	新居浜マスジッド	愛媛県
17	大塚モスク	東京都	37	MICC	愛媛県
18	お花茶屋モスク	東京都	38	高松モスク	香川県
19	浅草モスク	東京都	39	福岡モスク	福岡県
20	パライ・インドネシア礼拝所	東京都			

図 1 モスクの分布状況

ここに示したモスクは、すべてが外見上モスクの形態を取っているわけではない。例えば、もともとは工場や、コンビニエンスストア、パチンコ店などの建物であったものを買収するケースや、プレハブをモスクとしているケースなどがある。その一方で、土地を購入し建築法規に則ってモスクを新たに建設するケースも存在する。最初からモスクとして建設されたものは、八王子モスク、名古屋モスク、新居浜マスジッドなどがあるが、現在のところむしろ少数派である⁸ (図 2, 3)。

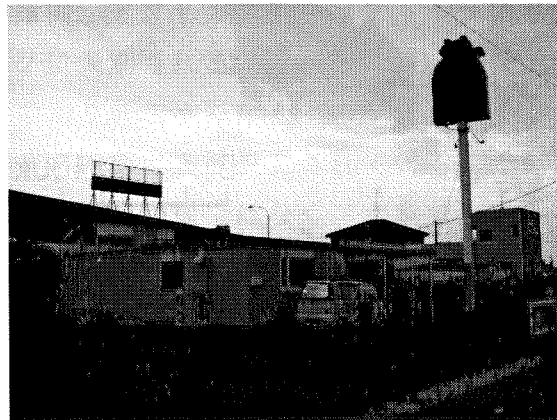


図 2 カラオケボックスを改装した岐阜モスク (筆者撮影)

⁸ ただし、伊勢崎モスクや新潟モスクのように元々プレハブをモスクとして使用していたが、プレハブを解体した後、モスクを建設するなどの動きがあるため、暫定的な区分としておきたい。



図 3 土地を購入後、全面的に建て直した名古屋モスク（筆者撮影）

図 1 を元に、モスクの位置関係とそれを取り巻く状況について、読み解いてみよう。とりわけ関東大都市圏や東海地方においてモスクの集中が見られる。現在日本には約 9 万人～10 万人のムスリムが居住している。関東大都市圏や東海地方には特に多くのムスリムが集中しているのだが、それに対応するようにモスクが存在していることがわかる。初期には、大都市内部を中心として設立されてきたが、近年は、局地的にムスリムの集中が見られる地方においてもモスクが設立されている。例えば、富山県、新潟県に 1 つずつモスクが設立されている。いずれも集中が見られるのは港湾地域で、モスクもそこに設立されている。彼らの多くはロシア人などを顧客として中古車輸出業とそれに関連する解体業などを営んでいる。詳しくは後述するが、中古車輸出業者や解体業者をはじめとする自営業者の集中とモスク分布の対応関係は、日本のモスクの設立動向を知る上で、非常に重要である。その他、およそムスリムが集住している場所には、モスクが設立されているとよい。

最近の動向として、既にモスクが設立されている地域の周辺における、新たなモスクの設立の動きがあることにも注目しておきたい。例えば、1 地方に 1 つのモスクしかなかったため、そのモスクのカバーする領域は広範囲であったが、ムスリムの集住が進み、より利便性の高い近接地域にも新たにモスクを設立しようとするケース⁹や、既存のモスクに定期的に訪れるムスリムのマジョリティが、特定の出身地、言語、思想や活動内容に規定されている場合に、その他の集団が新たにモスクを設立しようとするケースなどが確認でき

⁹ 例えば、新城モスクと豊田モスクは車でおよそ 20 分程度の位置関係にある。現在豊田モスクに通っている人々も、モスクが設立される以前は、新城モスクに通っていた。しかし、豊田市周辺にムスリムが増えたことにより、2005 年、解体業者の事務所に併設する形で新たに豊田モスクが設立されるに至っている。ちなみに両モスクとも、タブリーギー・ジャマーアトの活動に熱心であり、現在も緊密な関係にある。

る。一方、愛媛など大規模な集住地域ではない地域においてもモスクが設立されている。こうしたケースでは、当地の大学などで学んでいる留学生などが組織だって運営を行っている場合が多い。

モスクの数は、われわれが把握しているものだけで40ヶ所近くにのぼり、現在も各地で設立の動きが続いている¹⁰。そのうち、2000年以降に設立されたものは、17ヶ所に上り、あたかもモスク設立ラッシュとも言うべき状況にある¹¹。

このような動きは、一体どのようにして可能になったのであろうか。2006年現在の在留外国人統計によると、日本に居住する外国人人口の総数は、約200万人に上る。その内、外国人ムスリム人口は、全体の5%程度に過ぎない。更に言えば、彼らは、全国に分散して居住しているのであり、地域単位の人口は更に小規模なものとなる。にもかかわらず、各地でモスクは着実に設立されている。それほど人口規模が大きい外国人ムスリムではあるが、彼らはどのようにして自らの宗教的基盤を作り上げてきたのであろうか。次節では、まず、礼拝施設の設立のプロセスを見た後、上記の問いに迫っていくことにしよう。

3-2. 誕生のプロセス ——モスクができるまで

ニューカマー来日前の状況について少し触れておこう。日本にモスクが誕生したのは実は最近のことではなく、戦前にまで遡ることができる。1931年には名古屋モスク（戦災により消失）、1935年には神戸モスク、1938年には、2000年に完成した代々木上原の東京ジャーミーの前身である東京回教寺院（1984年閉鎖）が建設されている（図4）。



図4 東京回教寺院開堂式の様子（山路廣明氏提供）

¹⁰ また、ここではモスクに話しを限定しているが、モスクとは別に学校内や工場、中古車オークション会場、アパートや寮の一室などに設けられた小規模な礼拝所（ムサッラー）を加えれば、その数は更に膨大なものになる。

¹¹

その他にも、各国の大使館や、イスラミックセンタージャパン、東京バライ・インドネシア学校などが受け皿となり、礼拝が行われていた。しかし、ニューカマーの来日とその後の定住化・長期滞在化の流れによって状況は一変する。関東大都市圏をはじめとして、全国各地にムスリムが居住するような状況が生まれた。東京都内には、受け皿となり得る礼拝施設が存在しているが、それらのみでカバーすることが不可能なほどにムスリムの居住地域は広がりを見せ始めたのである。また1980年代初頭に来日したあるムスリムによれば、東京回教寺院の閉鎖も、新たな礼拝施設の設立の動きの原動力になったのだという。当時、東京回教寺院に通っていたムスリムたちは、他の礼拝施設へ移動するか、時には空き地や高速道路の高架下などで礼拝を行っていたといい、皆が集まれる場を求め始めたのだという。では、ムスリムたちは、どのようにして、各地で祈りの場を獲得していったのだろうか。

ここでは、比較的初期に設立された、東京都にあるお花茶屋モスクを例に取り、そのプロセスを見ていくことにしよう。

お花茶屋モスクは東京都に位置するモスクであり正式名称をマッキー・マスジド・トウキョウという。外見は、一見すると何の変哲もないビルのようなものであるが、壁面には緑色のペンキでミナレット（尖塔）などモスクの形状をイメージさせるような塗装が施されており、入り口にはマッキー・マスジド・トウキョウと書かれた看板がかけられている。土曜日の夜に行われる集団礼拝¹²には、東京都内はもとより、隣接する埼玉県、千葉県などからもムスリムが訪れ、常時50～100人の人でにぎわっている。現在は、安定して運営されているお花茶屋モスクではあるが、現在の状況に至るまでには、幾つかの段階を踏んでいる。

お花茶屋モスクが設立されたのは、2001年だが、その原型となる礼拝施設は1990年代初頭から存在していた。板橋区にあるアパートの一室を借りて、そこをムサッラーとして使用し始めたことがその始まりである。皆でお金を出し合い、毎月の維持費用を捻出しつつ、細々と礼拝などを行っていたのである。ところが、徐々に多くの人が集まり始めたため、より大きく、かつ賃貸という形ではない、恒久的な礼拝施設への需要が高まりはじめた。そのため、板橋のムサッラーに通っていたムスリムたちは、寄付を募り、1995年に成増にモスクとするための建物を購入している。土地選定の条件は、アクセシビリティを考慮し、駅近くであること、キブラの方角、周辺に迷惑がかからないことなどを念頭に置いたという。しかし、礼拝に訪れるムスリムの増加や、建物自体の老朽化、更には近隣住民からのクレームなどもあり、再び2000年ころから転地先を探し始めた。新たな建物の購入にあたっては、成増の建物を売却して生じた資金に加えムスリムから更に寄付を募った。その結果もともと電子機器工場であった建物が葛飾区に見つかり、約6200万円で購入し現

¹² 本来は金曜の昼に行われる礼拝が集団礼拝として、多く人が集まる。ただ、金曜日が休日でない日本において、就業・授業時間中にモスクを訪れることは難しい。そのため、金曜日に集団礼拝を行いつつも、翌日が休日の土曜日にも集団で礼拝を行うモスクも多い。

在に至っている。

この事例を見ると、モスク設立に至るまでに、概ね①小規模礼拝施設としてのムサッラーの設置→②ムスリムの集中→③礼拝スペースの拡大ニーズに伴いモスク設立という過程を経ていることが見て取れる。これは、個々の詳細な事情は異なるが、他の多くのモスクに共通するプロセスでもある。お花茶屋モスクの事例を見ても、礼拝施設の設立を目指すとき、スペースの確保という、基本的な課題から出発していることが分かる。また、礼拝施設の設立・維持に欠かせない、金銭についても、仲間内のムスリムに寄付を募ることで、自力で解決してきた状況が見て取れる。つまり、自らの宗教を実践する場を求めたとき、それを実現するために採った手段は、自分たちの手で、礼拝施設を立ち上げるという方法だったのである。

3-3. 連帯の拡大—何がモスクの設立ラッシュを可能にしたか

ムスリムに限らず、自らの宗教を移民先で実践する際の宗教的基盤の獲得の方法には大きく分けて2つのアプローチがありうる。1つは、移民集団が行為者となり、連帯を基盤としつつ自力で制度を供給するという方法であり、もう1つは、制度を供給する行為者が、コミュニティの外部に存在するケースである¹³。例えば、カトリックを信仰するベトナム系移民についてみると、彼らの信仰の場を提供したのは、日本のカトリック系教会であった（戸田 2001：119）。日曜日のミサへの参加といった日常生活における信仰の実践のみならず、定住したベトナム人のための奨学金制度など、日本カトリック教会から提供される資源を十分に活用しつつ自らの宗教的基盤を整備してきた経緯がある。またベトナム系移民や外国人ムスリムと比較して、人口規模が大きく、カトリックから日系新宗教まで多様な宗教帰属を見せている日系ブラジル人についても、プロテスタント諸派やブラジルの新宗教を除き、その宗教的基盤を整備したのはコミュニティの外部、すなわち日本人社会の教団であった（樋口 2005：223-226）。

ベトナム系移民、日系ブラジル移民共に、多くは教会など日本の組織が基盤となって宗教が整備されてきたのに対し、ムスリムはといえば、お花茶屋モスクのように、既存の日本人社会の教団への包摂は期待できず、連帯を基盤としつつ自力で制度の供給を目指さなければならなかった¹⁴。

モスクの設立に至るまでには、様々な難題が待ち受けており、目的の達成は簡単なことではない。まず問題となるのが、経済的な問題である。賃貸物件を借り上げるケースが多

¹³ 樋口（2005）を参照のこと。

¹⁴前提条件となる連帯については、幾つかの視点が提示できる。第1にイスラームの文脈に基づく連帯である。しかし、過度にイスラームを強調しすぎると、制度形成における連帯の内実を見落とすことになる。イスラームの文脈に基づく連帯が構築されるには、ムスリム自体の一定の集中がなければならぬ。ゆえに、ムスリムが集中する要因にも目を向ける必要がある。イスラームに基づく連帯に先立つ、他のネットワークへの視座である。出身地域や、職場のネットワーク、各地に分散する「学生」や「研修生」、エスニック・ビジネスに水路付けられる集団と、それにより形成されるネットワークは、その代表的なものとして位置づけられる。

いムサッラーについても、家賃などの費用が発生するが、土地・建物の購入に際しては、地域により地価や物件の相場が異なるものの、少なくとも数千万単位の纏まった額を工面する必要がある。

お花茶屋（成増）モスクより3年は早い、1992年に設立された一ノ割モスクの設立に携わり、現在は横浜でモスクの設立に携わっているシディキ（仮名）は、「当時は、ムスリムの多くが、来日間もないうえ、右も左も分からない状態で、生活も安定していない人が多かった。現在のように、ビジネスで成功した人も少なく、モスクを設立しようとするれば、ムサッラーに来ていた人たちが中心になって、皆で生活を切り詰めてお金をためる必要があった」と語る。時間的経過を念頭に置けば、1990年代初頭は、ムサッラーに集うムスリムたちを中心にした寄付行為が多く、「給料の大部分を寄付に充てるケースも多かった」のだという。しかし、近年は多少傾向が異なる。シディキは現在の状況を「昔と比べてずいぶん楽になった」と表現する。では1990年代初頭と現在とでは何が違い、シディキに「ずいぶん楽になった」と言わしめるのだろうか。各地のモスクの設立費用の工面の方法を取り上げつつ見てみよう。

一ノ割モスクが設立された当時も、現在も、ムスリムからの寄付がモスク設立の最も重要な財源であることに違いはない。ただし、寄付の募集が行われる範囲は、モスクによって異なり、地域内のムスリムからの寄付で賄うケースから、全国的に募集するケースまで確認できる。

募集のための手段としては、インターネットや電話、FAXなどの通信媒体を通じたもの、寄付を募る文書のモスクへの配布、他のモスクへ出向いてのアナウンス、個人が持つ紐帯を利用した口コミなど、ムスリムのネットワークを利用して、多様な手段が複合的に用いられる。例えば、新潟モスクは、港湾地域にパキスタン人などの中古車業者が中心となって2002年に設立されたモスクだが、彼らが採った寄付金募集の方法は、①当時ムサッラーに来ていた人たちに、口頭で呼びかける、②ムサッラーに来ていない人に口コミで伝えるといった手段に加え、③パキスタン人中古車販売組合にFAXで一斉送信して寄付を呼びかけるというものであった。

こうした手法の多くはさして目新しいものではないが、最近のモスク設立の動向と、寄付金募集の動向を特徴付ける主な要因として、①モスク自体の数の増加と、②起業により「成功した」ムスリムの増加、③イスラーム団体の活動を挙げることが出来る。

まず、①のモスク自体の数の増加に関して言えば、例えば、2006年に設立された静岡県の浜松モスクは、寄付金を募るためにお花茶屋モスクなどに、群馬県の伊勢崎モスクは、新潟モスクなど他地域のモスクを回り、寄付金を呼びかけている。各地にモスクが設立されたことで、後発地域は、寄付金募集を地域内の連帯や個人のネットワークにのみ依存するのではなく、各地のモスクを窓口とすることでより多くの人にアナウンス出来るのである。

②の起業により「成功した」ムスリムの増加とは、パキスタン人を中心として、中古車業者や解体業者などの自営業を営む各地の「成功した」ムスリムの増加によって、数百万単位の高額の寄付が見込めるという状況を指す。例えば、2006年に設立された埼玉県の所沢モスクなどは、モスク設立の資金集めに際し、富山県の富山モスクを訪れている。富山県に中古車業などを営むムスリムの集住地域があることは、先に述べたとおりだが、所沢モスクの設立メンバーは、富山モスクを窓口としつつ、こうした人々からの寄付を期待することが出来たのである。

モスク設立に動いている地域のメンバーだけで、必要な額を工面することが出来る場合は問題ないのだが、仮に必要な額を地域で工面することが難しくとも、こうした各地に点在するモスクや人を通じた資源動員が期待できるのである。モスク設立に際し、時間的にも経済的にも、地域のメンバーに、相応の努力が求められることは言うまでもないが、モスク設立のために必要になる経済的資本を動員するための経路が拡大していると言い換えてもいまいだろう。近年のモスク設立ラッシュには、こうした資源動員のために選択できる経路の拡大が密接に関連しており、これが、シディキが「ずいぶん楽になった」と語るゆえんでもあるのだ¹⁵。

③のイスラーム団体の活動についても見ておこう。現在、日本には、大小織り交ぜ様々なイスラーム団体が立ちあがっている。例えばパキスタン人有志によって結成されたICOJ (Islamic Circle Of Japan) は、モスク設立のための部門である JMF (Japan Mosque Foundation) を団体の中核部門として位置づけ、積極的に各地のモスク設立に関わっており、これまでに行徳モスク、浅草モスク、館林モスク、小山モスクが設立されている。また、JIT (Japan Islamic Trust) が運営する大塚モスクと、その支部として位置づけられている栃木県の足利モスクの設立に際しては、資金面のみならず設立のノウハウの供与が重要な意味を持ったという。

以上のような背景の中、ムスリムの祈りの場は各地で獲得されてきた。ニューカマーが設立したモスクの多くは、確かに「ムスリム」が連帯を基盤としつつ自力で供給したものに違いないのだが、近年においては、その「ムスリム」とは必ずしもムサッラー時代からのメンバーや地域のムスリムだけに限定されないということである。さほど人口が多くないにも関わらず、礼拝施設を40近く設立できた背景には、これまで見てきたような要素が絡み合っているのである。

しかし、晴れてモスクを設立した後も、ムスリムたちはモスクの更なる充実を図っている。それは、1つには物理的な充実や維持運営に関わる事柄であり、1つには、モスクの機能的な充実である。次節では、一旦視点を地域レベルに落とし、各地のモスクで、どのような形で各種の充実が図られているかについてみていこう。

¹⁵ 各モスクの詳細な職業構成や、購入費用の工面先については、岡井 2005 を参照のこと。

4. 地域におけるモスクの発展と連帯

4-1. 施設の充実と維持

物件購入後には、施設の充実と維持が重要になる。既存の物件をモスクとして購入するケースが多いことはこれまで述べてきたとおりであるが、実際にはそこから更に改装・改造を施すケースが多々ある。これは新設の場合にも共通することである。

モスクにおける改装には大きく分けて①イスラームの宗教的義務や要請に則って行われるものと、②必ずしも直接宗教的義務と関係はないがモスクの性格や方針が反映されて行われるものがある。前者の例としては水場の設置が代表的である。イスラームでは、礼拝の前に、体の清め（ウドゥー）を行う必要があるが、大抵の建物には、そうした清めを行うためのスペースは存在しない。そのためウドゥーを行うための水場を新たに設置する必要があるため物件購入後、改装が行われるケースが多い（図5）。



図5 足利モスクの清めのスペース。礼拝室入り口横の踊り場に水道管が延長されている。（筆者撮影）

それと関連して、礼拝スペースとトイレなど「不浄なスペース」の分離なども①のケースに入る。例えば、お花茶屋モスクでは、物件の購入時点では、礼拝スペースとトイレが一体になっており、購入後に区画を分離する改装を行っている。外装をモスクらしく見せるための塗装や増築、ミナレット（尖塔）の設置などもこちらに入る。後者の例としては、集団礼拝後、食事をだすモスクでは、ガス周り、水周りの設置・改造が、専従のイマームがいる場合には生活スペースの設置、また、モスクの書籍やスピーカー、PCなどの機材の充実も重要である。ミフラブ（メッカの方角を示すくぼみ）を彩るタイルや、礼拝用の帽子やマット、1日5回の礼拝の時間を示す時計、クルアーンをはじめとする書籍などは既存のモスクや、個人から供される場合もある。

一方、設立されたモスクを、維持していくことも重要である¹⁶。具体的には、光熱費や、食事を供するモスクでは食費などの出費、耐久消費財の設置、専従のイマーム¹⁷がいる場

¹⁶特に初期に設立されたモスクでは、立ち上げに携わったメンバーの殆どが既に帰国しているところもあり、如何にして、継続して安定した維持・運営を行っていくかが課題となる。

¹⁷ アラビア語で「指導者」、「模範となるべきもの」を意味する。大小の宗教共同体を指導・統率するも

合にはその生活費の捻出などが挙げられる。こうした施設の更なる充実と維持を図るうえでは、モスクに礼拝に訪れるムスリムからの寄付がとりわけ重要となる。館林モスクや足利モスクなどのように、礼拝に訪れた人々に、定期的に一定額の寄付を募るケースなどもあるが、礼拝に訪れるムスリムの属性が多様であり、収入も異なることから、多くの場合個人の自主性に任されている¹⁸。

4-2. 連帯と機能的拡大

モスク設立の初期の目的は、先に確認したように礼拝スペースの拡大や、恒久的な礼拝スペースの確保であった。設立後には、施設の物理的な充実と、維持が図られ、モスクは祈りの場としての形を徐々に（時には数年をかけて）整えてきた。そこでは、礼拝に訪れる個々のムスリムの協力が大きな意味を持っている。しかし、ムスリムの活動は、モスクの設立を達成し、維持・運営を軌道に乗せれば終わりというわけではない。先ほどのシディキによると、「礼拝の機能とは、モスクの持つ1つの機能ではあるが、礼拝以外の時間、食事やお茶の時間に交わされる会話もとても大事」なのだという。つまり「モスクは、礼拝だけではなく、日本で直面する様々な問題を共有し、解決の糸口を探ったりする集会所」でもあり、具体的には、教育に関わる問題、失業者の援助や仕事の紹介、職場の同僚や同業者がいれば仕事上の悩みなどが語られるという。この他にもシディキは、モスクでの出会いとそれに伴う連帯がきっかけとなって「ドバイでなくなった人（新潟で働いていた）の、パキスタン在住の配偶者と子どものために皆でお金を出し合いアパートを買ってあげた」ことや、「オーバーステイで入管につかまった、あるパキスタン人に対し、モスクでの合議の結果、収容期間の間仕送りが途絶えてしまう彼の母国に残した家族のために、2ヶ月間送金を行った」というエピソードを披露してくれた。アパートの購入や送金に踏み切った理由は、「両者がイスラーム的に優れた人間であり、日本に暮らす他のムスリムたちにとってもよきブラザーであったからである」という。

イスラームに対して真摯であるということ、日本で暮らしていく上で直面する問題に対して、個人ではなく、問題を共有する集団による解決法の模索を期待することができ、更には、自らが生活する上で背負っているリスクに対して、セーフティネットが敷かれているという状況が垣間見える¹⁹。

のとして位置づけられる。

¹⁸ それゆえ一定数のフリーライダーが存在するという。しかし、寄付自体がイスラームの美德でもあり、かつコストを負担しないものであっても、モスク内の役割分担に積極的に参加することで相応の貢献を果たすものもあり、現在のところ「合理的で利己的な」フリーライダーの問題は閾値以下に抑えられているという。

¹⁹ モスクがプラットフォームとなり、問題の共有と解決を図る事例は多い。シディキの語りにあるように、必ずしもイスラームとは関係のない事柄についても、解決の窓口となる。一方イスラーム的な要請に基づくものとしては、例えば愛媛県のMICCや、2006年の中ごろまで長野県の松本市にあった松本渚ムサッラーのように、近隣にハラールショップがない礼拝施設では、インターネットなどを通じてハラール食品を共同購入し、それらを皆が多少のマージンをつけて購入することで、食の問題を解決すると共に、モスクの維持費を捻出している。

ここで、第2節で取りあげた、ワールドエンブルグによる、モスクの機能についての言及を思い出してほしい。ヨーロッパにおいて、ムスリムの礼拝施設は、受け入れ社会との関係性のなかで、単に祈りの場というだけでなく新たな機能が付与されている状況があったのだが、果たして、日本のモスクにおいても、似たような状況が生まれつつある。

以上を念頭におきつつ日本のモスクは、どのような機能を持ちつつあるのかについて具体的に見ていくことにしよう。以下に、主だったモスクが、現在どのような機能を有しているかについて代表的なものをまとめた（表1）。

表1 モスクの機能

名称	設立年	金曜(土曜)礼拝	宗教法人の取得	勉強会	葬儀	子どもの教育	対外活動
一ノ割モスク	1992	○	?	○			
MICC	1994	○	△	○			
伊勢崎モスク	1995	○	△	○	○	○	○
お花茶屋モスク	1995	○	△	○		○	
浅草モスク	1998	○	△	○	○	○	
名古屋モスク	1998	○	○	○	○	○	○
大塚モスク	1999	○	○	○	○	○	○
富山モスク	1999	○	?	○	○	○	
足利モスク	2000	○	△	○		△	
高松モスク	2000	○	△				
新安城モスク	2001	○	?	○			
新潟モスク	2002	○	△	○			
館林モスク	2003	○	△				
岐阜モスク	2003	○					
新居浜マシッド	2003	○	△	○			
小山モスク	2005	○	△				

注:2005年現在。△は申請・計画中。?は現状では不明。

この表をみると、本来は備わっていなかった機能がモスクに付与されてきていることが分かる。特に設立年が早いモスクには多くの機能が備わっている。まず、最近顕著になっている活動として、宗教法人格の取得を挙げておく。現在、多くのモスクが宗教法人の取得、あるいは取得するための活動を行っている。宗教法人の取得を目指す理由は、第一に現在個人名義で登記している建物を宗教施設として定義しつつ、維持コストの削減を図るという目的の他に、例えば海外からの専従のイマーム²⁰の招聘や、ムスリムのための墓地の確保という目的とも密接に関連している。勉強会も、多くのモスクが行っている活動であるが、その内容は、クルアーンの講読から、特定のイデオロギーが反映されたものや、日本人ムスリムを対象にしたものなど、モスクによって異なる。

²⁰ 日本のモスクには、専従のイマームが存在するモスクとそうでないモスクがある。例えば伊勢崎モスクには専従のイマームがおり、彼の生活はムスリムの寄付によって成り立っている。彼は、礼拝の先導や講話を行うだけでなく、モスクを訪れるムスリムたちの生活上の問題についても相談を受けて対処するという。その意味では、イマームの存在自体がモスクの機能であると捉えることもできる。

これと関連して多くのモスクが、子どもの教育機関としての側面を持ち始めていることが分かる。現在、在日ムスリムの間には、2世が育ち始めている。彼らの親にとって、重要なことはイスラームの継承である。如何にイスラームを継承するかが具体的な問題として発生し始め、教育の場が求められるに至っている²¹。モスクで教育が行われる場合には、正規の学校の放課後や、日曜日に行われる。そこで行われるのはアラビア語の教育であり、イスラームの規範についての教育である。教育は、専従のイマームがいる場合には、イマームが担当するケースが多いが、専従のイマームがいないモスクでは、そのモスクに礼拝に来るムスリムが担当している。

ムスリムたちは、イスラームに規定されるがゆえに発生するニーズを抱えている²²。こうした状況にあって、その代表的なニーズをみたしたのもまたイスラームの文脈に基づくモスクとそこに集うムスリムであった。問題の共有と解決法の模索という点に注目して、モスクの機能について少し穿った見方をすれば、日本社会で直面する問題への対処法を検討した結果、その具体的な解決の場として、コミュニティの結節点である礼拝施設が利用可能な資源として選択されたという見方も出来るだろう²³。ともあれ、上に挙げた代表的な機能のほかにもシディキたちの問題解決の事例からイスラームという信仰が約束する連帯が、彼らが日本において直面する一連の問題に対処する回路を作り出しつつあることが伺える。

5. イスラーム組織の活動

5-1. イスラーム団体・組織の活動

これまで、モスクの設立の経緯や、連帯、機能の拡大の様相を確認してきた。日本のイスラームの輪郭を描き出すために、各地のモスクで行われている事柄について、およそ共通する事柄を中心に述べてきた。

しかし、第2節で見たヨーロッパの事例にもあったように、モスクはそれぞれ固有の色彩を帯びているし、それでいて必ずしもそれぞれが独立して存在しているわけではない。例えば、それはイスラーム団体の存在を考えると分かりやすいだろう。モスクの設立に当

²¹ お花茶屋モスクに通う1児の父でもあるアフマド(仮名)は子育ての悩みについて以下のように語っている。「私はこのとおりムスリムですから、この子もまた生まれたときからムスリムです。でも、ここではそんな人は少ないでしょう。この子は日本で暮らしているから、日本人の子供さんとも仲良くなるでしょう。でも、日本の子供さんたちは大方ムスリムではないのです。他の子がしていないことをしなければなりません。お祈りもそうですし、クルアーンの勉強もそうです。食事についてのきまりもそうです。息子は、『他の子がしていないことをなんでしなければいけないの?』という疑問を将来持つかもしれません。その時私たちは、その疑問を解決してあげないといけません。なぜなら、日本では公立の学校は政教分離ですから、自分たちの宗教にあった勉強は出来ないのです。だから、私たちはイスラームについて子供に教えないといけません」。お花茶屋モスクでは、合議の結果、日曜日に子どもの教育を大人たちが行うことを決定している。

²² 各モスクの詳細な活動内容と、機能が付与されるに至ったプロセスについては岡井 2005 を参照のこと。

²³ 大塚モスクや名古屋モスクのようにモスクの周辺に教育施設などが供給されているケースもある。

たり、前提条件として連帯が重要になることは先に述べたとおりである。職場や学生のネットワーク、言語や出身地のネットワーク、国際的なイスラーム組織の理念などを基盤として、日本でもモスクの設立や維持・運営に携わるグループが設立されている。特に活動が盛んなイスラーム団体として、第3節でも取り上げた、IC0JやJITなどを挙げることが出来る。例えばIC0Jは、現在4つのモスクとムサッラーの設立・維持・運営に携わっており、各モスクには「IC0Jのメンバー」がおり、それぞれのモスクやムサッラーでは、IC0Jの提示する活動方針が少なからず反映・共有される。また、団体に限らずとも、制度の供給に携わる集団の思想や活動内容によって、各地のモスクをある程度系統だてて（もちろん集団間の干渉もあるのだが）見ることは可能であろう。例えば、IC0JやJITといった明確に団体としてみるものの他に、必ずしも団体とは言いがたいものの、タブリーギー・ジャマーアトと呼ばれる運動がある。詳しくは後述するが、創始者の教義に基づく宗教実践を旨とするこの運動は、全国に居住するムスリムの支持を集めており、上記の2団体と並び非常に活発な活動を展開している。この運動についても各地に拠点となる礼拝施設があり、各々国籍や職業など成員の属性はそれぞれ異なるものの、理念を共有している。勿論、モスクには、仏教における檀家制度のような明確なメンバーシップは存在せず、あらゆるモスクが、ムスリムの寄る辺となる。したがって、モスクを訪れるムスリムの全てが、その方針に対してコミットするわけではないし、メンバーの流動性は考慮しなければならない。しかし、日本のイスラームについて考えるとき、各地の礼拝施設を運営する団体や運動の存在と、それらがつむぎ出すネットワークは看過すべきではない。そこで、本節では、現在全国的な広がりを持って展開するタブリーギー・ジャマーアトの活動を例に取り、礼拝施設（とその成員）の連繋と、共有される方針・活動に注目し、それがもたらすものは何かという点についてみていくことにしよう。

5-2. タブリーギー・ジャマーアトとは何か

最初にタブリーギー・ジャマーアトについて簡単に説明しておこう。タブリーギー・ジャマーアトとは、マウラーナー・ムハンマド・イリヤースによって1920年代に開始された草の根のダアワ運動に端を発する活動である（Ahmed1991：510）。タブリーグとはアラビア語で「伝道」を意味する。その活動に参加するものは、各地を巡歴し、日々の礼拝やアッラーを常に想起することなど基本的な信仰実践の重要性を説いて回る²⁴。活動に参加するために特別な知識や資格などは必要とせず、「一般の」ムスリム1人ひとりがイスラームの伝道者となり各地を巡るのである。こうした高い移動特性もあいまって、現在では、本部があるインド亜大陸地域²⁵はもとより、東南アジアや中東、アフリカ、さらにはヨーロッパやアメリカな

²⁴こうした特徴からタブリーギー・ジャマーアトは「モバイル・マドラサ」と表されたりもする。

²⁵タブリーギー・ジャマーアトは、移民社会において、しばしばその活動の起源であるインド亜大陸出身者に対する高い親和性が指摘されている。一方、それ以外の地域出身者の活動への参加は、衣服や食事、言語といった形で表出するインド亜大陸に親和性の高い文化的特性が障壁となり、一時的なものに

ども多くの支持者を持つ活動となっている²⁶。なお、ダアワとは「伝統的には、非イスラーム教徒に対する布教活動を指すが、現代ではそれとともに、イスラーム内部での「回心」の呼びかけを指すことが増えている」（小杉1996：9）。タブリーギー・ジャマーアトの活動におけるダアワ運動もまた、非ムスリムに対して行われるものというよりは、むしろ種々のモラルハザードを起こしているムスリムに対して、信仰への回帰（回心）を説くという意味合いが強い²⁷。日本における活動もまた、「布教」といった意味合いは弱く、ムスリム自身のイスラーム復興を促す側面が強い。

なお、日本において、初めてタブリーギー・ジャマーアトの活動家が訪れたのは、最近のことではない。1956年にはパキスタンより、次いで1958年にはインドからのジャマーアトが初来日をはたしている（Gaborieau：129）。1962年にはArshad Sahibが三田了一（ハッジ・ウマル・三田）と共にクルアーンの翻訳作業を行っている（Gaborieau：129）。

戦後間もない時期に、日本にはタブリーギー・ジャマーアトの活動理念に基づくムスリムがおり、日本のイスラームの中心的役割を果たしていたということになるが、その活動が再び顕著になるのは、「1992年に一ノ割モスクが設立されてからである」（桜井2003：125-6）²⁸。しかしこれまで見てきたモスク設立の経緯を鑑みるに、タブリーギー・ジャマーアトの活動自体は、それ以前から活発に行われていたと見とみなすこともできよう。活動が、再活発化した時期として、しばしば語られるのは東京回教寺院が閉鎖した後の1980年代後半におけるパキスタンとカナダからのジャマーアトのメンバーの来日である。それまで少数のムスリムがプログラムの一部を細々と実践していたが、それ以後活動は徐々に広まり、南浦和や品川にムサッラーが誕生し、一ノ割モスク（埼玉県）の設立に至っている。現在では、タブリーギー・ジャマーアトの活動が盛んな礼拝施設は全国に分布しているが、活動がとりわけ盛んなモスクとして、一ノ割モスク、お花茶屋モスク（東京都）、海老名モスク（神奈川県）、日向モスク（千葉県）、境町モスク（群馬県）、新安城モスク（愛知県）の6ヶ所を挙げることが出来る。これらはみなマルカズ（センター）と呼ばれ、各地域の活動の中心となるモスクである。また、各マルカズには、それぞれが統括している領域がある。例えば、境町モスクの領域には富山モスクなどが含まれ、新安城モスクの領域には、近隣の豊田モスクをはじめとして、西日本に点在する礼拝施設が含まれる。マルカズは、各地域においてハブ的役割を

なりやすい（Faust2000,Azmi2000：233）。日本において、比較的タブリーギー・ジャマーアトの活動に積極的に参加している国籍集団としては、パキスタン、バングラデシュ、スリランカをはじめとするインド亜大陸出身者と、インドネシア、マレーシアといった東南アジア出身者を挙げることができる。インド亜大陸はもとより、東南アジアも、タブリーギー・ジャマーアトの活動が、盛んな地域である（Cederroth1999：270）。逆に、それ以外の地域出身者の占める比率は著しく低い。これには、そもそもわが国における滞日ムスリム人口の約41～46%が、上記の国々出身者で占められているという事情を考慮しなければならないだろう（岡井2005：24）。

²⁶移民社会との関わりで言えば、タブリーギー・ジャマーアトの活動は、南アジア地域出身者やマグリブ地方出身者を中心として支持を集めたことで、西欧移民社会を中心として語られてきた（Masud2000,Sikand2000ほか）。

²⁷一ノ割モスクでの筆者聞き取りによる。

²⁸桜井,前掲書,125-126.

果たすモスクといえる。各地に多数存在するローカルな礼拝施設には、モスクやムサッラーに加えて、ムスリムが居住するアパートや、寮までもが含まれるという²⁹。では、タブリーギー・ジャマーアトは、具体的に、どのような活動を行っているのだろうか。そしてその活動は、ムスリムや礼拝施設にとってどのような意味をもつのだろうか。次項では、タブリーギー・ジャマーアトの活動の具体的な活動事例に即して、この問いへの手がかりを探ってみよう。

5-3. 宗教実践のかたち

タブリーギー・ジャマーアトは具体的な宗教実践を伴う活動である。個人が基本となるものから、集団が基本となるものまで様々だが、一連の活動は大きく分けて、移動と地域活動の2つに要素を分解することが出来る。ここでは、筆者がこれら2つの要素を兼ね備えた3日間の「アッラーの道」というプログラムに参加させてもらった際の記述を元に、タブリーギー・ジャマーアトの活動について読み解いていこう。

「アッラーの道」は、月に3日間³⁰、意識的に日々の暮らしからはなれ、居住地域とは別の地域を訪れ、イスラームの宗教実践のための時間を作るプログラム³¹である。具体的には、10人前後のグループを作り、自分が居住する地域を離れ、各地の礼拝施設に寝泊りしつつ、当地で予め決められたタブリーギー・ジャマーアトの各種のプログラムを行うのである（図6）。

²⁹ ただしこれらは、厳密に「タブリーギー・ジャマーアト系」の礼拝スペースとして定義されるわけではなく、タブリーギー・ジャマーアトの活動が行われている場所、あるいは活動を行っているムスリムが礼拝スペースのメンバーとして存在する場所という意味合いを含んでいる点に注意しておく必要がある。この点は、マルカズにも当てはまる部分がある。当然のことながら礼拝を訪れるムスリム全員がタブリーギー・ジャマーアトの活動を行っているわけではない。

³⁰ 「アッラーの道」に出る期間は、3日のほかにも、40日（チツラ）、4ヶ月（3チツラ）といった区切りがある。ただし、それ以上の巡歴も可能である。

³¹ タブリーギー・ジャマーアトの活動の決まりごとは、マウラーナー・ユースフやイナームル・ハッサン、ムハンマド・ザカリーヤらの手によって徐々に精緻化されてきたものである（Masud2000: 26）。その理念と守るべき規範はその基本的な指針は「6ポイント」として、実際の地域活動における行動の規範は、「5アマル（5つの行動）」として、具体的に提示されており、その枠組みに沿って、タブリーギー・ジャマーアトの活動は展開する（Masud2000: 21）。

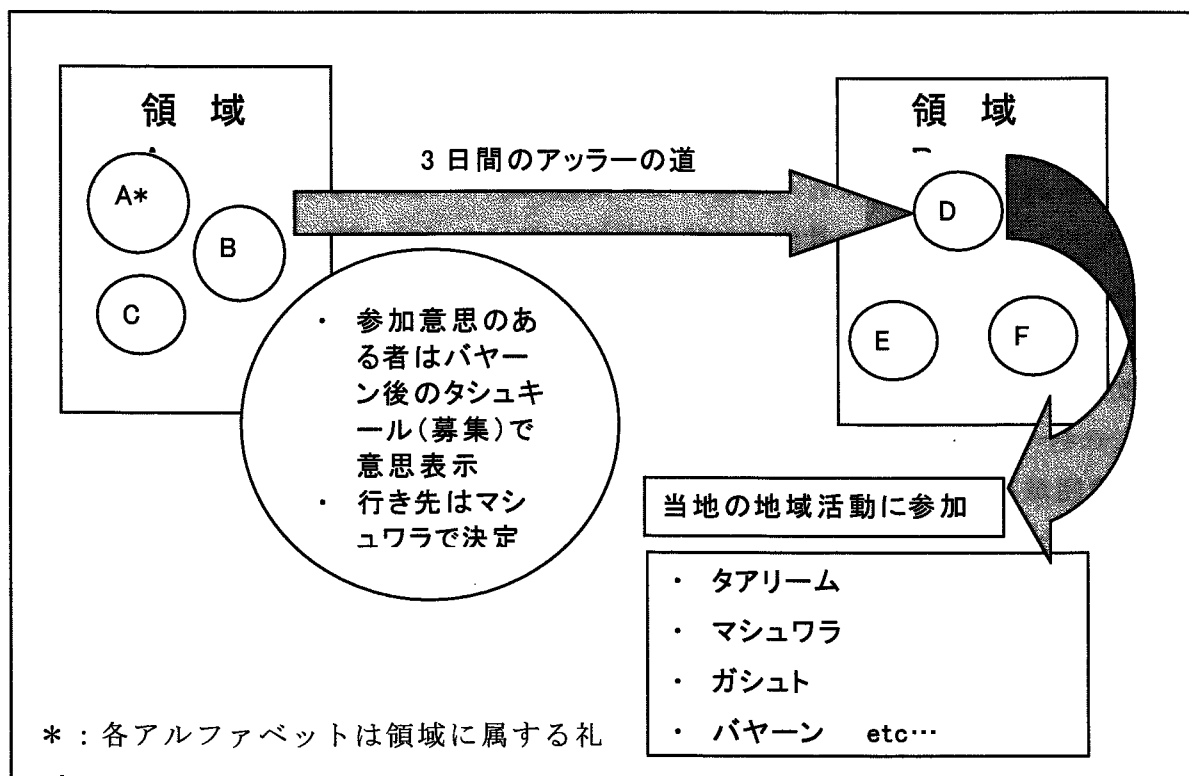


図 6 3日間のアッラーの道と地域活動の概念図

筆者が参加させてもらったのは、お花茶屋モスクから新安城モスクに向かうグループであった³²。

新安城モスクにつくと、早速ここでのプログラムがスタートする（我々のほかにも、カタール、アラブ首長国連邦からのジャマーアトが滞在していた）³³。プログラムは、基本的にいくつかの要素から構成されている。1日5回の礼拝は当然のことながら、ガシュト（ダアワのための戸別訪問）、バヤーン（講話）、ターリーム（学習）など、タブリーギー・ジャマーアトに特有のプログラムを行うのだが、ここですべての活動を紹介することは難しいので、タブリーギー・ジャマーアトの活動の特徴がよく現れているガシュトについて紹介しよう。

³² アッラーの道の行き先は、事前にマシュワラ（合議）によって決定される。参加希望者が多い場合には、1つの礼拝施設から複数のグループが出ることもある。また行き先は、必ずしもムスリム集住地域に限らない。筆者がマレーシアのクアラルンプール郊外にあるマルカズで、滞日経験を持つ元留学生に対して行ったインタビューの中で聞いたところによると、例えば新潟県の佐渡島などに事前情報すら持たずに「アッラーの道」にでたグループもあったという。ちなみに、佐渡島にもムスリムはおり、ダアワを行うことが出来たとのことであった。

³³ 3日間の「アッラーの道」自体のプログラムは、お花茶屋モスクを出発する以前から始まっている。お花茶屋モスクの礼拝室で、「アッラーの道」に参加する上での決まりごとについて説明を受けたのち、この旅のアミール（リーダー）を合議で選出する。新安城モスクまでは車での移動となるのだが、車内でもクルアーンの暗誦が行われていた。車は、お花茶屋モスクのアブドゥッラー（仮名）が、「アッラーの道」に出る我々のために貸してくれたものである。また、移動中に礼拝の時間が訪れると、サービスエリアに入り、そこで体を清めた後、礼拝が執り行われる。

新安城モスク滞在中に、我々一行は、礼拝と礼拝の合間に2回ガシュトにでた³⁴。ガシュトに出る際には、地元のムスリムがガシュトの行き先を指定する。東海地方は、関東大都市圏に次いでムスリムが多く居住している地域である。新安城モスクの周辺にも留学や研修などを目的として来日しているインドネシア人をはじめとして、パキスタン人、スリランカ人などが多く居住している。ただ、こうした人々の全てが礼拝施設に日常的に通っていたり、ましてやタブリーギー・ジャマーアトの活動に参加しているわけではない。ガシュトでは、そうした人々が住む家々を5～6人程度のグループで訪問し、基本的な信仰実践の大切さを説くのである。

地元ムスリムに案内され、ドアをノックする。3回ノックして相手が不在、あるいは応じない場合と分かった場合には、別の行き先を地元ムスリムが指示する。3回のノックは、「イスラームは、決して強制されるものではあってはならない」ので、その目安なのだという。ともあれノックを行い、相手が応ずれば、家にあがり、世間話などを交えつつ、きわめて簡略に、短くイスラームについて話す。そして、「モスクに来て共に礼拝を、勉強をしよう」と促すのである。

タブリーグ活動にコミットしている人も、モスクに来ようと促される人も、いずれもイスラーム的に必ずしも卓越しているわけではない。活動に参加する人について言えばガシュトへ出るということ、そして礼拝を促す語りを行うという行為それ自体が、自らの信仰を研鑽するという意味合いも含んでいるのだという。

3日間の「アッラーの道」は、日々の暮らしから離れ、信仰を磨くためのプログラムではあるが、その実、巡歴先での活動は、基本的には当地で行われている地域活動に参加するというものである。3日間の「アッラーの道」にせよガシュトなどの地域活動にせよ、タブリーギー・ジャマーアトの活動に参加するものにとって、これらのプログラムの持つ第1の意義とは、これまで見てきたような宗教実践を通じて、自らの信仰を守りつつ、「よいムスリム」になるという点にある。確かにそれはそうなのだが、それだけではタブリーギー・ジャマーアトが最も大規模な集団となっている要因をうかがい知るの難しいし、そもそもタブリーギー・ジャマーアトの全体像を窺い知ることが出来ない。本節では、タブリーギー・ジャマーアト活動がもたらすものは何かを探ることにあるのであり、そのためには、地域活動に加え全体像を把握した上で、改めて活動の効果について考えてみるという作業が必要だろう。そのための手がかりとなるのが、全国各地のタブリーギー・ジャマーアトの活動に参加するムスリムが一堂に会する、2つの活動である。それぞれを「全国のマシュワラ（合議）」と「カルクザリーのためのジョール（活動報告のための集い）」という。

マルカズのうち、最も早く設立されたのは、一ノ割モスクであることは先に述べたとおりであるが、一ノ割モスクは、領域内の礼拝施設やムスリムのセンターであると同時に、全国のタブリーグ運動を行うムスリムたちにとってのセンターとなっている。月に1度、第1日曜

³⁴ 1回目は新安城モスク付近、2回目は、近接する豊田モスクを訪問し、豊田モスク付近で行った。

日に、一ノ割モスクには、全国のマルカズから代表者が訪れ、タブリーギー・ジャマーアトの活動方針を決定する「全国のマシュワラ」が行われている。このマシュワラでは、各地から訪れるムスリムたちの受け入れや派遣先に関する決定などに時間が割かれる³⁵。海外からジャマーアトが訪れる際には、一ノ割モスクに連絡がなされる。月に一度の「全国のマシュワラ」の際、その申し渡しが各マルカズの代表者になされるのである。そして一ノ割モスクを基点として、海外から訪れたムスリムたちは各地のモスクやムサッラーを訪れることになる。また、日本における活動状況は、一ノ割モスクを通じて、タブリーギー・ジャマーアトの本部がある、バスティ・ニザームディンに毎月報告されている。

受け入れや派遣先に関する決定などに時間が割かれる。そのため各地域のモスクやムサッラーが、具体的に、どのように活動を実践しているのかという点については十分に知ることが出来ない。そのため全国各地で活動がどのように行われているかについて情報を共有し、活動をより良いものにしていこうという機運が高まり、2005年から、「全国のマシュワラ」とは別にもう1つの会合を行っている。会合は、「カルクザリーのためのジョール（活動報告のための集い）」と呼ばれ、2ヶ月に1回、第2日曜日に開催されており、全国から300名ほどがこの会合のために一堂に会する。開催場所は、全国のマルカズが持ちまわりで担当している。各マルカズの代表者によって、その領域のモスクやムサッラーが、日ごろのタブリーグ活動をどのように行っているかについて順に報告がなされる。報告を聞いた各地域の礼拝施設の代表者は、改善点などを質疑応答のなかで検討し、その内容を自分のモスクに持ち帰り、これからの活動に反映させるのである。

以上、タブリーギー・ジャマーアトの宗教実践の形についてみてきたが、その全体の枠組みと活動は概ね以下のように整理することが出来るだろう（図7）。

³⁵ ここでいう受け入れや派遣は、国内の事情のみに限定されない。タブリーギー・ジャマーアトの活動は、世界的な広がりを持っている。ゆえにその活動も国内の領域に限定されるものではなく、日本でタブリーギー・ジャマーアトの活動を行っているムスリムも日本人・外国人を問わず海外へ40日や4ヶ月の「アッラーの道」に出る。海外からのムスリムの受け入れと活動のスケジュールも、この会議において決定される。現在のところ、日本からアッラーの道の行き先は、世界的な活動の中心地であるインド、パキスタン、バングラデシュといった南アジア地域のほか、マレーシアやタイなどの東南アジア地域が多いようである。東南アジア地域を経由した後、南アジア地域に入るといったケースもある。

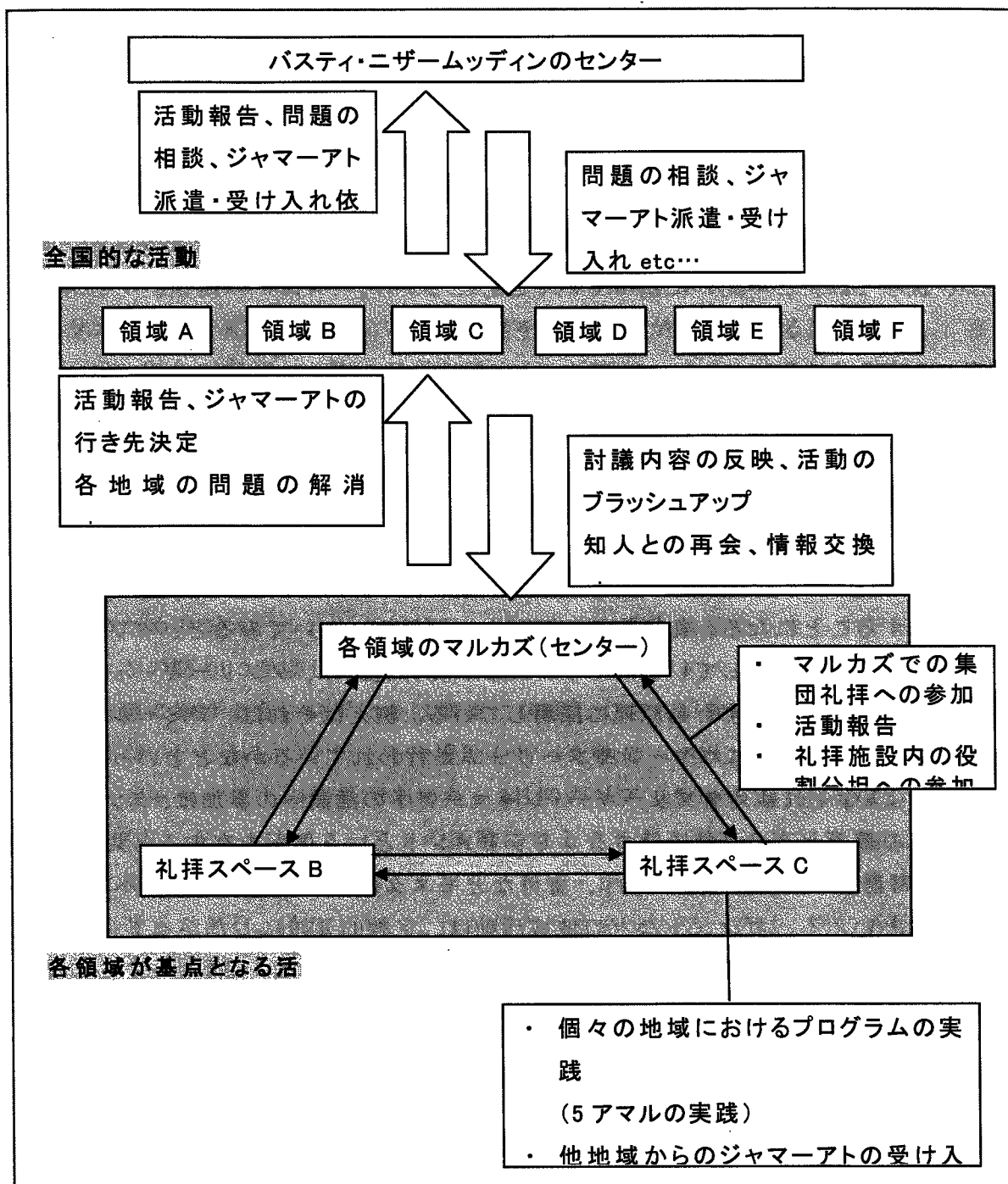


図 7 タブリーギー・ジャマーアトのネットワークの全体像と個々の領域における活動

タブリーギー・ジャマーアトの活動は、第1に自己と他者の信仰の研鑽をはかる活動であり、ガシュトなどを通じたダアワ運動を行うことで、参加者を大幅に増やしてきた。その活動は、各地の礼拝施設を基点として行われるが、各地域の礼拝施設は、それぞれが独自に活動を展開しているわけではない。各領域のマルカズが活動の中心として礼拝施設を統括する

ことは先にも述べたとおりである。また、定期的に催される全国規模の会合によって、ジャマアトのメンバー受け入れなどの役割や、各地の活動情報の共有が行われている。活動の問題点などは、こうした全国的な会合で改善点が検討されたうえで、各領域内の活動にフィードバックされる。タブリーギー・ジャマアトの活動は個人の信仰の研鑽をはかりつつ、同時に、集団的な研鑽を要求するものとなっているといえるだろう。では、こうしたタブリーギー・ジャマアト活動がもたらすものは何であろうか。これまで見てきた活動の形を踏まえつつ、次項では、この問いに迫っていくことにしよう。

5-4. 活動のもたらすもの

タブリーギー・ジャマアトの活動は、移動と地域活動の2つに要素を分解することが出来ることは先に述べたとおりである。これに即し、まずは地域活動のもたらすものについて考えてみよう。

日常的に礼拝施設に通うムスリムや、ガシュトなどによって新たに活動を開始したものなど、タブリーギー・ジャマアトの活動に共鳴するものは、礼拝施設を基点とし地域の種々の活動に参加することになる。礼拝施設と活動との関係性についてみると、タブリーギー・ジャマアトの活動に参加しているムスリムの多い礼拝施設は、タブリーギー・ジャマアトの社会的制度を少なからず行動原理に採用している。例えばそれは、アミールの選出、宿泊できるか否か、礼拝の後にバヤーンやターリームが行われているかなどといった要素を思い浮かべるとよい。それゆえタブリーギー・ジャマアトの活動への参加は、タブリーギー・ジャマアトの教義とその活動に対するコミットメントという側面を有すると共に、モスクの代表者³⁶、財務管理担当、食事当番³⁷、寄付などモスク内の制度的役割分担への包摂という側面をもつといえる。ガシュトなどの地域活動は、宗教的要請にしたがって行われるが、翻ってそれは、礼拝施設という宗教実践における基本単位である場を維持するための資源の確保にも繋がっていると考えられる。

また、それと関連して、新安城モスクの統括する領域にある、三重県の桑名市に位置する桑名ムサッラーに通うアフマド（仮名）は、こうした定期的な移動や地域内の活動がもたらすもう1つの効果を指摘する。インドネシアから研修のため来日した彼は、元々新安城モスクの近隣に居住していた。来日以前には、タブリーギー・ジャマアトの活動とは全く縁がなかったが、日本に来て、職場の同僚を通じて新安城モスクに通うようになり、徐々に活動

³⁶ タブリーギー・ジャマアトに限らず、各地の礼拝施設には、モスクの運営に携わる人物が1人ないしは複数人いるケースが多い。多くはボランティアの形で、運営に携わっている。例えばお花茶屋モスクでは、アミール（代表者）を、毎月マシュワラ（合議）によって選出している。

³⁷ タブリーギー・ジャマアトの活動が盛んなモスクでは、「アッラーの道」などといったモスクに寝泊りして行うプログラムがあることもあり、食事が出されるところが多い。こうした食事を準備するのは、受け入れ先のモスクに日常的に通うムスリムである。例えばお花茶屋モスクでは、食事を担当する幾つかのグループがあり、持ち回りで料理を行っている。

に参加するようになっていった³⁸。ところが、職場が変わったことにより、桑名市に移動することになり、桑名ムサッラーでの活動に参加するようになった。彼にとって、定期的に訪れる新安城モスクへの往訪の機会は、かつて寝食を共にしながら活動した友人や知人と再会し、旧交を温める機会でもあるのだという。彼にとって、タブリーギー・ジャマーアトの活動は、活動の結果得られた友人・知人らとの関係を維持するための手段でもあるのだ。現在タブリーギー・ジャマーアトの活動に参加しているムスリムの多くは、就労、学業、研修などを目的として各国から来日し、各地で生活する、外国人ムスリムである。彼らはこうしたプログラムの中で、礼拝施設において、寝食を共にしながら行われる活動を通し、多くの同胞と出会い、語り交流し、時に旧交を温める。活動にコミットすること自体が、日本社会で生活する上での連帯感や安定感をもたらさしめよう。アフマドは、新安城モスクに通う友人との個人的な繋がりを強調するが、これは新安城モスクと新安城モスクが統括する領域内の礼拝施設とを結び付けている繋がりのもたらす1つの効果といえる。だが、タブリーギー・ジャマーアトの活動は、本項で紹介した3日間の「アッラーの道」や全国的な会合を見ても分かれるとおり領域を飛び越え、各地のムスリムを接合する。「全国のマシュワラ」や「カルクザリーのためのジョール」もまたアフマドの言うような効果をもたらす下地となる。先ほどのシディキの語りに登場した、かつて新潟で働いておりドバイで死亡したムスリムの家族への援助を例に挙げよう。シディキは関東に居住しており、日々の礼拝などで彼と顔を合わせる機会はない。しかし、シディキや援助を行った他のムスリムと彼を結びつけたのはタブリーギー・ジャマーアトの活動であった。3日間の「アッラーの道」にせよ、全国的な活動にせよ、タブリーギー・ジャマーアトの活動にコミットする両者の礼拝施設における交流が、生み出した援助であったといえる。タブリーギー・ジャマーアトの活動自体は自己と他者の自己研鑽に還元できる。けれども、それが作り出すネットワークは、同じ活動に参加するムスリムたちを、地域の枠を越えて結びつけ、さらにはこうした問題に対処する連帯を生み出しもするのだ。

(追加)

6. おわりにかえて —イスラーム・ネットワークの誕生

本章は、ニューカマーのムスリムが中心となって作り上げてきた礼拝施設とイスラーム組織に注目し、果たしてムスリムたちにとって、これらは、現在どのような意味を持ち、どのような役割を持っているかという問いから出発し、日本のイスラーム世界の一端を描き出そうとしてきた。最後にこれまでの作業をまとめると共に簡単にこれからの課題を挙

³⁸ アフマドのように、来日前には活動に縁がなかったものの、来日後にガシュトやモスクでのダアワなどをきっかけとして活動に参加するようになるケースはしばしば見受けられる。また、筆者は、これまでマレーシアのモスクやスラウ（金曜の集団礼拝を行わない地域の礼拝施設）で、タブリーギー・ジャマーアトの活動に参加する滞日経験のあるムスリムに数人に遭遇しているが、彼らは日本で活動に目覚めた後、帰国後も活動を継続しているのだといい、あたかも滞日を契機として活動を輸出されるようなケースもある。

げておこう。

彼らが各地でモスクないしムサッラーを設立するにあたり、その原動力となったのは、ムスリムたる彼らの職場や学生のネットワーク、エスニック・ビジネスのネットワーク、言語や出身地のネットワーク、イスラーム団体・組織のネットワークなどが、時に重層的に重なり合いながら生み出す連帯である。連帯を基盤として設立されたモスクは、地域では、ムスリムたちの結節点となり、日本において直面する一連の問題に対処する回路ともなりつつある。更にイスラーム組織による組織化などを背景としてモスクとモスクも繋がりがあ、人や、モノの移動が相互的に行われ、地域の枠を越えた連帯を生み出しもする。

こうした事例から「日本には、ムスリムの持つ種々のネットワークが基盤となり、相互扶助的な役割を果たす制度が供給され、かつネットワークが形成されており、イスラーム・ネットワークが誕生している」と論を帰結することは簡単である。だが、日本において現在のような状況が生まれて、まだ間がない。設立されたモスクの機能にせよ、タブリーギー・ジャマーアトの活動にせよ、礼拝施設によってその成熟度もまちまちである。さらに、現在もモスク設立は各地で続いているし、モスクの設立コストが下がったことで、モスクのカバーする領域も、より細分化される傾向にある。特定の国籍、言語、思想や活動内容などを規定要因として、モスクが比較的狭い領域内に分立するケースが最近のモスク設立動向の特徴になってきていることから伺えるように、モスクや各種イスラーム組織の「分立」も今後顕在化してくる可能性がある。その意味で、現在も日本のイスラーム世界は形成過程にあるといえ、「イスラーム・ネットワーク」は、今後再編成を経験しつつ変容を遂げていくことになると考えられる。

参考文献

- Dassetto, Felice., 1988, "The Tabligh Organization in Belgium ", T. G. Y. G. Lithman ed., *The New Islamic Presence in Western Europe*.
- Cederroth, 1999
- Gaborieau, 2000
- Haddad, Y.Y., 2002, *Muslims in the West -From Sojourners to Citizens-*: Oxford University Press.
- Masud, M.K. (ed.), 2000, *Travellers in faith: studies of the Tablighi Jama' at as a transnational Islamic movement for faith renewal* :Brill.
- Talha, M., 2005, *Tableegh Manual (Tarteef of Dawat)*: IDARA ISHA' AT-E-DINIYAT.
- Mumtaz Ahmad., 1991, "Islamic Fundamentalism in South Asia: The Jamaat-i-Islami and the Tablighi Jamaat," Marty, Martin E. and R. Scott Appleby (eds.). *The Fundamentalism Project*. : University of Chicago Press.
- Nanji, A., 1996, *The Muslim almanac : a reference work on the history, faith, culture,*

- and peoples of Islam*: Detroit, MI, Gale Research.
- Nielsen, J., 1992, *Muslims in Western Europe*, Edinburgh University Press.
- Sikand, Y., 2000, *The Origins and Development of the Tablighi-Jama at (1920-2000) A cross-country comparative study*, : Orient Longman.
- Waardenburg, j., 1988, "The Institutionalization of Islam in the Netherlands, 1961-86", op.cit.,
- Westerlund, D., Svanberg, I., 1999, *Islam Outside the Arab World*, Curzon Press.
- ケペル, 1992, 『宗教の復讐』, 中島ひかる訳, 晶文社
- 奥田道大, 2004, 『都市コミュニティの磁場—越境するエスニシティと 21 世紀の都市社会学』, 東京大学出版会
- 梶田孝道, 1996, 『国際社会学のパースペクティブ』, 東京大学出版会
- 梶田孝道・丹野清人・樋口直人, 2005, 『顔の见えない定住化』, 名古屋大学出版会
- 金光淳, 2003, 『社会的ネットワーク分析の基礎 社会的関係資本にむけて』, 勁草書房.
- 桜井啓子, 2003, 『日本のムスリム社会』, ちくま新書
- 店田廣文, 2002, 「イスラーム世界の将来人口」 『統計』, 53:3.
- , 2005, 「戦中期におけるイスラーム研究の成果—早稲田大学イスラーム文庫の分析—」 『平成 15 年度～平成 16 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書』, 早稲田大学人間科学学術院アジア社会論 (店田廣文) 研究室
- 中田考, 2001, 『イスラームのロジック -アッラーフから原理主義まで-』, 講談社
- 樋口直人・丹野清人, 1999, 「ハラール食品産業の研究—日本におけるイスラーム食文化の定着」 『食文化助成研究の報告』, pp53-59.
- 福田友子, 2006, 「滞日パキスタン人のエスニック・ビジネス—中古車輸出業とトランスナショナルな親族配置」, 桜井厚編, 『コミュニティ形成におけるメディア経験と語り (2004～2006 年度) 社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』 千葉大学大学院社会文化科学研究科

第3章 マレーシア・モスク調査

北爪 秀紀

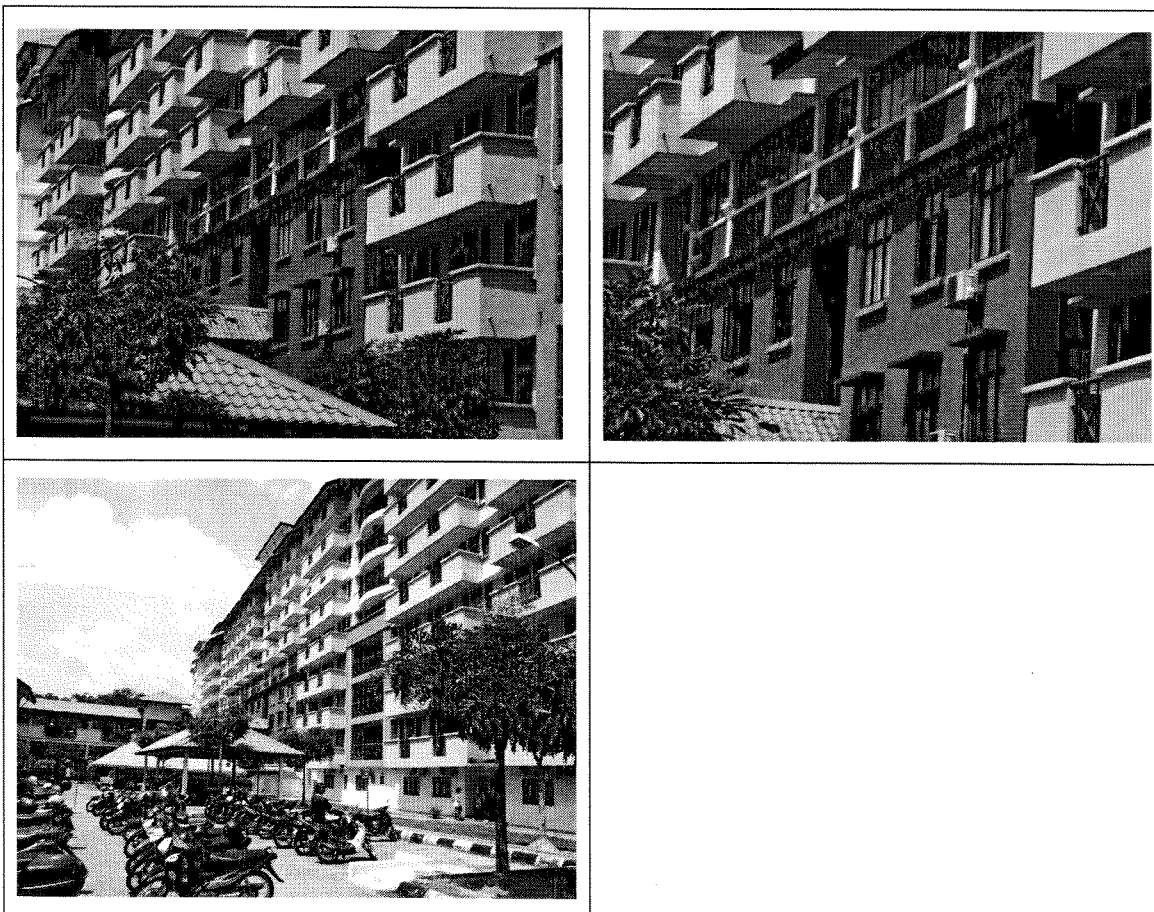
本章では2006年11月に実施したマレーシアのクアラルンプール市内のモスクとスラウの解説を中心に記述していく。マレーシアは東南アジア有数のイスラーム国家であり、市内のあちこちにモスクやスラウが点在している。しかし現地のモスク／スラウに関する解説は日本では乏しい。とはいえ限られた時間内に市内のモスク／スラウを網羅することは不可能であり、今回の内容はあくまで大きな全体像の限られた一部を取り扱ったに過ぎないということを強調したい。ともあれ、この調査が僅かでも現地のモスクの実情を理解するうえでの助けになればと思う。

1. クアラルンプール市内のモスク／スラウ解説

2006年11月22日

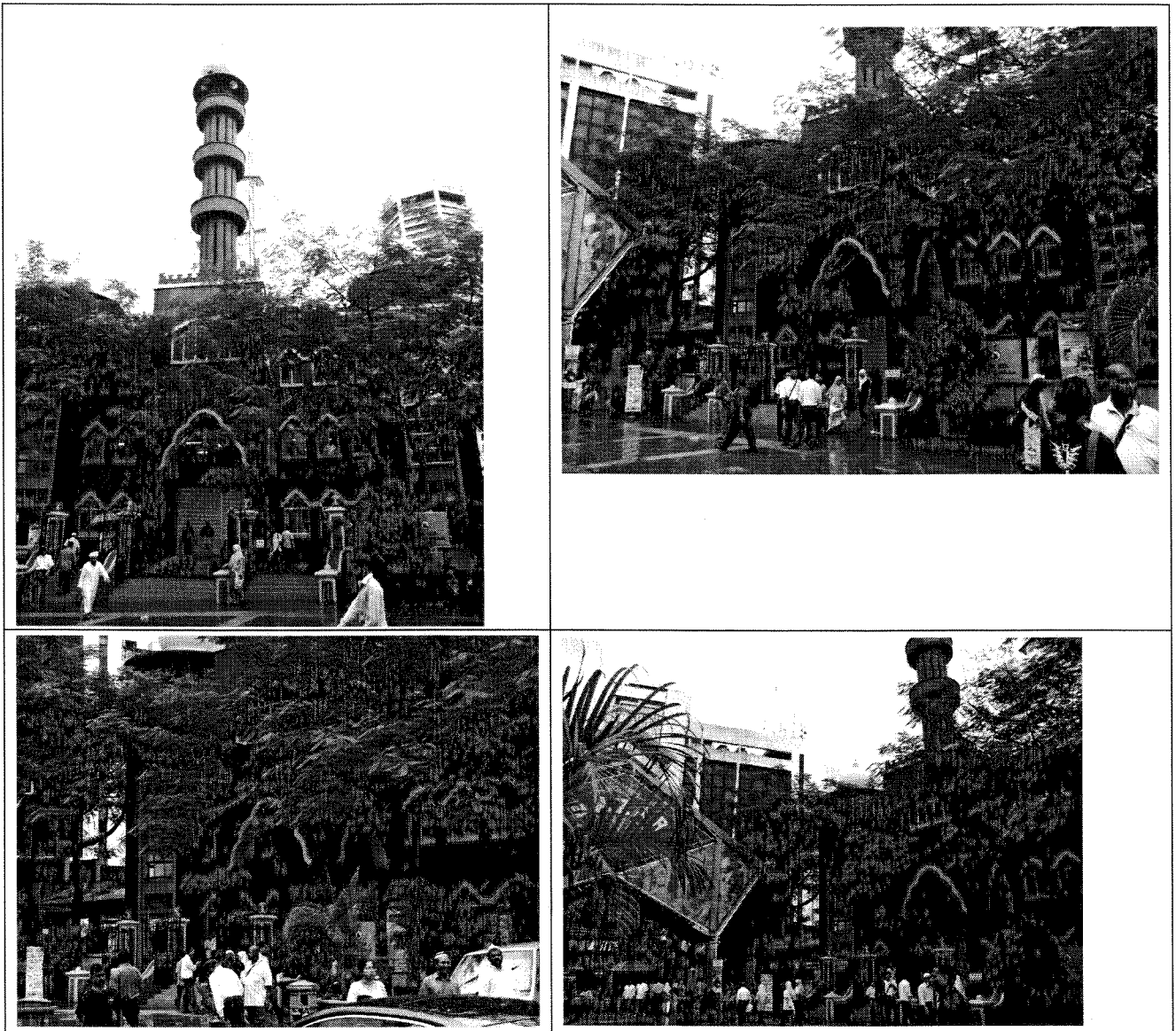
マラヤ大学の寮内のスラウ

マラヤ大学の寮内、3階に設置されたスラウ。以前日本のタブリーギー・ジャマーアトの参加者が予科留学生にバヤーン（講話）をしたという。20～30人が集まるといふ。

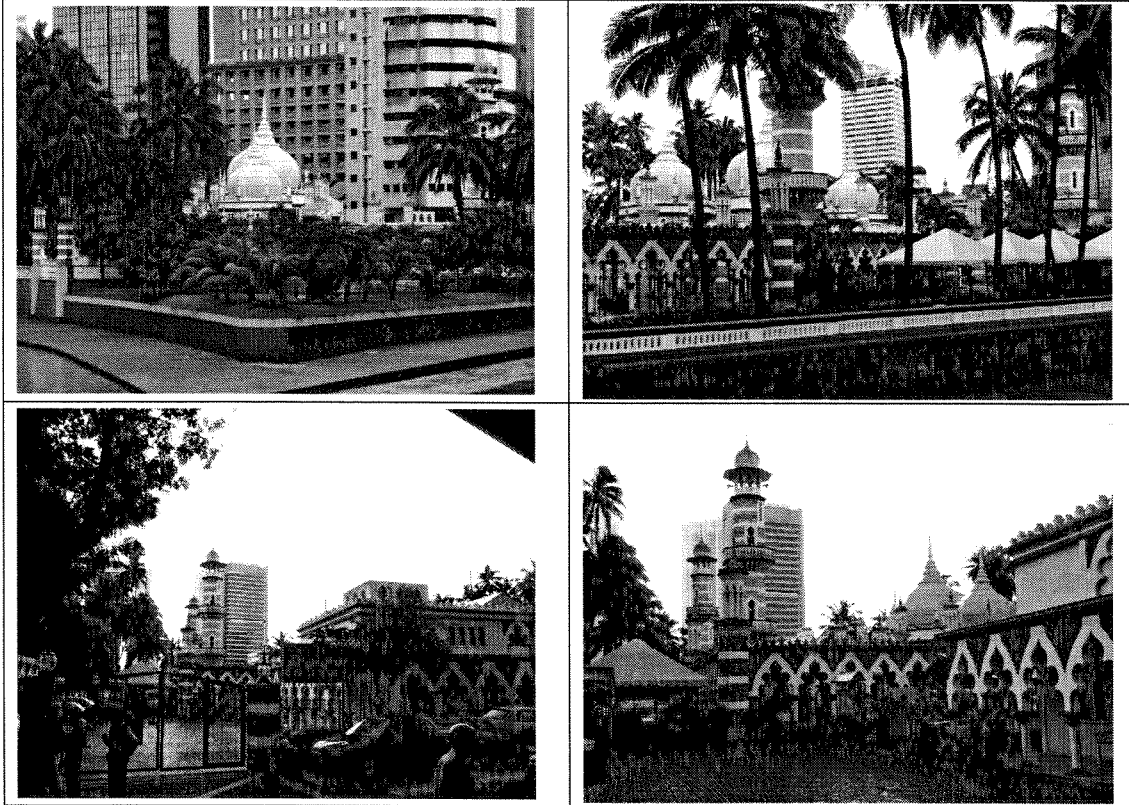


Masjid India

ショッピングモールに隣接したモスク。後述する Masjid Jame の近くにある。スリペタリンマルカズの前身で、1992 年頃まではマレーシア国内のタブリーギー・ジャマーアトのマルカズだった。

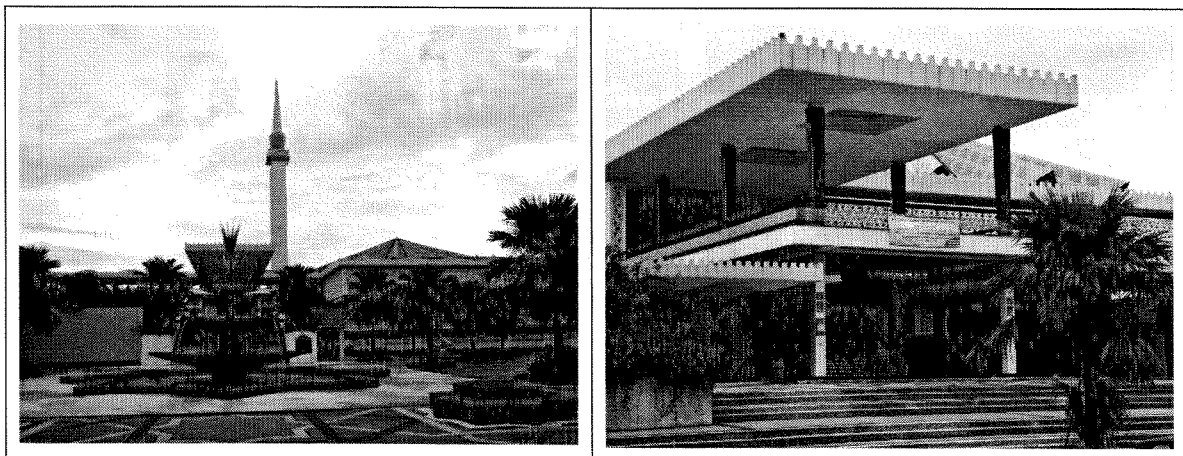


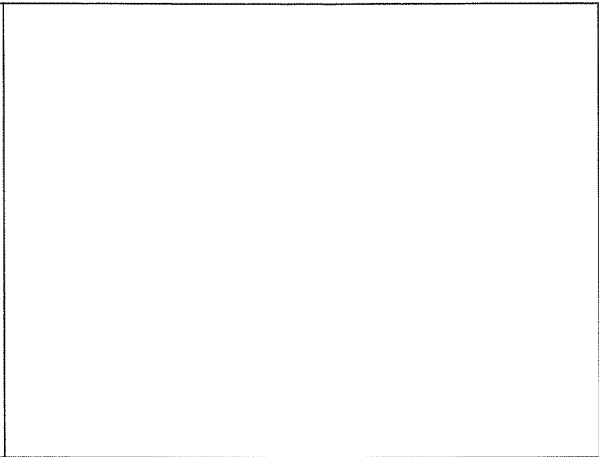
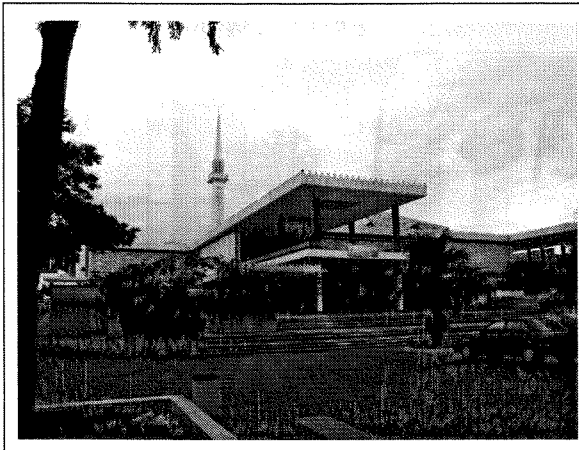
Masjid Jame



Masjid Negara

国立のモスク

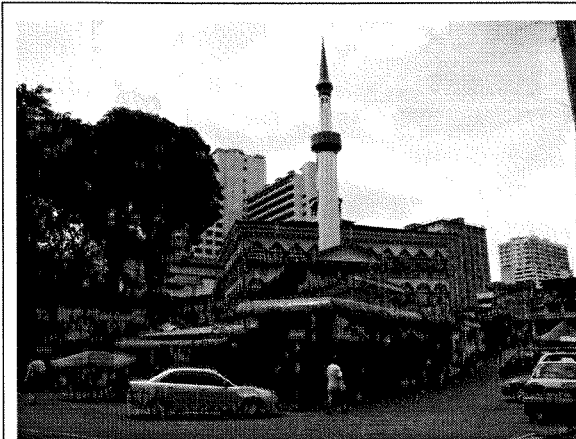


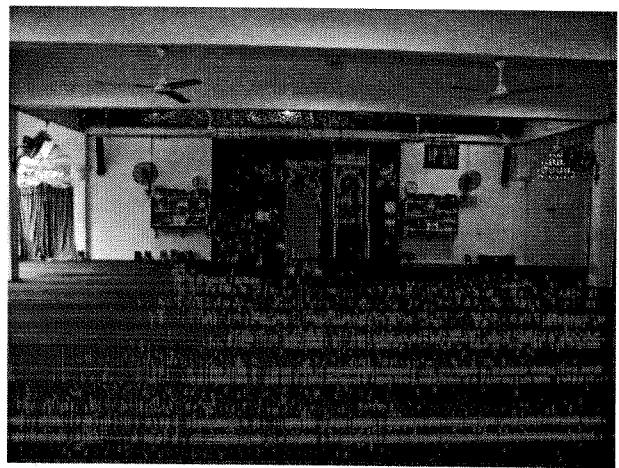
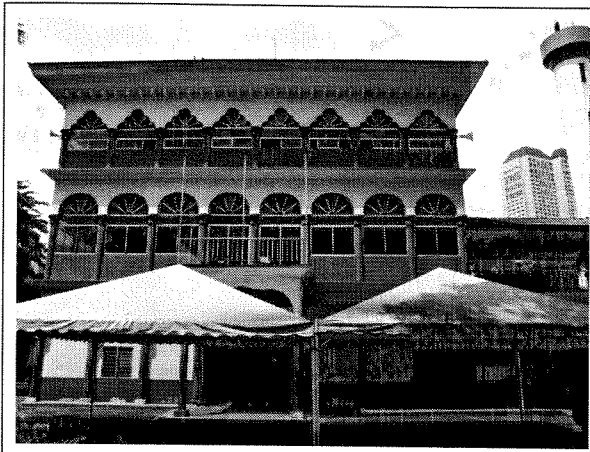


2006年11月23日

Masjid Jamek Pakistan

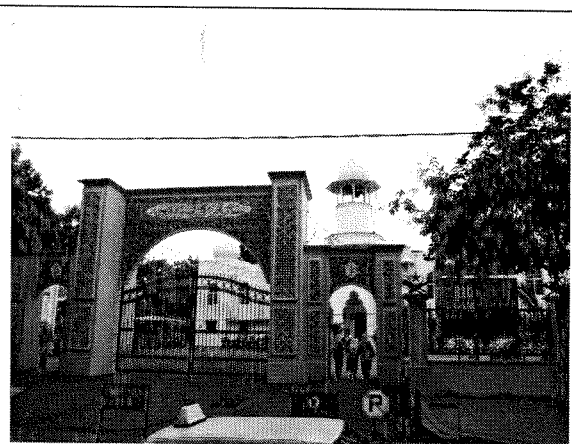
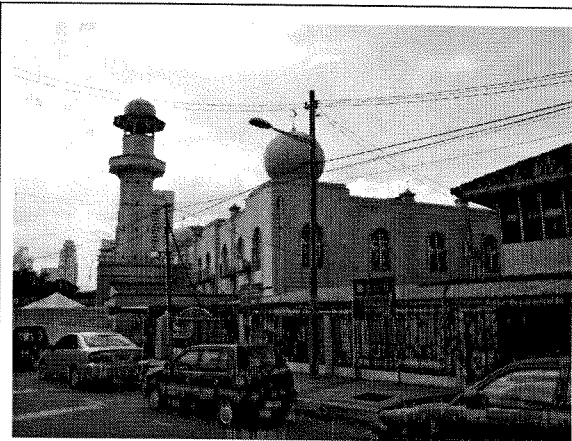
パキスタン人が中心となり 1963年に設立されたモスク。金曜の礼拝には2000人程が訪れ、そのうち500人程がパキスタン人。設立に際し国からの援助は無く、パキスタン人からの寄付金だけで建設されたという。近隣にはウルドゥー語を掲げたレストランなどもある。





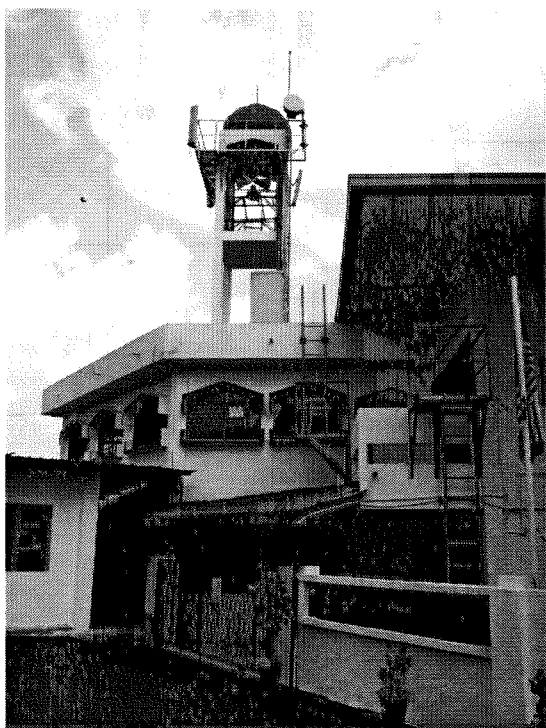
Tadika Islam Masjid Jamek Kampong Baru

Masjid Jamek Pakistan から徒歩 10 分の距離にある、大きなモスク。マドラサが併設されている。



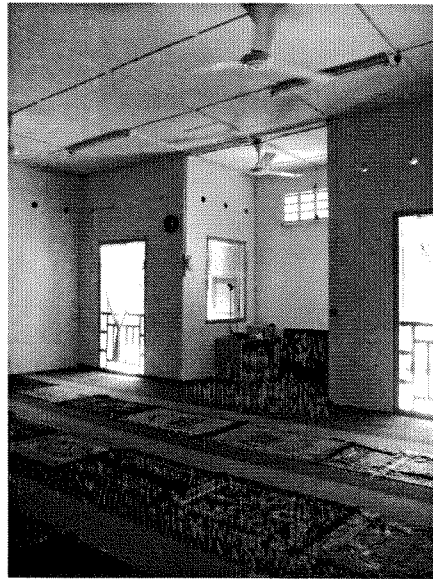
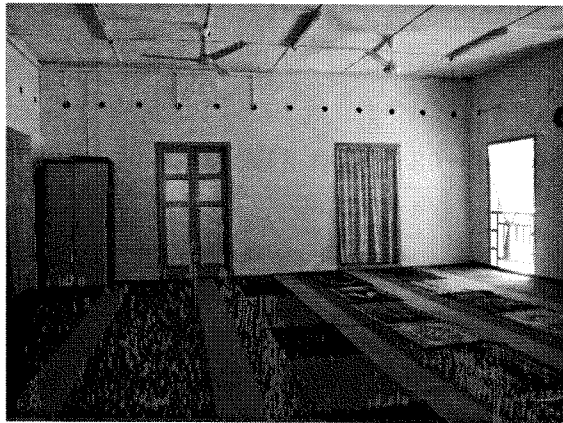
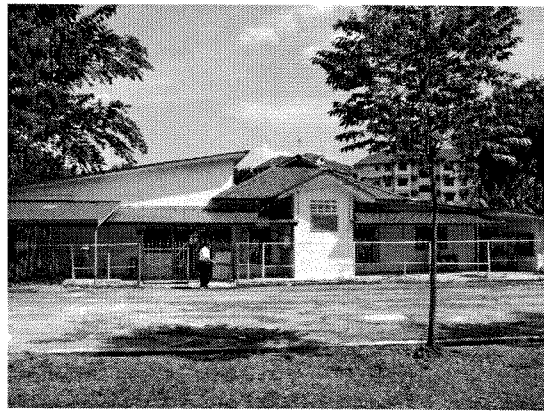
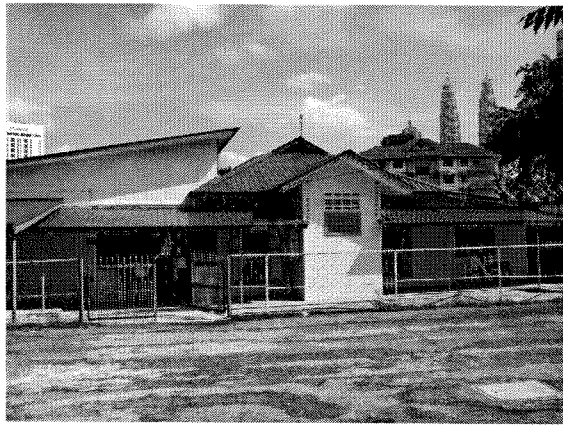
Madrasah Rajaiyah (Surau Jawa)

住宅街の路地にあるマドラサ。スラウが併設されている。



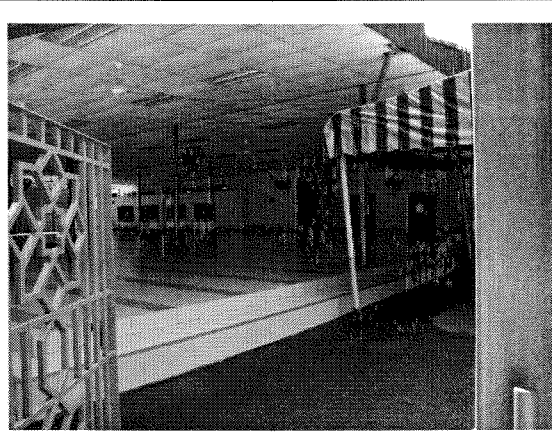
Madrasah Baqiyatus Soliyat

クアラルンプール・ホスピタル付近の団地にあるスラウ。マドラサの名称だが、訪れる人達の認識はスラウであった。後述するクアラルンプール・ホスピタル内に大きなモスクが建てられたため、金曜礼拝などはそちらで行う様になったからという。



Masjid Ami-Issyifa

クアラルンプール・ホスピタル内のモスク。病院関係者や患者などが礼拝に訪れる。



Surau Al Hijura

プトラジャヤのスラウ。後述のZ氏の自宅横にあり、住宅地の一角に位置する。住宅地はほぼ同じ外観で、一社が住宅地全体を計画・建設したという。400世帯が集まり、住人は皆マレー系でムスリム／ムスリマであるという。スラウの形状や材質が住宅と同様であるため、スラウも住宅地建設の計画段階の時点から盛り込まれていたようである。

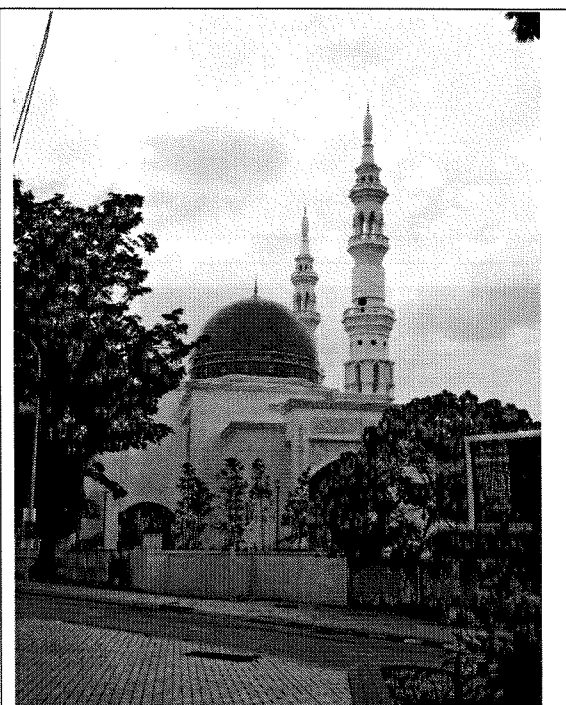
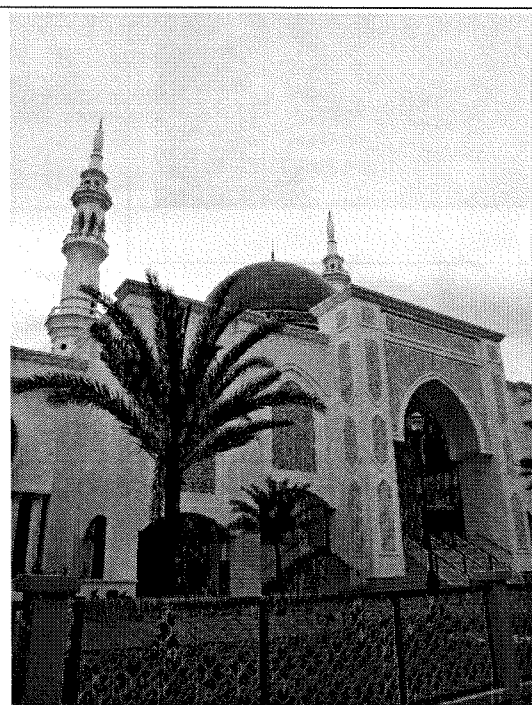


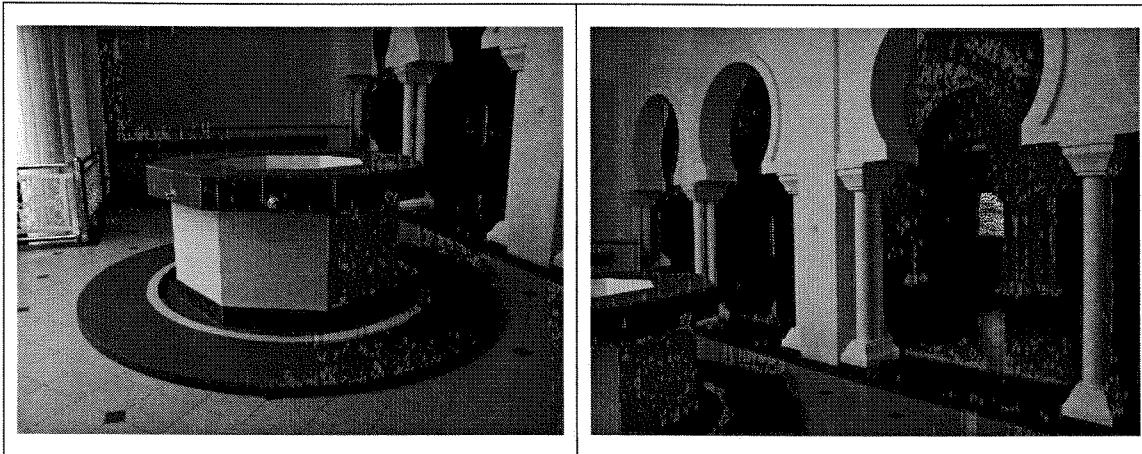


2006年11月24日

Masjid Al-Sunnah

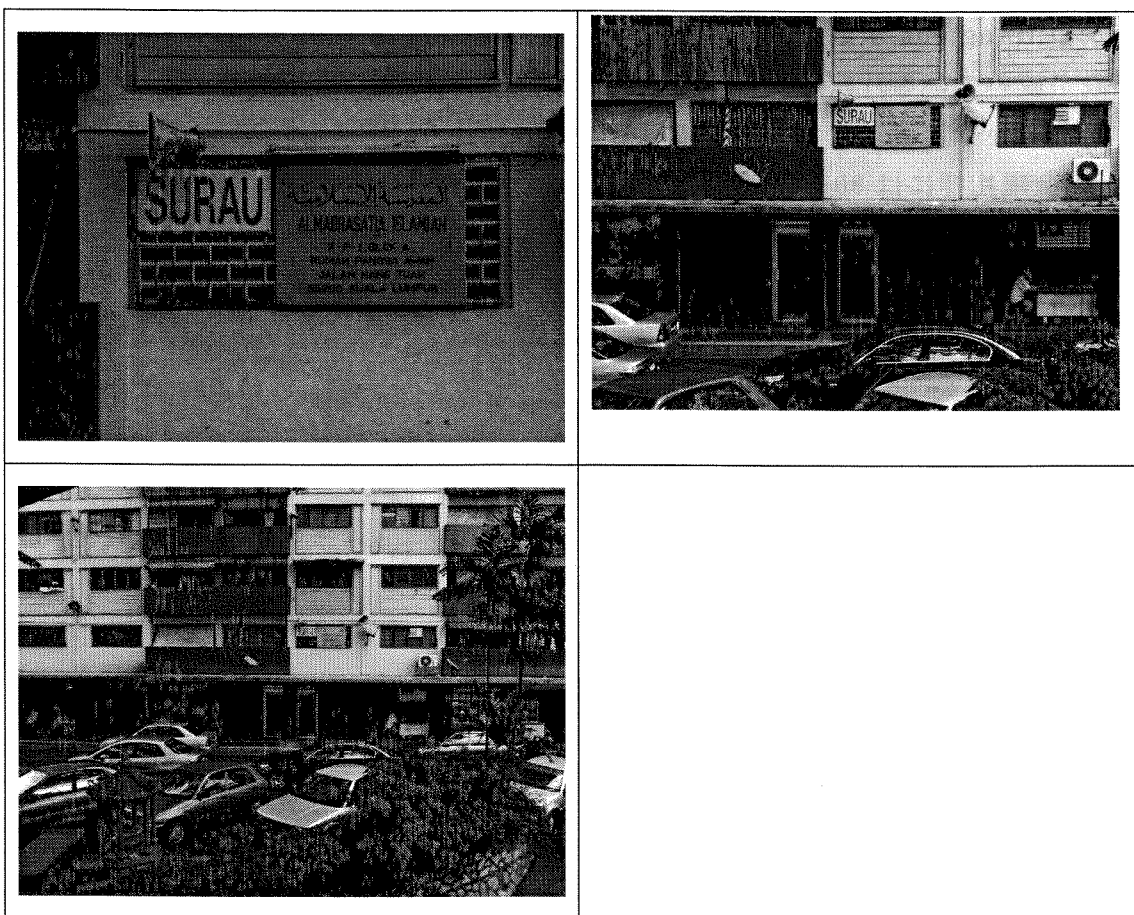
モノレールの Hang Tua 駅近くに位置する。ムスリム墓地に隣接している。現在もドーム部分の建設が続いている。政府からの資金援助は無く、Tan Sri Al-Bukhary 氏が土地・建物を寄付したという。また氏はモスクで毎日夕食も供しているという。通常の礼拝時には 20-30 人、金曜礼拝には 80-100 人が訪れる。





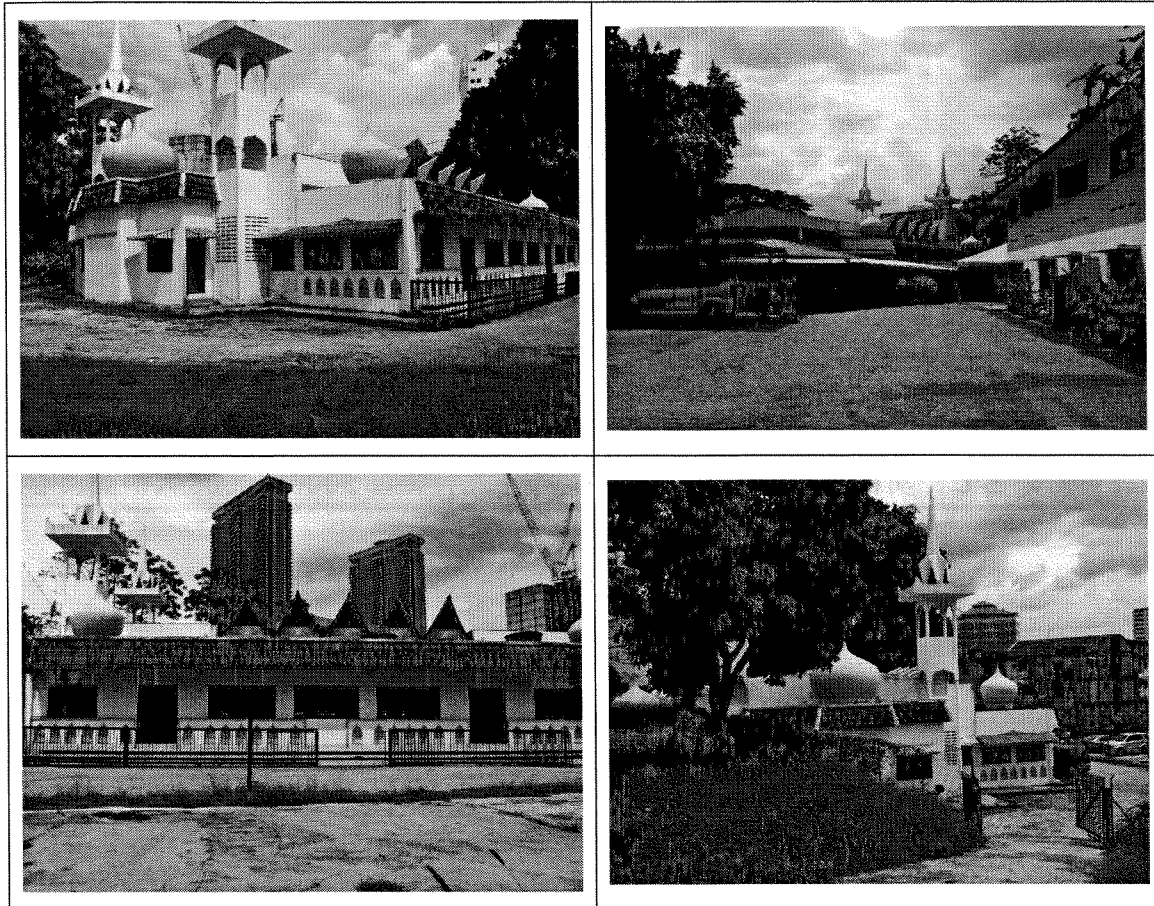
Al-madrasatul Islamiah

前述の Masjid Al-Sunah と通りを挟んで反対側のマンション一室に設けられたスラウとマドラサ。



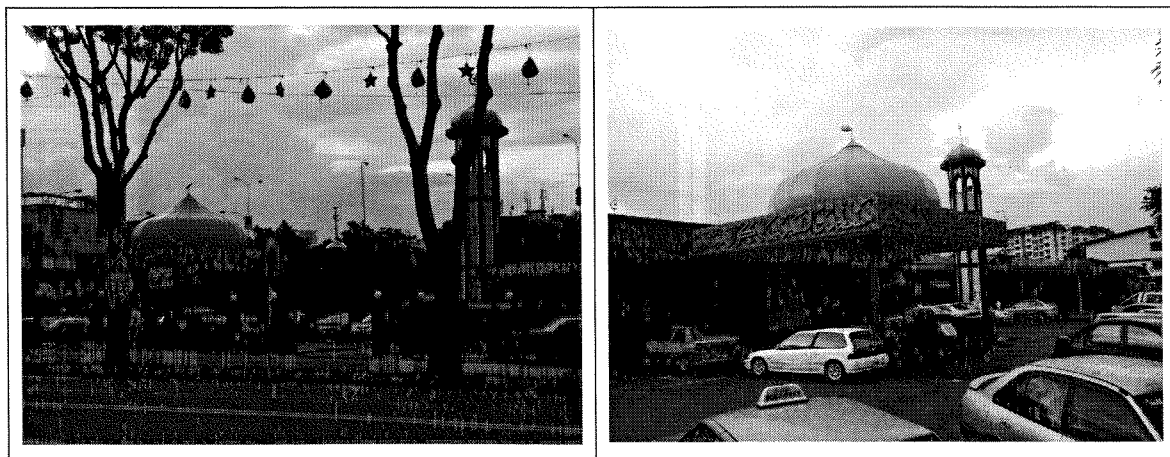
Surau An-nur

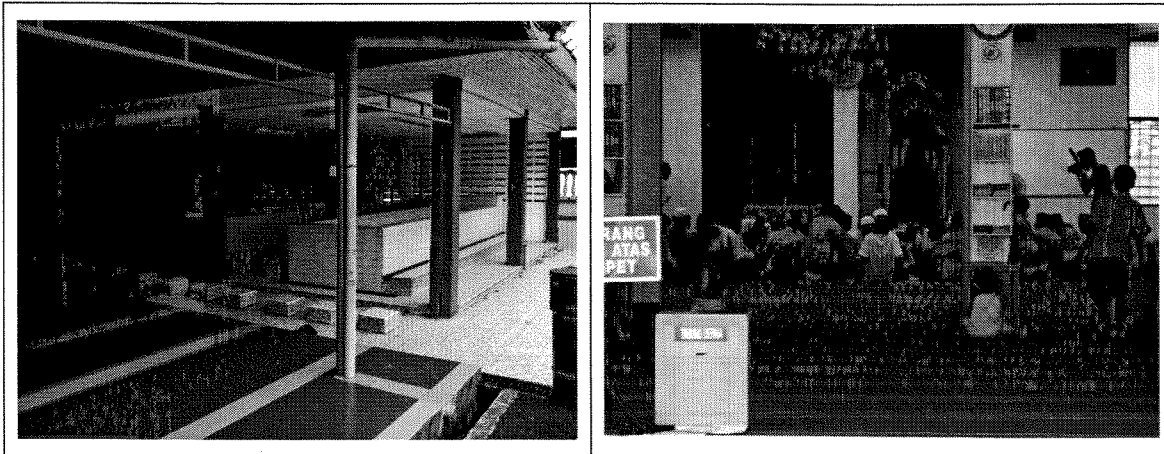
旧プドゥ刑務所跡地に隣接したスラウ。イマームが居住・作業するスペースが併設されている。



Masjid Jame' Alam Shah

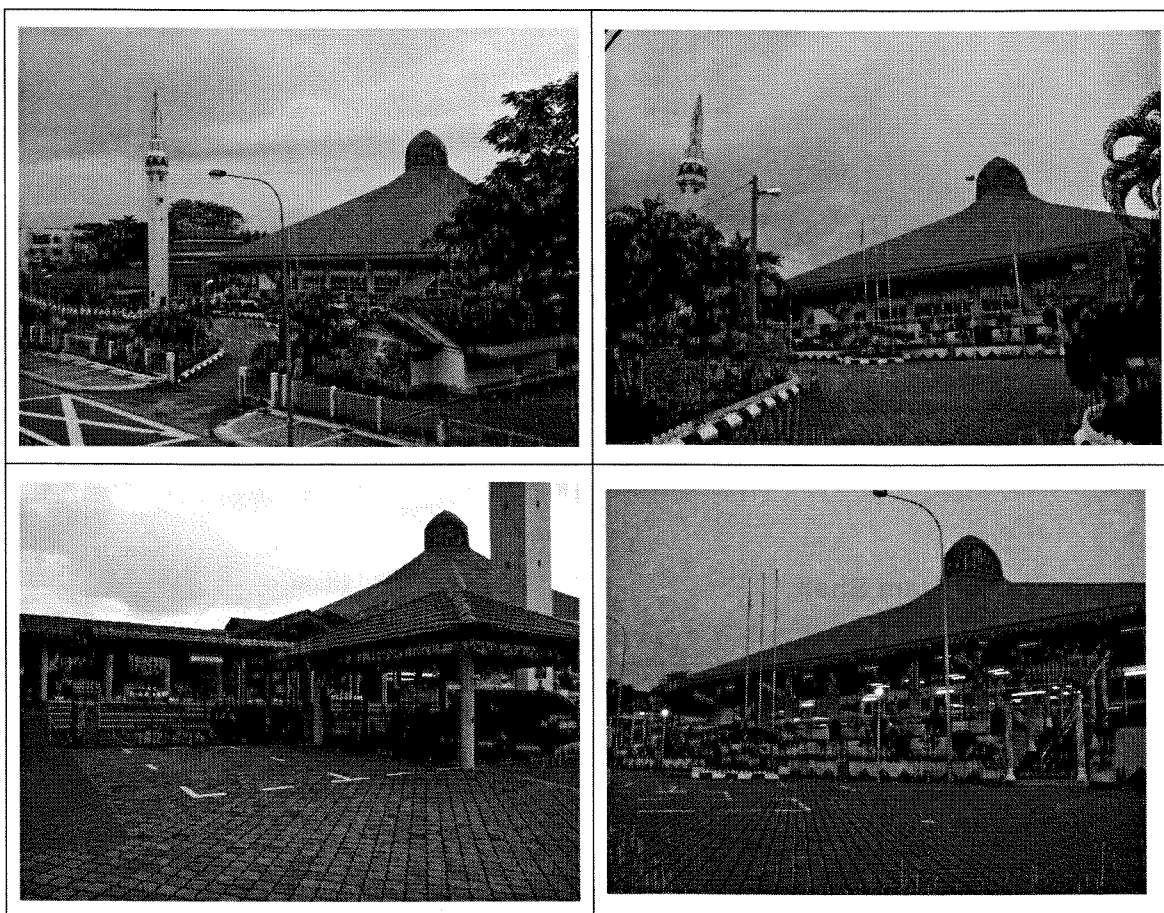
大通りに面したモスク。結婚式なども行われる（訪問時にも結婚式が行われていた）。





Masjid Al-Imam Ash Shafie

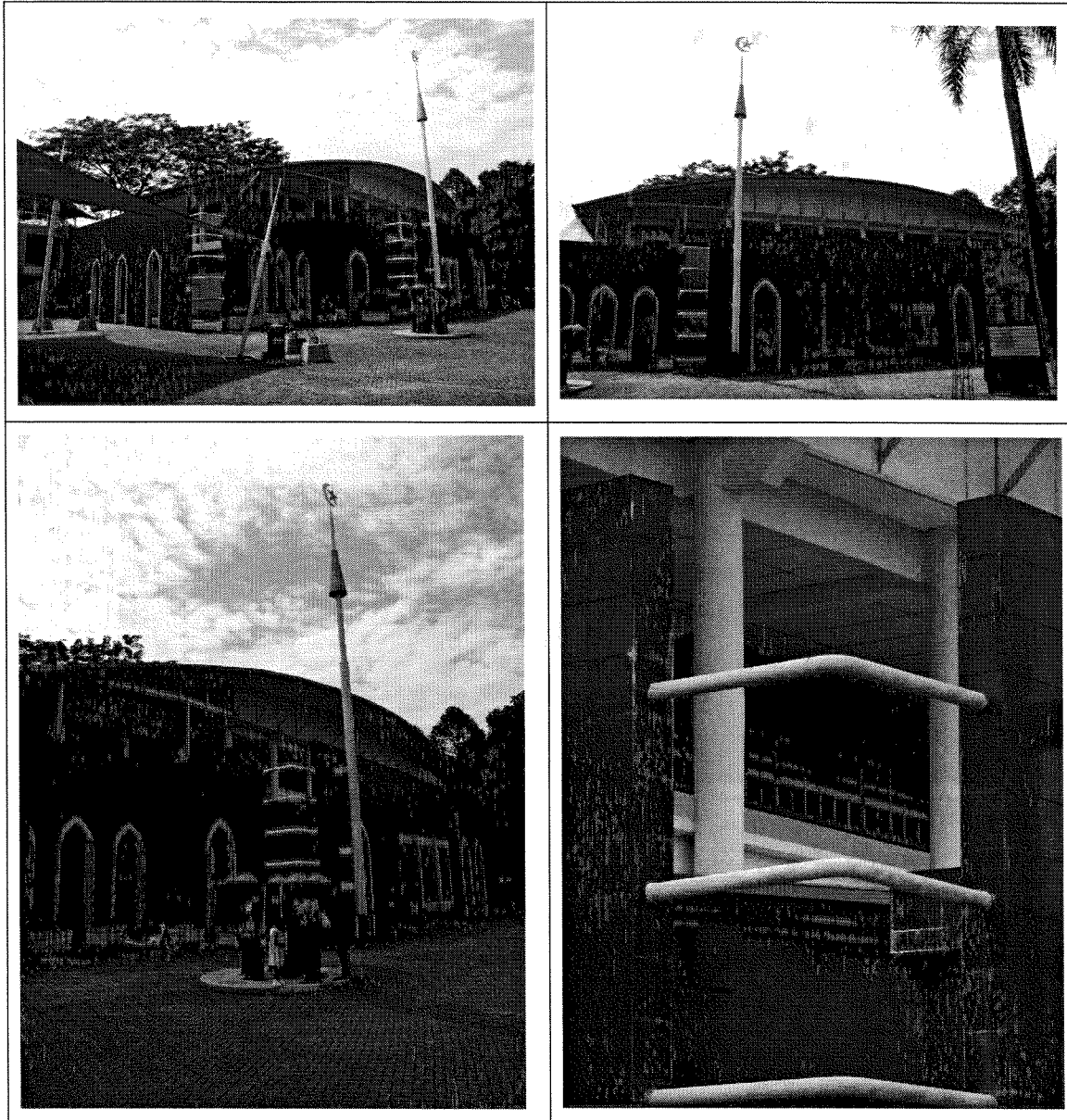
5〜6歳児を対象とした幼稚園も併設されている。金曜礼拝には2000〜3000人が訪れる。



2006年11月25日

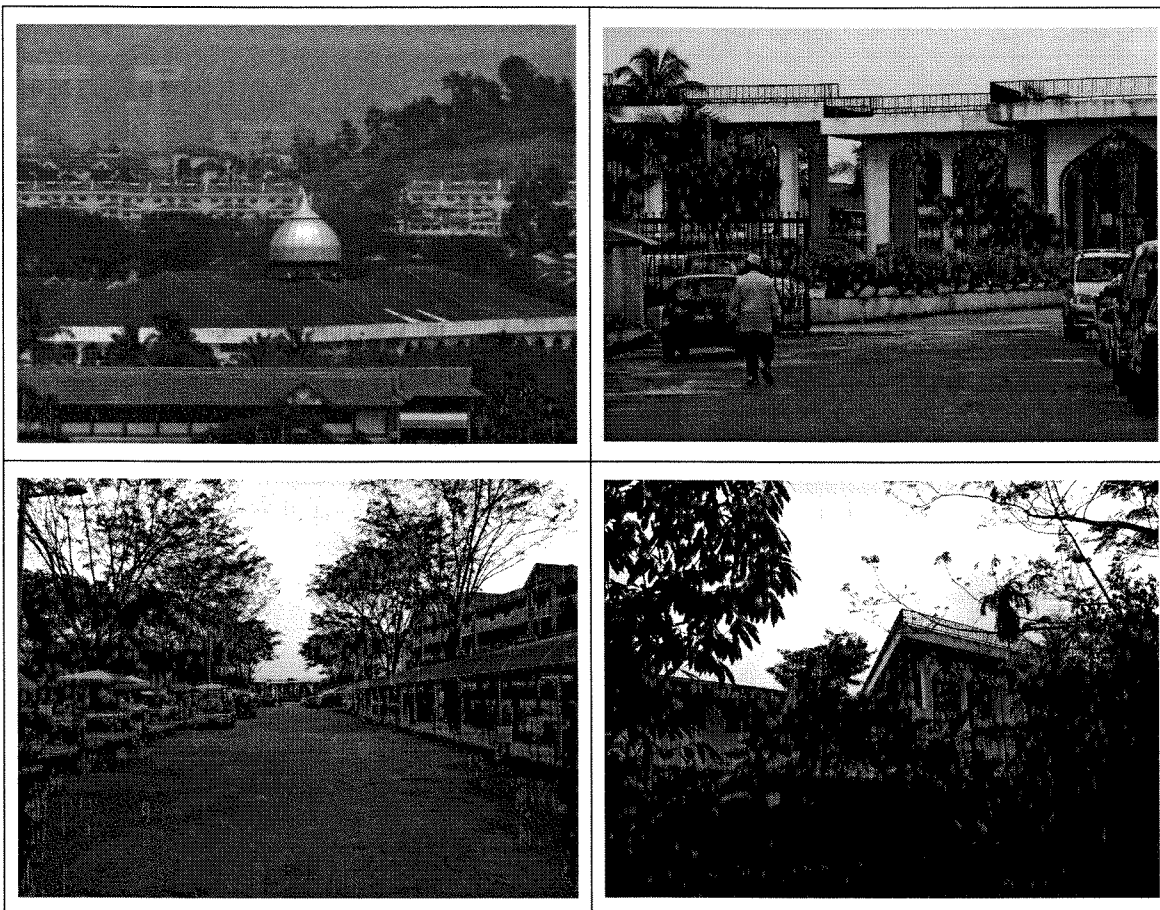
Surau Al-Hidayah

STAR LRTのBukit Jaril駅前に位置するスラウ。訪問時にはブルネイからアッラーの道に赴いていたタブリーギー・ジャマーアト参加者がいた。



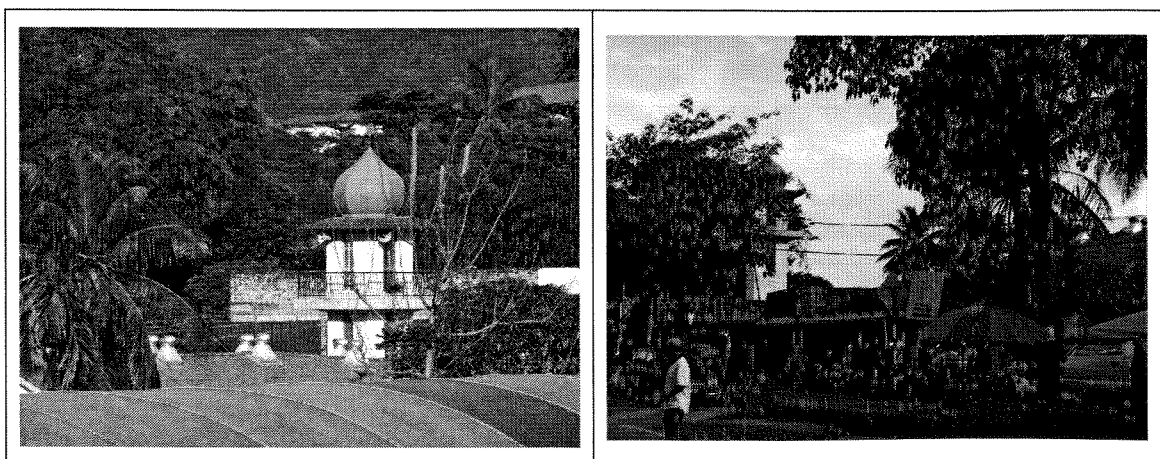
Sri petering masjid

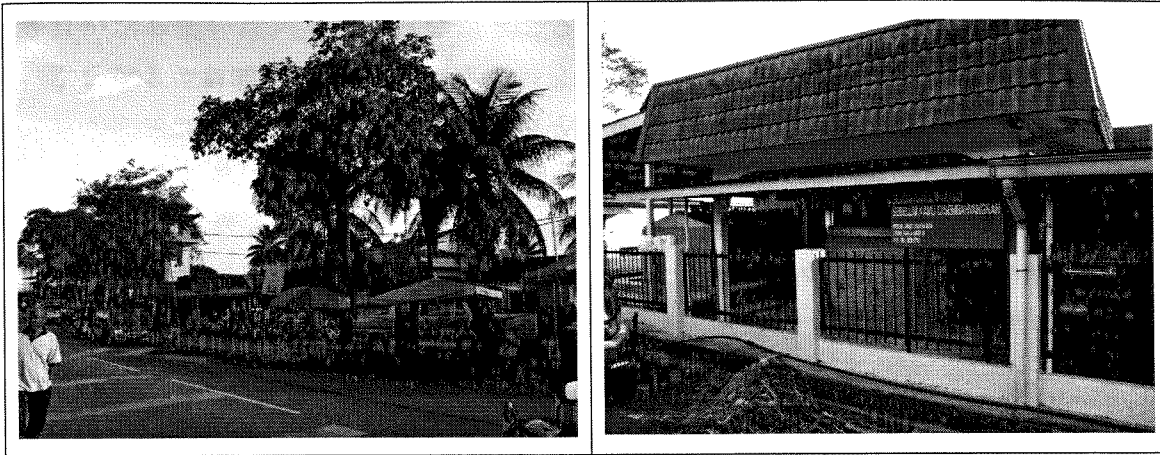
マレーシア国内におけるタブリーギー・ジャマーアトのマルカズであり、全土のマルカズのセンターでもある。詳細は後述。



Masjid Jamek Sungai Besi

STAR LRT の Sungai Besi 駅近くに位置するモスク。幼稚園が併設され、警察署の向かいにある。





2. スリペタリンマルカズ及びスラウ聞き取り調査

本論では 11 月 23 日に訪問したスラウ・アル・ヒジュラと、25 日に訪問したスリペタリンマルカズにおける聞き取り調査をもとに記述を行う。

スラウ・アル・ヒジュラ訪問

11 月 23 日、17 時にマラヤ大学構内で待ち合わせ、Z 氏の自動車でブトラジャヤに向かう。40 分程の距離に「スラウ・アル・ヒジュラ」はあった。周囲を住宅地に囲まれた 2 階建ての建物で、我々が訪れた際にはマレー系の成人男性 2 人の他に少年が 2 人、子どもが 2 人いた。後から男性が更に 2 人来て、そのうちの一人と話しながら周囲を散歩する。

彼はこのスラウに 3 日間滞在しており、クランタンから来たという（丁度この時はクランタンから小学校の先生と生徒の団体が来ていた）。

散歩の後、スラウ内のテラスの様な場所で、皆で輪になって座り、甘い茶を飲みながら談笑をする。他のメンバーから、Z 氏と出会った経緯を話し、我々の研究内容について話をした。メンバーの 1 人が、弟が神戸で日本人にイスラームを教えているといい、連絡先を渡してもらう。

その後礼拝が始まり、我々もその場に同席する。礼拝が終了した後で、見慣れない光景を目にした。皆で 2 列に並び、歌の様なものを歌いながら、握手をして回っていく（丁度サッカーの試合後に選手が行う握手の様な、或いはキャンプファイヤーで行うダンスの様な所作で）。

礼拝が終わるとガシュト（宗教的な啓蒙活動-人々に、モスクやスラウに来て礼拝を行う様呼びかけたりすること）に出るということだったが、強い雨が降り出した。しかし、ガシュトには強い意志で望むので、雨が降っても関係なく傘をさして向かうという。我々も

同行しようとしたが、Z氏とともにスラウ内にあることになった。

氏によれば、人々はモスクの外に出てガシュトを行うだけでなく、一部はガシュト、もう一部はモスク内でそれぞれ行うべきことがあるという。モスク内にいる人は、

1. ズィクル（唱念）：アッラーの名前を想起し、唱える事
2. ディーン（徳）の話をする事
3. イスティクバル：誰かがモスク（スラウ）を訪れたら、タブリーギー・ジャマーアトのプログラムに参加するよう案内する人

またモスクの外で活動する人は、3人〜10人のグループで活動する。彼らは以下の様な役割をもっている。

1. ムタ・カッリム（お話）をする人
2. アラハバ（案内）をする人。適任なのは、地元の人（どこの家がムスリムか、礼拝に来ているか知っているのだ）。
3. アミール（リーダー）

メンバーはガシュトに関して、時間的な制約に関係なく、皆の都合が合う様に、週に1回程の頻度でガシュトを行っている。

その後、バヤーン（講話）が始まる。話し手はクランタンから来た教師。内容は、信仰を守る事で成功を得る事について。曰く、人は信仰を守ることで現世も来世も幸せになれるという。その過程で何かを犠牲にすることもあるが、その分幸せも入ってくるという。自動車ローンを例え話に織り交ぜながら、信仰と犠牲の話をしたり、スンナを遵守することの大切さを話した。

20時10分頃に再び礼拝が始まる。前回より若干人が集まり、61人が集まった。ここでも礼拝後に皆で歌を歌いながら、握手をして回っていた。

その後、外のテラスに集まり、輪になってドゥアー（祈願／祈り）を行う。ドゥアーが済むと、テラスで食事を始める。モスクの隣にある調理スペースで調理したと思われる料理を振る舞われる。

食事後もテラスで談笑を続けた。戦争経験者の老人が日本軍との戦争の話をし、Z氏がマレー語の通訳をした。しばらくすると数人のメンバーがサティという料理を大皿に盛ってやってきた。プトラジャヤの当スラウ近郊はマレーシアでもサティの名所らしく、わざわざ車を出して買いに行ってくれたそうだ。

その後10時前にターリーム（タブリーギー・ジャマーアト独自のテキストを用いたイスラームの学習）を行う。内容はサハーバ（教友）物語。先ほどバヤーンを行った教師が行い、彼の回りに14人程が円座を組む。意外と短く、数分でターリームをやめてしまい、

各自が話していた。

Z氏は我々に、もし良ければスラウに泊まっていけないかと誘ってくださった。クランタンから来ているメンバーも含め、スラウは礼拝だけでなく宿泊スペースも兼ねているのだ。我々は丁重に断ると、Z氏の乗用車で近くの駅まで送ってもらった。

帰りの車中でZ氏から聞いた事には、礼拝後に行われた歌と握手はマレーシア独特のもので、モスクでは行わないがスラウでは行うことだという。これはスンナには無いが、行ってもよいものとされるそうである。

ここで整理すると、まずスラウで行われたガシュトは、前述の宗教的な啓蒙活動の一つであり、近隣の住民にスラウやモスクに礼拝に来る様に呼びかけるものである。ターリームと呼ばれる、独自のテキストを用いた勉強もタブリーギー・ジャマーアトのプログラムの一つである。また、今回クランタンから小学校の教師と生徒が3日間訪れていたが、タブリーギー・ジャマーアトには定められた期間、遠方に赴き現地で宗教活動を行う「アッラーの道」と呼ばれるプログラムがある。期間は3日間という短いものから、40日間、4ヶ月（40日を1チツラという単位で扱われる）まであり、メンバーは休暇などを利用して国内から海外まで移動をして、行き先でもタブリーギー・ジャマーアトのプログラムを実践する。ちなみにZ氏も2007年の2月から40日間のアッラーの道に出るとい話を帰りの車中でしていた。

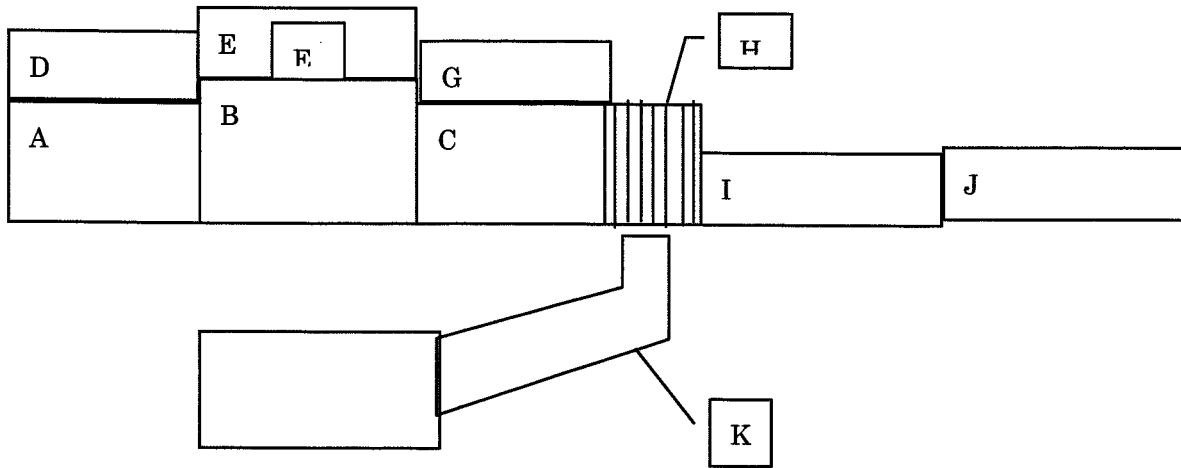
以上がスラウ・アル・ヒジュラ訪問の全容である。実際にスラウで、タブリーギー・ジャマーアトのプログラムが行われている現場に立ち会えた事は、有意義な経験となったことをここに記したい。

スリペタリンマルカズ訪問

11月25日、スリペタリン駅から徒歩でブキッジャリル駅へ向かう。ナショナル・ホッケー・スタジアムを通り抜け、ブキッジャリル駅に着くと目の前にスラウ・アル・ヒダヤー（Surau Al Hidayah）という2階建てのスラウがあった。丁度礼拝に来ていた男性に話を聞くと、彼はブルネイからアッラーの道に出ているとのことで、他にも何人かが宿泊しているという。彼にスリペタリンマルカズへの行き方を聞き、タクシーを拾って向かう。

スリペタリンマルカズは大通りに面した場所に広大な敷地を構え、大通りから正面の入り口までは100メートルほどの距離がある。その道の両側には屋台が並び、それぞれ食べ物やイスラーム関連の品々を扱っている。岡井が来訪の許可を取りに行き、私は正面で待機していた。しばらくすると、メンバー2人と車に同乗して岡井がやってきた。近所の食堂で2人のメンバーに昼食を振る舞われる。彼らはそれぞれN氏とR氏といい、N氏は日本語を流暢に話し、JALパックに勤務しており日本への滞在経験もあるという。R氏は

1984 年に来日経験があるという。食事を終えると、正面入り口からスリペタリンマルカズに入った。R 氏が建物の案内をしてくれた。建物の構造は以下の通りである。



- A:多目的スペース
- B:礼拝スペース
- C:多目的スペース
- D:外国人ジャマアト用宿泊スペース
- E: 外国人ジャマアト用宿泊スペース
- F:キブラ
- G:女性用礼拝スペース (2階)
- H:大階段
- I:イマームの部屋 (?) /外国人ジャマアト用スペース/マドラサ/キッチン
- J: 外国人ジャマアト用スペース/マドラサ/キッチン
- K:ウドゥー用水浴場とトイレ

A,B,C はともに吹き抜けである。D,E,G の各スペースは 2 階建てになっており、A,B,C のそれぞれとつながっている。我々はまず A から B,C を抜け、H の大階段に出た。この階段には斜面と平行に線が引かれており、礼拝の際に建物の中に人が入りきらない時に階段でも礼拝が行えるようになっている。スリペタリンマルカズでは最大 1 万人が同時に礼拝可能であるという。その後、I,J の前を歩きながら説明を受ける。これらは共に横長の 1 階平屋建ての建物で、いくつもの部屋がまるで学校の教室の様に隣同士で区切られている。外国人用の宿泊スペースの他、マドラサ、厨房も併設されているという。その後 G の前で説明を受ける。スリペタリンマルカズでは女性用の礼拝スペースも設けられており、2 階

で礼拝が出来るという。Kにはウドゥー（身体の清め）用の水場が横並びにあり、その奥にはトイレが並んでいる。R氏によれば150個のトイレがあるという。

スリペタリンマルカズの礼拝に来る来訪者の規模は、毎日5回の礼拝に500人程、週末の集団礼拝に2000～3000人が来るという。但し今の時期（当時）はアッラーの道に他教が出ているので、若干少ないということである。

スリペタリンマルカズにはマドラサ（神学校）が併設されており、そのマドラサを卒業した生徒は1年間、アッラーの道に出るといふ。行き先はインド、バングラデシュ、パキスタンにそれぞれ4ヶ月ずつであるという。

我々は建物の周りを一通り案内してもらおうと、Aの場所に円座を組み、R氏を含む数人のメンバーと談笑をした。数人のメンバーが入れ替わり円座に加わり、話を交わした。パキスタンのペシャワールから来ている人や、エジプトからアッラーの道に来ている人とも会い、会話を交わした。R氏にスリペタリンマルカズの設立年を聞いたところ、1988年から段階的に建設し、現在の状況になったのが1992年であるという。R氏はスリペタリンマルカズが出来た1988年の最初期から礼拝に来ているということより、信憑性は高いと思われる。

5時頃に我々はスリペタリンマルカズを後にした。

おわりに -現地での調査を終えて

今回の調査は、限られた時間で市内のモスクやスラウを出来る限り訪問する事が目的だった。現地で購入した市内の地図を片手に、市内のモスク／スラウを文字通り風潰しにあたった。今後は、クアラルンプル市内におけるモスクやスラウにおける宗教活動のみならず、多様な活動の実態を聞き取り調査などで把握し、アジアに広がるネットワークについても取り上げていきたい。

付章 マレーシアにおける ALEPS 調査の企画と実施

店田廣文

本章では、マレーシアの東方政策元留学生協会 (ALEPS) のメンバーを対象として 2007 年 2 月に開始し現在も実施中である、ALEPS 調査について記述することとする。

この調査は、在日経験を有するムスリムを対象として、そのムスリム・ネットワークの実態について把握することを主な目的として、企画された。在日経験を有するムスリムの国籍は、当然ながら、インドネシア、パキスタン、バングラデシュをはじめ、マレーシア、トルコ、イラン、アラブ諸国、アフリカ諸国など多岐にわたる。望ましいのは、それらの国籍すべてを対象として調査することであるが、現実問題として離日している在日経験を有するムスリム全体を調査対象とすることは困難である。

そこで、今回は 10 年来の調査経験を有するマレーシアを対象として、またそのような対象となるムスリムを捕捉しやすい特定の元留学生団体のメンバーを対象として、実施することを企画した。いわば上記の調査の主目的に関する第一弾の調査である。以下には、調査の概要を記述し、調査票を掲載する。

なお、2007 年 4 月 4 日現在、回収された調査票は 120 票となったが、さらに回収数を上積みするため調査の終了予定を 2007 年 5 月末まで延長して調査を継続している。従って、調査結果の速報は、2007 年夏には刊行できる見込みである。

(1) 調査内容

在日経験を有するマレーシアのムスリム (イスラム教徒) の実態と意識に関する調査内容の詳細は、添付の調査票参照 (英語)。

実際の調査は、添付のマレー語調査票。

概略・基本属性、滞日経験、滞日時の暮らし、交流、離日後の交流、活動など。

調査実施時期：2007 年 2 月上旬開始～2007 年 5 月までの予定。

対象者：東方政策元留学生協会 (ALEPS) のメンバー、約 1000 名。

(2) 調査実施主体

①早稲田大学人間科学学術院 店田廣文研究室 (アジア社会論研究室)

②マレーシアでの調査実施主体

マラヤ大学経済行政学部の教員およびアブドル・ラーマン大学教員、計 3 名が主管

Mr. Tey Nai Peng, Associate Professor, Department of Applied Statistics

Faculty of Economics and Administration University of Malaya

Ms. Ng Sor Tho, Lecturer, Department of Applied Statistics

Faculty of Economics and Administration University of Malaya
Mr. Sia Bik Kai, Lecturer, Faculty of Accountancy and Management
University Tunku Abdul Rahman

(3) 添付資料 :

英語調査票およびマレー語調査票

(実査に使用するののは、マレー語調査票)

SOCIAL SURVEY ON RETURNING STUDENTS OF ALEPS

This questionnaire is for Muslim/Muslima only.

January, 2007

The Research Office of Sociological Asian Studies would like to conduct this survey on ALEPS as a part of our academic activities for the Faculty of Human Sciences of Waseda University in order to further our knowledge of the lives of Muslims in both Japan and Malaysia.

In order for our research to be successful, we would like to request your cooperation. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.

If you have any questions, never hesitate to contact our chief researcher, Mr. OKAI.

We thank you in advance for your cooperation.

Prof. TANADA Hirofumi, Waseda University

Note

1. Choose ONE unless otherwise directed, and circle the number of the answer you choose. If you choose "Other" please describe your answer in detail.
2. Follow the question in order and the directions.
3. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.
4. When done, make sure no mistake or no missed answer.
5. Our office will donate RM5 to ALEPS for each completed questionnaire.

So, please cooperate with this survey.

Research Office of Prof. TANADA Hirofumi

Faculty of Human Sciences

Waseda University

Inquiry: OKAI Hirofumi

E-mail: h-okai916@ruri.waseda.jp

Q8 What kind of work do you do at present?

1. Self-employed (Including, employed in family business)
2. Employee (Professional or managerial work)
3. Employee (Clerical, sales, or service work)
4. Employee (Manual work such as factory work)
5. Temporary work (Part time)
6. Housewife / Househusband
7. Student
8. Unemployed
9. Other(describe: _____)



Q9 If you chose 6,7, or 8, please go to Q9.

SQ1 Which of the followings describes your work place the best?

1. Japanese Company
2. Malaysian Company
3. Foreign Company(other than Japan)
4. Government
5. Research Institute

6. University, College
7. Educational institute other than university
8. Self-employment
9. Other (describe: _____)

SQ2 How did you hear about your current job opening?

1. Newspaper/magazine in Japanese language tongue
2. Newspaper/magazine in your mother tongue
3. Through the school you graduated
4. Internet
5. By Muslim friends from your own country
6. By other friends from your own country
7. By foreigner Muslim friends other than Japanese
8. By other foreigner friends other than Japanese
9. By Japanese Muslim friends
10. By other Japanese friends
11. Through Malaysian student club
12. Accidentally
13. Other (describe: _____)

Q9 Where do you live at present?

1. Kuala Lumpur
2. Slangor
3. Penang
4. Johor
5. Malakka
6. Other place in Malaysia
7. Southeast Asia
8. Japan
9. Other (describe: _____)

Q10 With which family member(s) do you live at present? Choose as many as apply. Give the number of children if you have, and give the number of all your family members.

1. Spouse
2. Child (Son: _____ Daughter: _____)
3. Parent(s) of you or your spouse
4. Brother(s) or sister(s) of you or your spouse
5. Other (describe: _____)

Number of Family Member: _____

We ask you about your life in Japan

Q11 When did you visit Japan as a "Foreign (college) Student"? (Year _____)

Q12 How long in total did you stay in Japan as a Foreign (college) student? (_____ years _____ months)

Q13 Why did you choose Japan to study? Choose as many as apply.

1. Its technology and economy are developed.
2. There was a school you wanted to attend.
3. You were interested in Japanese culture or language.
4. Recommended by family, relative, acquaintance or people around you.
5. You had family members or relative staying in Japan.
6. You had acquaintances or friends staying in Japan.
7. Its safety
8. You thought it would be advantageous when searching for a job.
9. You wanted to study abroad anywhere.
- 10 Other (describe: _____)

Q14 Where did you stay the most when you were a student?

(Prefecture: _____ City/Town/Village: _____)

Q15 What scholarship did you receive when you were a student in Japan? Choose as many as apply.

1. Japanese government scholarship (Monbusho/Monbukagakusho)
2. Malaysian government scholarship
3. Study grant of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan (Gakusyusyoreihi)
4. Scholarship by private sector such as a school
5. Other (describe: _____)

Q16 What school did you attend when you were a student in Japan? Choose as many as apply.

1. Technical college
2. Undergraduate school, College
3. Graduate school
4. Other (describe: _____)

Q17 What kind of housing did you stay the most when you were a student in Japan?

1. Dorm annexed to your school
2. Foreigner's house such as foreign students house
3. Private lease apartment
4. Other (describe: _____)

Q18 Whom did you live with while living in Japan? Choose as many as apply.

1. Muslim friends from your own country
2. Non-muslim friends from your own country
3. Muslim friends from another country (other than Japan)
4. Non-muslim friends from another country (other than Japan)
5. Japanese Muslim friends
6. Non-muslim Japanese friends
7. Spouse or child
8. Brother or sister of you or your spouse
9. Parents of you or your spouse
10. Other (describe: _____)

Q19 What was your source of living expenses? Choose as many as apply.

1. Scholarship
2. Money transferred from your own country
3. Your own deposit
4. Income by your spouse
5. Debt to your acquaintance
6. Part time job →SQ1
7. Other (describe: _____)

SQ1 What kind of part time job have you ever had? Choose as many as apply.

1. Home teacher or lecturer in prep school
2. Office work
3. Manual work
4. Service or sales
5. Research or Teaching assistant
6. Translation or language teaching
7. Special skill (IT engineer etc)
8. Other (describe: _____)

SQ2 How did you find the part time job? Choose as many as apply.

1. Newspaper/magazine in Japanese language
2. Newspaper/magazine in your mother tongue
3. Through the school you graduated
4. Internet
5. By Muslim friends from your own country
6. By non-muslim friends from your own country
7. By foreign Muslim friends other than Japanese
8. By non-muslim foreign friends other than Japanese
9. By Japanese Muslim friends
10. By non-muslim Japanese friends
11. Through Malaysian student club
12. Accidentally
13. Other (describe: _____)

SQ3 How did you spend the salary you earned? Choose as many as apply.

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1. To study | 2. Transferred to your family |
| 3. For living expense | 4. To enjoy the life |
| 5. To save in the bank | 6. Communication expense |
| 7. Other (describe: _____) | |

Q 20 How many friends did you have when you were a student in Japan?

Ex: When you had 3 Japanese friends, answer (3)

1. Japanese Muslim friends (_____)
2. Muslim friends from your own country (_____)
3. Muslim friends from other countries (except Japan) (_____) **→SQ1**
4. Non-muslim Japanese friends (_____)
5. Non-muslim friends from your own country (_____)
6. Non-muslim friends from other countries (ex Japan) (_____)

SQ1 Where were your foreign Muslim friends from? Choose as many as apply.

- | | | | |
|---------------|---|----------------|------------------|
| 1. Indonesia | 2. Singapore | 3. Thailand | 4. Bangladesh |
| 5. Pakistan | 6. India | 7. Afghanistan | 8. Sri Lanka |
| 9. Turkey | 10. Senegal | 11. Egypt | 12. Ghana |
| 13. Sudan | 14. Morocco | 15. UAE | 16. Saudi Arabia |
| 17. Palestine | 18 Other nationality (describe: _____) | | |

Q21 Have you participated in any of following circle or club activities when living in Japan?

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. Study and Culture group | 2. Sports or outdoor activity group |
| 3. Religion group | 4. NGO or civil volunteer activity group |
| 5. Community group | 6. International exchange group |
| 7. Malaysian (Student) society | 8. Foreign students' association |
| 9. Foreigner's society in Japan | 10. Other (describe: _____) |

Q22 How many times per month did you use or participate in the following?

- A. Subscription of newspapers in your mother tongue (/month)
- B. Purchasing Halal food (/month)
- C. Halal Restaurant (/month)
- D. Prayer service in Mosque (/month)
- E. Prayer service in Musallaah (/month)
- F. Lecture or study group related to Islam (/month)
- G. Tabligh Jama'at (/month)

Q23 When you were in following situations, to whom did you ask for support and how much was it? As shown below, please circle a number from 1-5 for the following questions.

Example:

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Other friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Other Muslim friends from other country (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Other friends from other country (other than Japan)	1	2	3	4	5

A. When you were in trouble about your health

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

B. When you were in need of living expenses

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

C. When you had problems with your studies

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

D. When you had trouble with human relationships

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

E. When you experienced culture gap

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

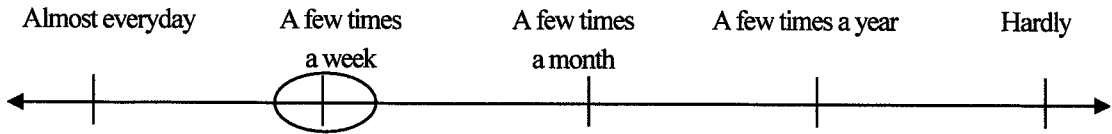
F. When you faced religious problems while you were living in Japan

	No support	A bit of support	A certain measure of support	Much support	Very much support
1. Muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
2. Non-muslim friends from your own country	1	2	3	4	5
3. Muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
4. Non-muslim friends from other countries (other than Japan)	1	2	3	4	5
5. Japanese Muslim friends	1	2	3	4	5
6. Non-muslim Japanese friends	1	2	3	4	5
7. Spouse	1	2	3	4	5
8. Family in your own country	1	2	3	4	5
9. Friends in your own country	1	2	3	4	5
10. Religious leader living in Japan	1	2	3	4	5
11. Religious leader living in Malaysia	1	2	3	4	5
12. Religious leader living in another country	1	2	3	4	5
13. Supervisor in your school	1	2	3	4	5
14. Other (describe:)	1	2	3	4	5

We ask about your communication with friends and family living in Malaysia when you were living in Japan.

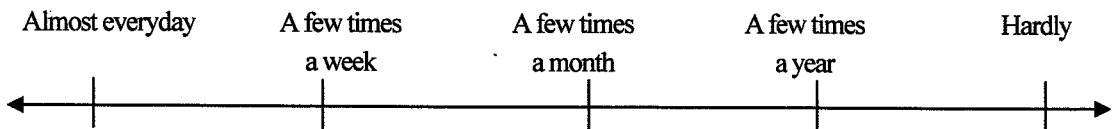
Q24 Please answer about your frequency of communication with family and friends living in Malaysia. As shown below, please surround the most appropriate answer with a circle.

Example:

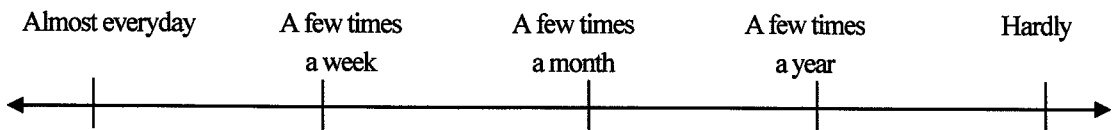


1) How often did you write a letter to the following people when living in Japan?

A. Family living in Malaysia

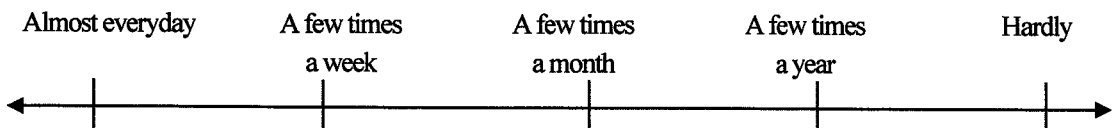


B. Friends living in Malaysia

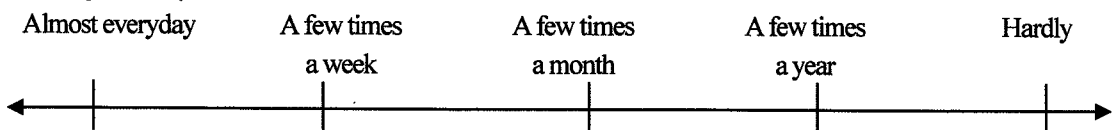


2) How often did you call the following people when living in Japan?

A. Family living in Malaysia

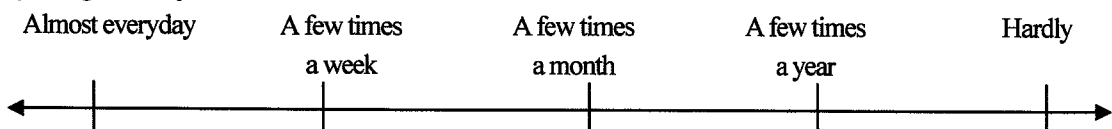


B. Friends living in Malaysia

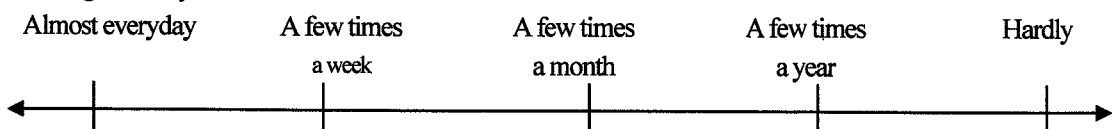


3) How often did you e-mail the following people when living in Japan?

A. Family living in Malaysia



B. Friends living in Malaysia



Q25 When you were in Japan, did any of your friends or family visit Japan? If none, answer 0.

- A. Parents (time(s)/year)
- B. Brothers/Sisters (time(s)/year)
- C. Relatives (time(s)/year)
- D. Friends (time(s)/year)

Q26 How often did you go back to your own country when you were a student in Japan? If none, answer 0.

(time(s)/year)

Q27 When you were a student in Japan, how often did you send gifts to your family living in Malaysia? If none, answer 0.

(time(s)/year)

We ask about your relationships after your coming back to Malaysia.

Q28 Have you studied abroad again since you returned from Japan?

- 1. Yes → **SQ 1**
- 2. No

SQ1 Where have you studied? Please write all countries.

(Name of the country(ies) _____)

Q29 Have you visited Japan again after you completed your student life in Japan?

- 1. Yes
- 2. No

Q30 Since you have completed your student life in Japan, do you contact any of the following people? Please give the number of people for each answer. If none, answer 0.

- A. Japanese Muslim friends (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- B. Non-muslim Japanese friends (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- C. Foreigner Muslim friends other than Japanese (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- D. Non-muslim foreigner friends other than Japanese (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- E. Muslim friends from your own country you met in Japan (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- F. Non-muslim friends from your own country you met in Japan (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- G. Religious leaders living in Japan (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)
- H. Supervisors in the school you graduated from (number:)
 SQ. If you have, how often do you contact to the one you are closest to?
 (time(s)/year)

Q31 In your experience as a foreign student in Japan, what is the most valued thing that you have gained?

Choose one only.

1. Ability of Japanese language
2. Professional skills/knowledge
3. A friendship developed in Japan
4. The ability to work hard
5. The value of being on time (punctuality)?

Q32 In all, how much benefit do you think your experience in Japan has brought to you in your subsequent career and life?

1. A great benefit
2. A considerable benefit
3. Some benefit
4. Negligible benefit

Q33 Overall, how much are you satisfied with your experience of staying as a student in Japan?

1. Very satisfied 2. Satisfied 3. Neither 4. Unsatisfied 5. Very unsatisfied

Q34 How much is your monthly income?

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. Up to RM\$1000 | 2. RM\$1001-2000 |
| 3. RM\$2001-3000 | 4. RM\$3001-4000 |
| 5. RM\$4001-5000 | 6. RM\$5001-6000 |
| 7. RM\$6001-7000 | 8. RM\$7001-8000 |
| 9. RM\$8001-9000 | 10. RM\$9001-10000 |
| 11. Over RM\$10001 | |

Thank you very much for your cooperation!

SURVEI SOSIAL

BEKAS PELAJAR AHLI ALEPS

Soalselidik ini ialah untuk Muslim sahaja.

Januari, 2007

Pejabat Penyelidikan Kajian Sosiologi Asia sedang menjalankan survei ini ke atas ALEPS sebagai sebahagian aktiviti akademik Fakulti Sains Kemanusiaan, Waseda University. Tujuan utama survei ini ialah melanjutkan pengetahuan kami tentang kehidupan orang Muslim di Jepun dan Malaysia. Penyelidik dari Universiti Malaya akan menjalankan survei ini melalui pos.

Kami memerlukan kerjasama tuan/puan untuk menjayakan penyelidikan ini. Semua maklumat yang diberikan oleh tuan/puan akan dirahsiakan.

Jika tuan/puan mempunyai soalan, sila berhubung dengan ketua penyelidik, Mr. OKAI.

Kerjasama tuan/puan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Prof. TANADA Hirofumi, Waseda University

Nota

6. Pilih SATU jawapan sahaja bagi setiap soalan, dan bulatkan nombor jawapan yang dipilih. Jika tuan/puan pilih "Lain-lain", sila terangkan.
7. Jawab soalan mengikut susunan dan arahnya.
8. Semua maklumat, samada persendirian atau organisasi, yang diberi oleh tuan/puan akan dirahsiakan.
9. Pastikan semua soalan terjawab dan tidak ada kesilapan.
10. Pejabat kami akan memberi sumbangan RM5.00 kepada ALEPS untuk setiap soalselidik yang dijawab dengan lengkap.
Kerjasama daripada tuan/puan diucapkan terima kasih.

Pejabat Penyelidikan Prof. TANADA Hirofumi

Faculty of Human Sciences

Waseda University

Pertanyaan: OKAI Hirofumi

E-mail: h-okai916@ruri.waseda.jp

Kami ingin tanya tentang anda sendiri.

Q1 Apakah jantina tuan/puan?

1. Lelaki 2. Perempuan

Q2 Berapakah umur tuan/puan?

--	--

Q3 Akakah kumpulan etnik tuan/puan?

1. Melayu 2. Cina 3. India 4. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q4 Apakah ijazah yang tuan/puan terima di Jepun? Bulatkan jawapan yang berkenaan.

1. Diploma 2. Sarjana Muda 3. Sarjana 4. Doktor Falsafah
5. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q5 Apakah ijazah yang tuan/puan terima di Malaysia? Bulatkan jawapan yang berkenaan.

1. Diploma 2. Sarjana Muda 3. Sarjana 4. Doktor Falsafah
5. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q6 Apakah bidang pengkhususan tuan/puan? Bulatkan satu jawapan sahaja.

1. Sains Sosial 2. Kejuruteraan 3. Kemanusiaan 4. Perubatan/Pergigian/Farmasi
5. Pendidikan 6. Sains Domestik 7. Pertanian 8. Lukisan
9. Sains Semulajadi 10. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q7 Apakah taraf pencapaian Bahasa Jepun tuan/puan? Sila tandakan ruang yang berkenaan.

	Sangat baik	Baik	Tidak Baik	Langsung tidak boleh
Pendengaran dan Pertuturan				
Membaca				
Menulis				

Q8 Apakah jenis pekerjaan tuan/puan sekarang?

10. Kerja sendiri (Termasuk perniagaan keluarga)
11. Pekerja (Kerja profesional atau pengurusan)
12. Pekerja (Kerja pekeranian, jualan, atau perkhidmatan)
13. Pekerja (Kerja manual seperti kerja kilang)
14. Kerja sementara (separuh masa)
15. Surirumahtangga/Kerja rumah
16. Pelajar
17. Menganggur
18. Lain-lain (Nyatakan: _____)
- } Jika tuan/puan pilih 6,7, atau 8, sila pergi ke Q9.

SQ1 Di antara yang berikut, yang mana satukah menerangkan tempat kerja tuan/puan dengan tepat?

1. Syarikat Jepun
2. Syarikat Malaysia
3. Syarikat negara asing (selain dari Jepun)
4. Kerajaan
5. Institut Penyelidikan

6. Universiti, Kolej
7. Institut pendidikan selain daripada universiti
8. Kerja sendiri
9. Lain-lain (nyatakan:

SQ2 Bagaimanakah tuan/puan mengetahui tentang peluang pekerjaan sekarang?

1. Suratkhobar/majalah Bahasa Jepun
2. Suratkhobar/majalah Bahasa Ibunda
3. Melalui sekolah tuan/puan
4. Internet
5. Melalui kawan Muslim dari Malaysi
6. Melalui kawan dari Malaysia
7. Melalui kawan Muslim negara asing kecuali Jepun
8. Melalui kawan negara asing kecuali Jepun
9. Melalui kawan Muslim Jepun
10. Melalui kawan Jepun
11. Melalui kelab pelajar Malaysia
12. Tak sengaja
13. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q9 Di manakah tuan/puan tinggal sekarang?

1. Kuala Lumpur
2. Selangor
3. Pulau Pinang
4. Johor
5. Melaka
6. Tempat lain di Malaysia
7. Asia Tenggara
8. Jepun
9. Lain-lain (nyatakan : _____)

Q10 Tua/puan tinggal bersama dengan siapa? Bulatkan yang berkenaan. Jika tuan/puan mempunyai anak, berikan bilangannya dan berikan bilangan ahli keluarga.

1. Suami/Isteri
2. Anak (Lelaki: _____ Perempuan: _____)
3. Iubapa tuan/puan atau mertua
4. Adik beradik tuan/puan atau ipar
5. Lain-lain (nyatakan: _____)

Bilangan Ahli Keluarga:

--	--

Kami Ingin tahu sedikit tentang kehidupan anda di Jepun

Q11 Bilakah tuan/puan berada di Jepun sebagai seorang "Pelajar (Kolej) Luar Negara?
(Tahun _____)

Q12 Berapa lamakah tuan/puan tinggal di Jepun sebagai seorang Pelajar (Kolej) Luar Negara ?
(_____ tahun _____ bulan)

Q13 Mengapa tuan/puan memilih Jepun untuk melanjutkan pelajaran? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Teknologi dan ekonominya maju.
2. Terdapat satu sekolah yang saya hendak masuk
3. Berminat dalam kebudayaan atau Bahasa Jepun.
4. Diperkenalkan oleh ahli keluarga, saudara mara
5. Mempunyai ahli keluarga atau saudara mara tinggal di Jepun.
6. Mempunyai kawan tinggal di Jepun.
7. Keselamatannya
8. Fikir ia adalah satu kelebihan dalam mencari pekerjaan.
9. Hendak belajar di luar negara.
- 10 Lain-lain (nyatakan: _____)

Q14 Di manakah tuan/puan tinggal paling lama apabila tuan/puan belajar di Jepun?

(Prefecture: _____ Bandar/Bandar
kecil/Kampung: _____)

Q15 Apabila tuan/puan belajar di Jepun, apakah jenis biasiswa yang tuan/puan terima?

Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

6. Biasiswa kerajaan Jepun (Monbusho/Monbukagakusho)
7. Biasiswa kerajaan Malaysia
8. Geran Pengajian Kementerian Pendidikan, Kebudayaan, Sukan, Sains dan Teknologi Jepun (Gakusyusyoreihi)
9. Biasiswa oleh sektor swasta seperti sekolah
10. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q16 Apakah jenis sekolah yang dihadiri semasa tuan/puan belajar di Jepun? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Kolej teknikal
2. Sekolah Pengajian Ijazah Pertama, Kolej
3. Sekolah Pengajian Siswazah
4. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q17 Apabila tuan/puan belajar di Jepun, apakah jenis perumahan yang paling lama tuan/puan tinggal?

1. Dorm yang dekat sekolah tuan/puan
2. Rumah orang negara asing seperti rumah pelajar negara asing
3. Apartmen swasta
4. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q18 Apabila di Jepun, tuan/puan tinggal dengan siapa? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Kawan Muslim dari Malaysia
2. Kawan bukan-Muslim dari Malaysia
3. Kawan Muslim dari negara asing (selain dari Jepun)
4. Kawan bukan-Muslim dari negara asing (selain dari Jepun)
5. Kawan Muslim Jepun
6. Kawan bukan-Muslim Jepun
7. Pasangan atau anak
8. Adik beradik atau ipar
9. Iubapa atau mertua
10. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q19 Apakah sumber kewangan untuk perbelanjaan kehidupan tuan/puan? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Biasiswa
2. Wang dipindah dari Malaysia
3. Simpanan sendiri
4. Pendapatan pasangan
5. Hutang kepada orang yang dikenali ("acquaintance")
6. Kerja separuh masa →SQ1
7. Lain-lain (nyatakan: _____)

SQ1 Apakah jenis kerja separuh masa yang tuan/puan pernah buat? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Guru/pensyarah rumah di sekolah
2. Kerja pejabat
3. Kerja manual
4. Perkhidmatan atau jualan
5. Pembantu penyelidik atau pengajar
6. Penterjemahan atau mengajar bahasa
7. Kemahiran istimewa (jurutera IT, jurutera dsbnya)
8. Lain-lain (nyatakan: _____)

SQ2 Bagaimanakah tuan/puan cari kerja separuh masa? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Suratkhobar/majalah Bahasa Jepun
2. Suratkhobar/majalah Bahasa Ibunda
3. Melalui sekolah tuan/puan
4. Internet

5. Melalui kawan Muslim dari negara saya sendiri
6. Melalui kawan bukan-Muslim dari negara saya sendiri
7. Melalui kawan Muslim negara asing kecuali Jepun
8. Melalui kawan bukan-Muslim negara asing kecuali Jepun
9. Melalui kawan Muslim Jepun
10. Melalui kawan bukan-Muslim Jepun
11. Melalui kelab pelajar Malaysia
12. Tak sengaja
13. Lain-lain (nyatakan: _____)

SQ3 Bagaimanakah tuan/puan membelanjakan gaji yang diterima? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

1. Untuk pengajian
2. Pindah kepada keluarga tuan/puan
3. Untuk perbelanjaan kehidupan
4. Untuk menikmati kehidupan
5. Untuk disimpan dalam bank
6. Perbelanjaan komunikasi
7. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q 20 Tuan/puan mempunyai berapa orang kawan apabila tuan/puan belajar di Jepun?

Contoh: Jika tuan/puan mempunyai 3 orang kawan Jepun, jawab (3)

1. Kawan Muslim Jepun ()
2. kawan Muslim dari Malaysia ()
3. kawan Muslim dari negara asing (kecuali Jepun) () → **SQ1**
4. Kawan bukan-Muslim Jepun ()
5. Kawan bukan-Muslim dari Malaysia ()
6. Kawan bukan-Muslim dari negara asing (kecuali Jepun) ()

SQ1 Kawan Muslim tuan/puan datang dari mana? Bulatkan mana-mana yang berkenaan.

- | | | | |
|---------------|----------------------------------|----------------|------------------|
| 1. Indonesia | 2. Singapura | 3. Thailand | 4. Bangladesh |
| 5. Pakistan | 6. India | 7. Afghanistan | 8. Sri Lanka |
| 9. Turki | 10. Senegal | 11. Egypt | 12. Ghana |
| 13. Sudan | 14. Morocco | 15. UAE | 16. Saudi Arabia |
| 17. Palestine | 18 Negara lain (nyatakan: _____) | | |

Q21 Apabila tuan/puan tinggal di Jepun, pernahkah tuan/puan mengambil bahagian dalam aktiviti kumpulan yang berikut?

1. Kumpulan Kajian dan Kebudayaan
2. Kumpulan sukan atau aktiviti luar
3. Kumpulan agama
4. Organisasi bukan kerajaan atau kumpulan aktiviti sukarela
5. Kumpulan komuniti
6. Kumpulan pertukaran antarabangsa
7. Pertubuhan Malaysia (Pelajar)
8. Persatuan pelajar negara asing
9. Persatuan orang asing di Jepun
10. Lain-lain (nyatakan: _____)

Q22 Beberapa kalikah tuan/puan mengguna atau mengambil bahagian dalam perkara berikut dalam satu bulan?

- A. Tempahan suratkhbar dalam Bahasa Ibunda (_____ /bulan)
- B. Membeli makanan Halal (_____ /bulan)
- C. Restoran Halal (_____ /bulan)
- D. Sembahyang di dalam masjid (_____/bulan)
- E. Sembahyang di Musallaah (_____/bulan)
- F. Kumpulan syarahan atau pengajian berkait dengan Islam (_____/bulan)
- G. Tabligh Jama'at (_____/bulan)

Q23 Apabila tuan/puan berada di dalam situasi berikut, daripada siapakah tuan/puan mendapatkan sokongan? Sila bulatkan satu nombor daripada 1 - 5 untuk soalan yang berikut untuk menunjukkan tahap sokongan.

Contoth :

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain daripada Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain daripada Jepun)	1	2	3	4	5

A. Apabila tuan/puan mempunyai masalah kesihatan

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5
7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan: _____)	1	2	3	4	5

B. Apabila tuan/puan memerlukan perbelanjaan kehidupan

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5

5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5
7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan: _____)	1	2	3	4	5

C. Apabila tuan/puan mempunyai masalah dalam pembelajaran.

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5
7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan: _____)	1	2	3	4	5

D. Apabila tuan/puan mempunyai masalah berkaitan dengan hubungan manusia.

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5
7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan:)	1	2	3	4	5

E. Apabila tuan/puan berpengalaman jurang kebudayaan.

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5

7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan:)	1	2	3	4	5

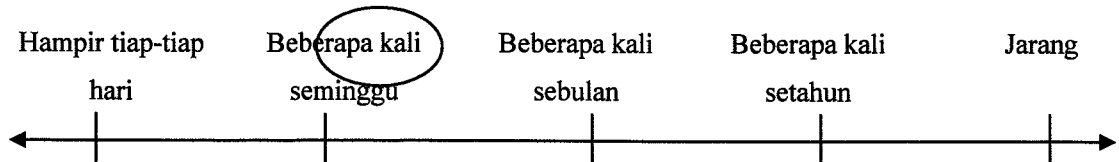
F. Apabila tuan/puan menghadapi masalah agama semasa tinggal di Jepun.

	Tidak ada sokongan	Sedikit sokongan	Sedikit sokongan sebanyak sokongan	Banyak sokongan	Sangat banyak sokongan
1. Kawan Muslim dari Malaysia	1	2	3	4	5
2. Kawan lain dari Malaysia	1	2	3	4	5
3. Kawan Muslim yang lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
4. Kawan lain dari negara asing (selain dari Jepun)	1	2	3	4	5
5. Kawan Muslim Jepun	1	2	3	4	5
6. Kawan bukan-Muslim Jepun	1	2	3	4	5
7. Pasangan	1	2	3	4	5
8. Keluarga di Malaysia	1	2	3	4	5
9. Kawan di Malaysia	1	2	3	4	5
10. Pemimpin agama di Jepun	1	2	3	4	5
11. Pemimpin agama di Malaysia	1	2	3	4	5
12. Pemimpin agama di negara asing	1	2	3	4	5
13. Penyelia sekolah	1	2	3	4	5
14. Lain-lain (nyatakan:)	1	2	3	4	5

Kami ingin tahu sedikit mengenai komunikasi tuan/puan dengan kawan dan keluarga yang tinggal di Malaysia apabila tuan/puan berada di Jepun.

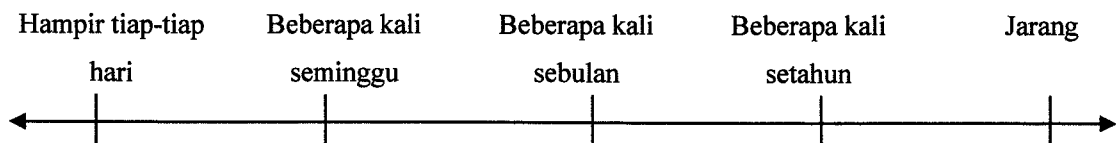
Q24 Berapa kerapkah tuan/puan berkomunikasi dengan keluarga dan kawan yang tinggal di Malaysia. sila bulatkan jawapan yang paling tepat.

Contoh:

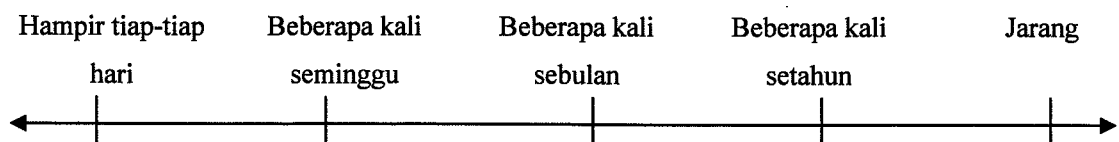


1) Semasa tuan/puan tinggal di Jepun, berapa kerapkah tuan/puan menulis surat kepada keluarga dan kawan di Malaysia?

A. Keluarga di Malaysia

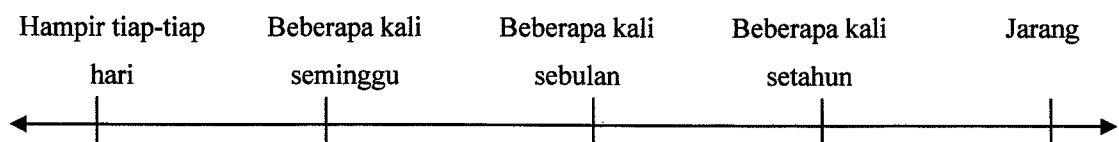


C. Kawan di Malaysia

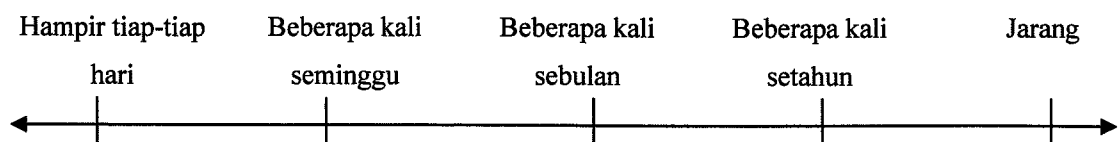


2) Semasa tuan/puan tinggal di Jepun, berapa kerapkah tuan/puan menelefon keluarga dan kawan di Malaysia?

A. Keluarga di Malaysia

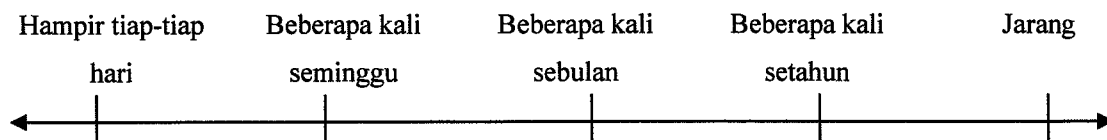


B. Kawan di Malaysia

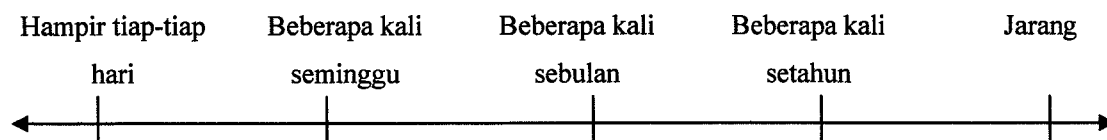


3) Semasa tuan/puan tinggal di Jepun, berapa kerapkah tuan/puan menghantar emel kepada keluarga dan kawan di Malaysia?

A. Keluarga di Malaysia



B. Kawan di Malaysia



Q25 Adakah kawan atau keluarga tuan/puan melawat tuan/puan di Jepun? Jika tidak ada, jawab 0.

- A. Ibumama (_____ kali/tahun)
- B. Adik beradik (_____ kali/tahun)
- C. Saudara mara (_____ kali/tahun)
- D. Kawan (_____ kali/tahun)

Q26 Apabila tuan/puan belajar di Jepun, berapa kerapkah tuan/puan balik ke Malaysia? Jika tidak, jawab 0.

(_____ kali/tahun)

Q27 Apabila tuan/puan belajar di Jepun, berapa kerapkah tuan/puan hantar hadiah kepada keluarga tuan/puan di Malaysia? Jika tidak, jawab 0.

(_____ kali/tahun)

Kami ingin tahu sedikit mengenai perhubungan tuan/puan selepas balik ke Malaysia

Q28 Adakah tuan/puan belajar di luar negara lain selepas balik dari Jepun?

- 1. Ya → SQ 1
- 2. Tidak

SQ1 Di manakah tuan/puan belajar? Sila tulis semua negara.

(Nama negara) _____

Q29 Adakah tuan/puan melawat Jepun selepas menamatkan pelajaran di Jepun?

1. Ya

2. Tidak

Q30 Sejak tuan/puan menamatkan pelajaran tuan/puan di Jepun, adakah tuan/puan berhubung dengan orang yang berikut? Sila berikan bilangan orang bagi setiap jawapan. Jika tidak ada, jawab 0.

A. Kawan Muslim Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

B. Kawan bukan-Muslim Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

C. Kawan Muslim negara asing selain daripada Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

D. Kawan bukan-Muslim negara asing selain daripada Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

E. Kawan Muslim dari negara tuan/puan yang tuan/puan temui di Jepun (bilangan ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

F. Kawan bukan-Muslim dari negara tuan/puan yang tuan/puan temui di Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

G. Pemimpin agama di Jepun (bilangan: ____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(____ kali/tahun)

H. Penyelia sekolah pengajian tuan/puan (bilangan: _____)

SQ. Jika ada, berapa kerapkah tuan/puan berhubung dengan orang yang paling rapat?

(_____ kali/tahun)

Q31 Dalam pengalaman tuan/puan sebagai pelajar asing di Jepun, apakah perkara yang paling bernilai yang tuan/puan dapat? Bulatkan satu jawapan sahaja

6. Kebolehan dalam Bahasa Jepun
7. Kemahiran/pengetahuan profesional
8. Satu persahabatan yang dibangunkan di Jepun
9. Kebolehan bekerja kuat
10. Nilai ketepatan masa

Q32 Pada keseluruhannya, pengalaman tuan/puan di Jepun telah memberi berapa banyak keuntungan kepada tuan/puan dalam kerjaya dan kehidupan tuan/puan kemudian.

5. Keuntungan yang sangat besar
6. Keuntungan yang besar
7. Keuntungan sederhana
8. Tidak banyak keuntungan

Q33 Pada keseluruhannya, apakah tahap kepuashatian tuan/puan dengan pengalaman tuan/puan sebagai pelajar di Jepun?

- | | | |
|---------------------|---------------------------|------------|
| 1. Sangat puas hati | 2. Puas hati | 3. Neutral |
| 4. Tidak puas hati | 5. Sangat tidak puas hati | |

Q34 Berapakah pendapatan bulanan tuan/puan?

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. Kurang daripada RM\$1000 | 2. RM\$1001-2000 |
| 3. RM\$2001-3000 | 4. RM\$3001-4000 |
| 5. RM\$4001-5000 | 6. RM\$5001-6000 |
| 7. RM\$6001-7000 | 8. RM\$7001-8000 |
| 9. RM\$8001-9000 | 10. RM\$9001-10000 |
| 11. Lebih daripada RM\$10000 | |

Terima kasih ke atas kerjasama tuan/puan!

在日ムスリム調査

関東大都市圏調査

第一次報告書

2006年8月

早稲田大学人間科学学術院

アジア社会論研究室

(注記) この付録は、上記の報告書のうち、一部のグラフ等を削除して、再録したものである。したがって、図表番号に対応した、図表が含まれていないことがある。

序

本報告書は、日本学術振興会科学研究費助成による調査研究「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」の成果の一部として刊行するものであり、2005年11月から2006年6月にかけて実施した調査の結果報告である。この調査研究全体では、関東大都市圏に居住するイスラム教徒（ムスリム）を対象とする日本国内における社会的ネットワークと適応に関する研究に加えて、国内と在外のムスリムとのネットワークについても研究を行う計画であるが、本報告書では、まず日本における質問紙を使用した調査の結果を報告する。

本研究全体は、2005年度から2006年度までの2カ年間計画で進行中であり、第1年度は在日ムスリムの意識調査と、全国に散らばるモスク（イスラム教寺院）やハラールショップなどについての実態調査をおこなった。この報告書は前者の意識調査について発表するものである。第2年度は、マレーシアにあるALEPS（東方政策日本留学生同窓会）などのメンバーを対象として、日本と外国との「ムスリム・ネットワーク」をとらえることを企画しており、本年度末にはこれらの調査研究を総括して成果を提出予定である。ただし、第1年度の調査のうち、意識調査が完了したのは2006年6月と大幅にずれ込んだため、第2年度の調査は、2006年11月に実施予定である。

さて本報告書は、意識調査についての第一次報告として、回答していただいた方々に調査結果の全体像をわかりやすく伝えることを目的として、まず日本語で作成したものであり、単純集計と滞在年数別や出身地域別などのクロス集計結果を中心として記述することとした。

今回の調査にあたっては、在日ムスリムの対象者の方々、各地域のモスク管理者の方々など多くの人たちから多大なご協力をいただいた。また、調査票の翻訳については東京外国語大学教授林佳世子先生にご配慮いただき、各言語を母語とする翻訳者にご協力をいただいた。改めてご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げる次第である。

2006年8月

早稲田大学人間科学学術院 店田 廣文

付記：本報告書に対するご意見、ご感想など、是非お寄せください。

〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学 店田 廣文

ファクス： 04-2947-6807

電子メール： htanada@waseda.jp

調査結果の概要

日本社会におけるイスラム教徒（ムスリム）の人たちの暮らしぶりが話題になることは決して多くはない。1990年前後、上野や原宿に休日になると集まって情報交換をするイラン人労働者のことが報じられたことが目立つくらいであろうか。とはいえ現在では9万人前後のムスリムの人たちが日本のあちこちで生活しており、海外の出来事と関連づけて取り上げられることも増加している。しかし、それらは日常の暮らしぶりを伝えると言えるようなものではない。本調査は、あまり語られることのなかった日常生活の部分に焦点をあてて、日本に暮らす外国籍のムスリムの人たちの姿をとらえようとするものである。2005年に人口減少プロセスに入った日本社会では、少子高齢社会をめぐる論議の一つとして外国人労働者の受け入れをめぐる問題が取り上げられることが多い。東南アジア諸国とのFTA（自由貿易協定）などの交渉において労働者受け入れが論点の一つとなったことも記憶に新しいところであるが、今回の調査対象である在日ムスリムの人たちも、これらの問題と無縁ではなく、日本社会との関わり方の重要な側面として彼らの雇用状況も取り上げている。今回の調査は、わが国におけるほぼ初めての在日ムスリムの生活意識に関する社会調査として、有効回収票を多くすることを考慮しつつ、生活全般の状況を出来る限り取り上げるように設計した。その意図が十分に実現できたとは到底言えないが、以下の各章で報告されている「在日ムスリム調査」の結果概要をここでは要点を絞って提示する。

今回の調査結果の分析に取り上げた有効回収数は、149票である。調査そのものは、調査票を使用した配票調査であり自記式（回答者自らが記入する方式）を採用した。調査期間は、2005年11月から2006年6月までであり、主な調査員は研究室所属の大学院生であり関与した院生数は5名と僅かである。その他、助手や学部生など数名が調査に協力した。

なお実際に回収した総数は、198票であるが、次のような理由から49票を除外している。ひとつは、女性のイスラム教徒が回答した7票、もう一つは合計で42票あるムスリム学生の回答票である。前者については、今回は男性のみを対象とする調査として進めたので、本報告からは除外した。後者については、在日ムスリムの多い大学在籍者や留学生協会を通じて実施し回収した調査票であり、モスクを拠点として配票し回収した調査票（今回の報告書で分析した調査票）と異なる方法を採用したこととなるため、今回の報告からは除外した。

今回の回答者は全員が男性ムスリムであり、回答者の平均年齢は32.2歳であった。回答者の80%以上が、20代、30代であるが、最年少は19歳、最年長は67歳である。既婚者がおよそ3分の2を占め、その3割が日本人を配偶者としていた。出身国は、インドネシアが最も多く、あわせて20ヶ国になった。地域別には、東南アジア、インド亜大陸、西アジア・アフリカの順に多かった。滞在年数をみると、2年未満が27.5%、2～5年未満が30.9%、5～10年未満が12.8%、10年以上が21.5%となった。5年未満が半数以上であるが、10年以上も2割を超え、滞在年数の長短を含む回

答者であった。日本での家族構成をみると、単身世帯がおよそ4分の1を占めており、夫婦のみを含め夫婦と子どもからなる核家族がほぼ半分程度であった。三世同居のタイプはせいぜい2%であり、そのほかは多様な世帯構成が目につく結果となった。

ついで、母国での状況をみよう。家族構成は核家族に相当するタイプが35%、三世以上のタイプが27%で両方で過半を占めたが、その他の親族世帯も35%をしめるなど、多様な家族構成が窺えた。母国での職業は、専門職・管理職（被雇用者）が3分の1と最も多く、ついで学生、自営業となった。これを反映してか、学歴は大学・大学院卒とする者が3分の2以上であった。来日した理由をたずねてみると、研究・勉強、出張・海外赴任、研修の順となり、単純に仕事を求めてとするような理由は少なかった。

一方、日本での仕事をはじめとする生活状況はどのようであろうか。学生が約3分の1を占めることをふまえ、専門職・管理職が29%、現業・工場労働が17%、自営業11%となった。現在の仕事の紹介者は、友人が30%と最も多く、自ら直接訪ねたり（16%）、自ら起業したなどが相対的に多かった。収入の使用目的として最も多い回答は、生活費（64%）であり、その他の回答も娯楽費用、家や車を買う、事業資金など、自分の生活を中心に支出するとするものであり、仕送り（31%）という回答は決して多くない。現在の住宅は、民間や公共の賃貸住宅が3分の2近くをしめ、社宅や寮が合わせて約2割で、持ち家の比率はおよそ14%であった。最後に、日本滞在中にしたいことをまとめてみる（複数回答）。これによると、およそ半数は勉強して専門能力を身につけることを希望している。以下の回答項目は30%に届かないが、それぞれ順に、生活を楽しまたい、お金を稼ぎたい、良い仕事を見つけない、事業を興したいと続いている。子どもの才能を伸ばすという回答も17%ほどあった。日本での生活への期待が窺われる回答結果であった。

それでは来日して以降、イスラーム信仰について変化があるだろうか。信仰心が強くなった、すこし強くなったとする回答が半数を超え、変わらないという回答を合わせると、9割近い数字である。それでは日常的にイスラーム規範をどの程度遵守していると考えているだろうか。非常に厳密、まあまあ厳密に遵守しているとの回答が8割近く、日本での生活も従来のムスリムとしての生活と変わっていないということであろう。滞在年数や出身地域によって、この割合は異なっているが、今回の調査結果で断言できるほどの偏差ではない。普段の生活で、母国語の新聞の利用度をたずねると、3分の1は読んでいないと回答しており、情報接触が少ない層も多数存在する。食べることに主に関わるハラールショップやハラールレストラン（イスラーム規範に則った材料などを販売・使用）は、利用していない層が1~2割に上っており、相対的にレストラン利用は少なかった。次いで、モスクや礼拝所での礼拝参加についてまとめてみた。調査自体がモスクなどを通じて依頼したこともあり、ほとんどが参加しているとの回答であった。そして70%は、週1回以上参加しているとのことであり、いわゆる「金曜礼拝（イスラームの休日における集団礼拝）」にはかなりの人が定期的に参加していると考えられる。イスラーム関係の講演や勉強会への参加はどうであろうか。3割くらいの方は参加していないが、6割近くの方は頻度はマチマチであるが参加していると回答している。さらに布教活動へ

の参加についてもたずねてみた。これも3分の1強の人は参加していないが、およそ半数の人が参加しているとの回答であった。以上のように、イスラーム信仰については、日本での生活においてもあまり変化していない傾向がうかがえた。

最後の章では、日本での暮らしぶりを実態と意識の両面から取り上げている。まず日本語能力を聞いてみると、「とても出来る」と「出来る」をあわせ、出来るという人が、「聞く・話す」では50%以上、「読み」では40%、「書く」でも3分の1ほどであった。したがって日本語能力はまあまあ高いという印象である。日本人の友人の数も、「10人以上」という回答が半数近くを占めてもっとも多かった。同国人やムスリムの友人になると、「10人以上」という回答がいずれも7割近くとなり、いずれにしても友人数は、全体としてみても決して少なくはない。次いで、種々の領域における生活満足度を聞いてみた。仕事、居住、家族、医療、経済状況、日本人とのつきあいに関しては、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」をあわせほぼ7割から8割程度の満足を示し、同国人やムスリムとつきあいについては9割近い満足度を示していた。それでは悩みや不安はどうであろうか。日常的な「食べ物」や「言葉が通じない」について悩みがあるが、居住や働くことに関しての不安は少ないようである。最後に生活の総合的な満足度を聞くと、上記の領域別の結果からも予想されるように、4分の3の回答者は満足であるとの回答であった。そして、日本での生活への適応度も高いという結果となった。

以上、全体の調査結果から項目を取捨選択しながら、全体の概要を記述してみた。詳しい調査結果については、以下の各章ごとの報告に直接当たっていただきたい。なお、今後は、国際的な視点から改めて、再度報告を行う予定である。今後とも、早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室が実施する調査研究へのご協力を切にお願いする次第である。

目次

序	96
調査結果の概要	97
目次	100
第1章 調査プロセスと課題	102
「在日ムスリム調査」実施の背景	102
先行調査	103
調査企画準備	103
調査実施と課題	104
第2章 回答していただいた方々	105
回答者の年齢 (Q1)	105
回答者の出身国 (Q2)	105
回答者の婚姻の有無 (Q3)	107
配偶者の国籍 (Q3SQ1)	107
初来日年 (Q4)	108
回答者の月収 (Q28)	109
滞在年数 (Q29)	110
わが国における家族 (Q6)	110
第3章 来日前—母国での生活	112
母国の家族 (Q5)	112
母国での職業 (Q23)	113
最終学歴 (Q24)	114
来日理由 (Q25)	115
来日時の斡旋業者の利用 (Q26)	116
来日費用の調達先 (Q27)	116
第4章 日本で働く・学ぶ・住まう	118
現在の職業 (Q7)	118
雇用形態 (Q8)	119
現在の仕事の紹介者 (Q9)	120
職場の従業員数 (Q10)	121
収入の使用目的 (Q11)	122
住宅形態 (Q12)	123
住居の紹介者 (Q13)	124
日本滞在中にしたいこと (Q14)	125

第5章 信仰生活.....	127
信仰心の変化 (Q18)	127
イスラーム規範の遵守 (Q19)	128
母国語の新聞 (Q20①)	129
ハラールショップの利用 (Q20②)	130
ハラールレストランの利用 (Q20③)	131
モスクや礼拝所での礼拝 (Q20④)	132
イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)	132
布教活動(タブリーグなど)への参加 (Q20⑥)	133
第6章 日本で暮らすということ.....	136
日本語能力「聞く・話す」(Q15①)	136
日本語能力「読み」(Q15②)	137
日本語能力「書き」(Q15③)	137
日本人の友人数 (Q16①)	138
同国人の友人数 (Q16②)	139
ムスリムの友人数 (Q16③)	139
仕事満足度 (Q17①)	140
居住満足度 (Q17②)	141
家族満足度 (Q17③)	142
医療満足度 (Q17④)	142
経済状況満足度 (Q17⑤)	143
日本人との付き合い満足度 (Q17⑥)	143
同国人との付き合い満足度 (Q17⑦)	144
ムスリムとの付き合い満足度 (Q17⑧)	145
現在の悩みや心配事 (Q21)	146
総合的な生活満足度 (Q22)	147
日本の生活への適応度 (Q31)	148
資料：日本語および英語調査票.....	149
執筆者一覧 (2006年8月現在)	155

第1章 調査プロセスと課題

「在日ムスリム調査」実施の背景

現在、アジア域内からの外国人入国者数の増加とともに、イスラーム諸国会議機構³⁹加盟国出身者をはじめとして、ムスリムの入国者数も増加傾向にある

現在は、出入国管理政策の改定などの要因により、イランやパキスタン、バングラデシュをはじめとする国々からの入国者は、一時に比べ激減しているものの、在日ムスリム人口は漸増傾向にある。また、上記の現状とリンクする形で、現在日本各地にムスリムが集うモスク⁴⁰や、ハラール・ショップ⁴¹があることが確認されている。加えて、エスニックメディアなども多数活動し、雑誌や新聞などが発刊されているのが現状である。

わが国では、在日ムスリムを対象とした社会調査としては、これまでイラン人を対象とした東京大学医学部保健社会学教室による「上野の街とイラン人—摩擦と共生—」（1992年）および、筑波大学社会学研究室『在日イラン人—景気後退下における生活と就労』（1994年）が在日ムスリムに対する社会調査として実施されてきた。

しかしこれらの調査は、1990年代前半という、外国人労働者の「問題」が顕在化した時期にあつて、日本に流入した外国人の、ひとつの類型としてイスラーム諸国出身者を対象としたものであり、在日のイスラーム教徒に焦点を当てた包括的調査とは言いがたい。

一方、ニューカマー外国人である、中国人、日系ブラジル人に対する量的調査としては、学術研究として、奥田道大・田嶋淳子編『池袋のアジア系外国人』（1991年）をはじめ、小内透・酒井恵真編『日系ブラジル人の定住化と地域社会』（2001年）など、数多く出版されている。

また、自治体による外国人住民意識調査は、『千葉市在住外国人意識調査報告書』（1999年）、『神奈川県在住外国人意識調査報告書』（1985年）、『浜松市における外国人の生活実態・意識調査—日系ブラジル・ペルー人を中心に』（1992年）、『広島市外国人市民生活・意識実態調査結果』（2002年）などをはじめ、多数の報告書が刊行されている。

したがって、在日外国人に関する調査研究が稀少であるとは言えない状況であるが、こと在日ムスリムに関しては、上記調査のほかにインタビュー調査によるものが散見される程度であり、決して多くない。

この背景には、在日ムスリムの外国人人口に占める割合の量的な少なさがあるが、世界人口の20%近くがムスリムである現実、更には、先に述べたようなムスリム・コミュニティが各地に形成されつつあるという現状を鑑みるならば、日本社会の枠内の事情だけにとらわれて調査研究の少なさを正当化すべきではないと考えられた。こうしたことを踏まえ、早稲田大学人間科学研究科アジア社会論研究室は「在日ムスリム調査」を企画した。

³⁹ Organization of Islamic conference

⁴⁰ イスラーム寺院

⁴¹ イスラーム法に則った食材や日用品が販売される店舗

先行調査

今回の調査研究のプロトタイプとなる調査は、2004年度の後期から開始している。もともと本調査は、2004年5月から準備が行われ、他の研究機関の財政的支援のもとに行われる予定であったが、日本国内におけるいわゆる「イスラーム原理主義活動家」の滞在が判明したことなどが報道されて、同上機関の調査方針が転換され、一時中断した。

しかし、研究主題の重要性に鑑みて、アジア社会論研究室が通常の研究予算の範囲内で、予備的な調査を独自に実施することとした。したがって、ある程度まで進んでいた資料の収集や調査報告書の解析にもとづいて、調査企画を練り直し、調査規模を縮小して、2004年10月15日に始まったイスラームの重要な宗教行事である断食月の開始にあわせて調査を開始した。

2004年度調査ではまず、(1) 在日ムスリムの生活実態を国籍を問わず総合的に把握することを第一の目的とした。次に、イスラームが持つネットワーク性に注目し、(2) 在日ムスリムが形成する(越境する)ネットワークを明らかにする。さらに、(3) 彼らが日本社会にどのように適応しているのかを把握する、という作業から(4) 日本人社会が外国人ムスリムにどのように接してきたのかを分析し、(5) 日本人と在日ムスリムの共生にとっての必要条件を探る。以上の5つが主な調査目的として設定された。

対象者数は、100人前後を予定し、英語およびベンガル語による質問紙を使用した面接調査であった。しかし、調査票設計の問題、統計分析に足る票数が回収できなかったことなど技術的な問題をはじめ、多くの課題を残す結果となったが、2005年3月に単純集計結果のみをまとめた小冊子『Survey of Muslims living in Japan 2004』を刊行し、調査票や調査結果を次年度以降に予定された調査に引き継ぐこととした。

調査企画準備

本調査は、2004年度の先行調査で得られた課題を元に、2005年度に改めて企画されたものである。企画の直接的な契機となったのは、日本学術振興会科学研究費助成(基盤C、課題番号17530394)「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」の採択であった。

今回の調査は在日ムスリムを対象とした面接聴き取りによる質問紙を使用した調査として企画され、(1) 在日ムスリムの総合的な生活実態の把握と、(2) 在日ムスリムの社会的ネットワークに着目しつつ、彼らの適応について把握することを目的とした。

質問項目は、2004年度の先行調査の目的・問題意識を継承しながらも、大幅に再構成がおこなわれた。その結果、具体的には、適応及び社会的ネットワークに関わる質問群をはじめ、仕事と労働環境、住居と周辺環境、日本人・日本社会との関係、その他の生活行動、総合的な生活満足度、滞日志向性などから構成した。また、ムスリムに固有と思われる宗教生活に係る質問群を設けた。先行調査との大きな違いは、項目の内容もさることながら対象者の回答のしやすさを重視したことである。少ない調査人員で回収率を向上させること、企画検討の段階で面接聴き取り方式は本調査になじまないことも明らかとなり、最終的には自記式の配票調査として設計することとした。

調査票は、国籍を問わず在日ムスリムの実態を把握する必要性から、多言語にて作成することが求められた。まず英語調査票を準備したうえで、翻訳については、東京外国語大学教授林佳世子氏にご協力を仰ぎ、英語を理解し各国語を母語とする翻訳者の方を紹介していただいた。この作業は、2005年7月頃から開始し、9月末までにはほぼ終了した。残念ながらトルコ語については適切な翻訳者があられず、最終的に、アラビア語、ペルシャ語、ウルドゥー語、ベンガル語、インドネシア語、マレー語、英語の7ヶ国語の調査票を用意した（参照用として日本語）。

調査実施と課題

わが国の外国籍を有するムスリムの人口を算出すると、およそ9.2～10.2万人との結果が得られる⁴²。また、都道府県別に各国のムスリム人口を算出し、その分布状況を見ると、およそ、関東から中部東海地方にかけて、人口の大規模な集中が見て取れる。

本調査は、こうした現状に鑑み、関東大都市圏、とりわけ人口の集中が見られる首都圏周辺を調査地として選定した。調査は、主に首都圏に位置するモスクにて、2005年11月から2006年6月にかけて行われた。具体的な調査地は、東京ジャーミー、八王子モスク、お花茶屋モスク、大塚モスク、バライ・インドネシア学校、海老名モスク、アラブ・イスラーム学院の計7ヶ所である。このうち6ヶ所が東京都内に位置し、海老名モスクは神奈川県に位置する。

調査の実施に際しては、事前に代表者に電話で趣旨説明と協力の要請を行った。調査票の配布については、6ヶ所のモスクでは、調査員が直接モスクを訪問し行った。残る1ヶ所は、我々がモスク内で調査を行うことが出来なかったため、郵送により調査票を送付し、配布していただいた。なお、いずれのモスクでも各対象者へ、個別の趣旨説明と協力の要請を再度行った。前述したように当初は面接調査を考えたが種々の事情で、ムスリム自身に記入してもらう自記式を採用した。

調査票の回収に関しては、配布直後に記入していただいたものについてはその場で回収し、その場で記入することが困難なものについては、再度モスクに出向いた際に回収、あるいは返送用封筒を用意し、郵送していただく形をとった。調査には結局半年以上の期間を要したこととなったが、今回の調査報告書に使用できる調査票として、最終的な有効回収票数は149票となった。なお、回答者の性別はすべて男性である。当然ながら在日ムスリム女性も存在するが、われわれの調査方法では女性と接触する機会がほとんどなく、回収数も極端に少なくなることが予想できたため、当初より今回の分析調査対象からは除外した。

今回の調査は、アジア社会論研究室にとっても多くの課題を改めて提示することとなった。在日ムスリム自体は、全国に散らばって居住しており、その全体像をつかむのは容易ではない。今回は関東大都市圏を対象としたが、同時に実施している全国のモスクや礼拝所の調査と同じく対象地域の範囲を拡大した調査が今後の課題である。また、対象者についても、回答者にイラン人がまったくいなかったことにならわれているように、偏りを如何に解消するかもこれからの課題となる。さらに、調査内容や調査方法についても、今回の経験をふまえ、さらに改良することが必要であり、新たな調査研究の機会をとらえて再度取り組むことにしたい。

⁴² ①正規在留のムスリムについては『在留外国人統計』に記載された国籍別登録者数に、各国別のムスリム比率の推計値を乗ずることによって推計を試み、②不法残留者については、毎年法務省が公開している「本邦における不法残留者数について」に記載された値に同じ比率を乗じることで算出した。上記①と②の和が外国人ムスリムの人口推計値となり、上記の結果が得られる。

第2章 回答していただいた方々

回答者の年齢 (Q1)

本調査において、回答して頂いたのは149名である。回答者の年齢は、最年少が19歳、最年長が67歳であり、平均年齢は32.2歳で男性のみであった。図表2-1より、回答者の年齢分布は10代が2.0% (3名)、20代が36.9% (55名)、30代が44.3% (66名)、40代が10.7% (16名)、50代が1.3% (2名)、60代が2.0% (3名)であり、回答者の大半は20代から30代の若い世代で構成されている事が分かる。

また回答者の年齢分布を滞在年数で見たものが図表2-2である。回答者の大半は20代と30代であるが、これらを滞在年数で比較すると、2年未満は、20代が43.9%、30代が48.8%で、2-5年未満は20代が37.0%、30代が52.2%、5-10年未満は20代が57.9%、30代が26.3%、10年以上は20代が3.1%、30代が46.9%であり、滞在年数によりその比率は変化している。また10代は2年未満と5-10年未満に、50代は2年未満と2-5年未満に、60代は10年以上に見られた。

図表2-2 回答者の年齢分布 (Q1)

		回答者数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答
滞在年数	2年未満	41	4.9	43.9	48.8	-	2.4	-	-
	2-5年未満	46	-	37.0	52.2	6.5	2.2	-	2.2
	5-10年未満	19	5.3	57.9	26.3	5.3	-	-	5.3
	10年以上	32	-	3.1	46.9	37.5	-	9.4	3.1
総数		149	2.0	36.9	44.3	10.7	1.3	2.0	2.7

(注：滞在年数不詳11名)

回答者の出身国 (Q2)

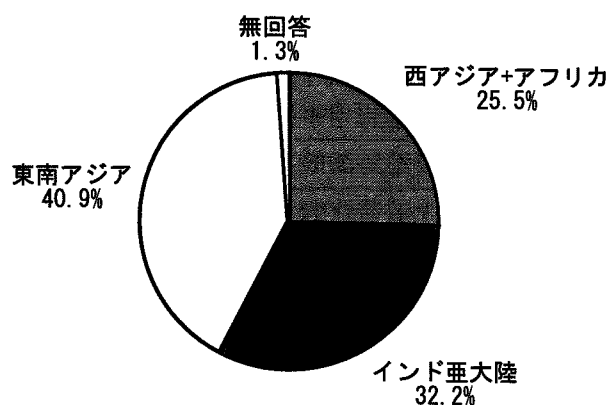
図表2-3のように、回答者の出身国は20カ国からなり、インドネシアが最も多く35.6% (53名)、ついでバングラデシュが16.1% (24名)、パキスタンが11.4% (17名)であった。なお、最近の日本における在日ムスリムの出身国として外国人登録者数の上位に並ぶ国々として、インドネシア、マレーシア、バングラデシュ、パキスタン、イランなどがある。

図表2-4では、これらの出身国を、西アジア・アフリカ、インド亜大陸、東南アジアの3地域に分類したところ、それぞれ25.5% (38名)、32.2% (48名)、40.9% (61名)、無回答が1.3% (2名)であった。

図表 2-3 回答者の出身国 (Q2)

出身国	回答者数	%
インドネシア	53	35.6
バングラデシュ	24	16.1
パキスタン	17	11.4
マレーシア	8	5.4
トルコ	7	4.7
セネガル	5	3.4
エジプト	4	2.7
スリランカ	4	2.7
インド	3	2.0
ガーナ	3	2.0
スーダン	3	2.0
モロッコ	3	2.0
UAE	2	1.3
アフガニスタン	2	1.3
サウジアラビア	2	1.3
パレスチナ	2	1.3
新疆ウイグル自治区	2	1.3
キルギスタン	1	0.7
ニジェール	1	0.7
ヨルダン	1	0.7
無回答	2	1.3
総数	149	100

図表2-4 回答者の出身地域 (Q2)



図表 2-5 より、出身地域で見ると、西アジア・アフリカ出身者は 20 代と 30 代で 8 割を超え、40 代にも 15.8%の回答者が見られる。インド亜大陸出身者は 30 代に全体の半数近くが集中しており、また 60 代の回答者もみられる。一方で東南アジア出身者は 10 代と 50 代も確認でき、30 代が 44.3%と最も多いが、10 代と 20 代を含めた 30 代以下の占める比率は、85%である。こうした背景には、

今回の回答者にしめる留学生や研修生の多さも関係するものと思われる⁴³。

図表 2- 5 回答者の出身地域 (Q2)

	総数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答
出身地域 西アジア・アフリカ	38	-	42.1	42.1	15.8	-	-	-
インド亜大陸	48	-	33.3	45.8	10.4	-	6.3	4.2
東南アジア	61	4.9	36.1	44.3	8.2	3.3	-	3.3
合計	149	2.0	36.9	44.3	10.7	1.3	2.0	2.7

(注：出身地域不詳 2名)

回答者の婚姻の有無(Q3)

図表 2-6 のように、回答者の婚姻の有無に関しては、63.8% (95 名) の回答者が「既婚」、36.2% (54 名) の回答者が「未婚」であった。次に、これらを滞在年数および出身地域で比較してみた。図表 2-7 に示したとおり、滞在年数が 10 年未満では、「既婚」「未婚」の割合は、ほぼ 6 対 4 である。しかし滞在年数が「10 年以上」の長期滞在者では、9 割以上が既婚者である。

図表 2- 7 婚姻の有無 (Q3)

		回答者数	既婚	未婚
滞在年数	2年未満	41	58.5	41.5
	2-5年未満	46	58.7	41.3
	5-10年未満	19	57.9	42.1
	10年以上	32	90.6	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	60.5	39.5
	インド亜大陸	48	70.8	29.2
	東南アジア	61	59.0	41.0
総数		149	63.8	36.2

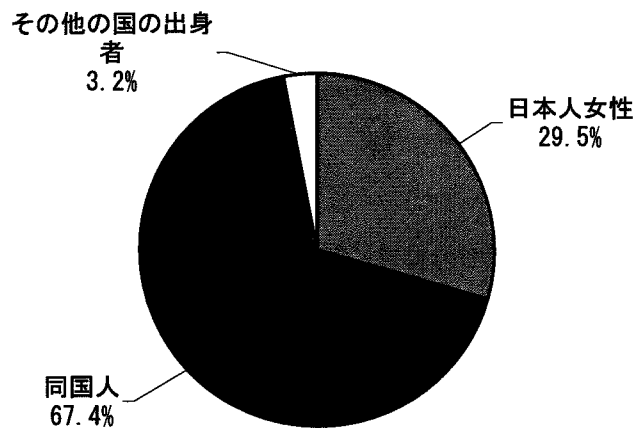
(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

配偶者の国籍 (Q3S01)

次に、これら既婚者の妻の国籍を尋ねた。図表 2-8 より、既婚者の 7 割以上が日本人以外の女性と結婚している事が分かる。またその大半は回答者と同じ出身国である。一方で 3 割弱の回答者は日本人女性と結婚していることが分かる。

⁴³ 詳しくは、回答者の職業について述べている、第 4 章の Q7 を参照。

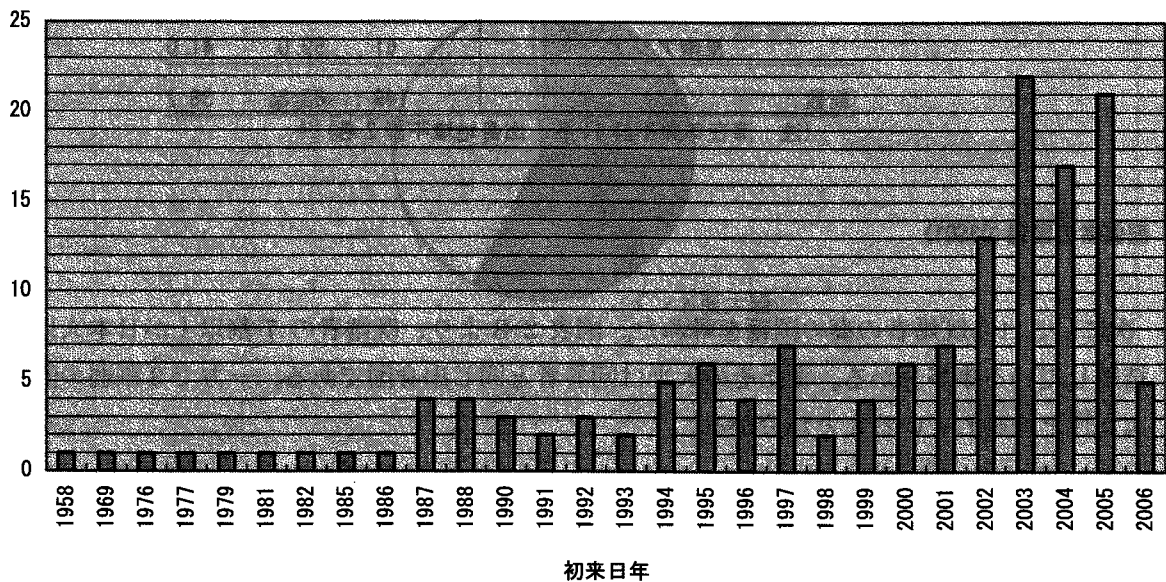
図表 2?8 配偶者の国籍 (Q3 SQ1)



初来日年 (Q4)

図表 2-9 より、回答者の初来日年の度数を図示した。1958 年から 1986 年までは、表示された各年に 1 人ずつ来日している。しかし 1987 年から 2001 年までは、毎年 2 人から 7 人程度の間で増減を繰り返している。2002 年から 2005 年までの期間は、来日をした回答者数が急激に増加をしていることが確認される。

図表 2 - 9 初来日年 (Q4)



回答者の月収 (Q28)

ここでは回答者の月収を尋ねている。回答者全体で見ると、図表 2-10 のように、「10～20 万円未満」が最も多く、「20～30 万円未満」と合わせると全体の半数以上を占めることが分かる。一方で「10 万円未満」の回答者も 13.4%見られ、これらは留学生のアルバイトなどが該当するものと思われる⁴⁴。

次に月収を滞在年数および出身地域で比較してみた。図表 2-11 より、滞在年数に関しては月収との間である程度の正の相関性を見つける事ができる。しかし滞在年数が 2 年未満の回答者のうち、月収が「40～50 万円」の回答者が 7.3%、また 2～5 年未満の回答者のうち「月収 50 万円以上」の回答者は 13%いることが確認出来る。5 年～10 年未満では、「10～20 万円未満」の比率が最も大きく 57.9%であるが、10 年以上では「20～30 万円未満」の比率が最も大きく、46.9%である。

また出身地域で見ると、西アジア・アフリカ出身者は「月収 50 万円以上」の回答者の占める比率が最も大きく、7.9%である。一方で 10 万円未満の回答者の比率が 3 地域中で最も少ない。

一方で東南アジア出身者は、全体のうち「10～20 万円未満」の比率が 34.4%で最も大きく、「10 万円未満」の比率も 16.4%と他の 2 地域よりも大きい。

図表 2- 11 回答者の月収 (Q28)

		回答者数	10万円未満	10-20万円未満	20-30万円未満	30-40万円未満
滞在年数	2年未満	41	24.4	31.7	9.8	2.4
	2-5年未満	46	10.9	39.1	15.2	2.2
	5-10年未満	19	10.5	57.9	21.1	5.3
	10年以上	32	3.1	9.4	46.9	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	28.9	26.3	7.9
	インド亜大陸	48	14.6	27.1	25	8.3
	東南アジア	61	16.4	34.4	13.1	4.9
総数		149	13.4	31.5	20.1	6.7

		40-50万円未満	50万円以上	わからない	無回答
滞在年数	2年未満	7.3	2.4	17.1	4.9
	2-5年未満	2.2	13	6.5	10.9
	5-10年未満	—	—	5.3	—
	10年以上	3.1	6.3	6.3	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	—	7.9	13.2	7.9
	インド亜大陸	2.1	4.2	8.3	10.4
	東南アジア	6.6	6.6	6.6	11.5
総数		3.4	6	8.7	10.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

⁴⁴ 詳しくは、回答者の就業状態について述べている、第 4 章の Q8 を参照。

滞在年数 (Q29)

図表 2-12 では回答者の滞在年数を示している。これら滞在年数を以下の7つのカテゴリーに分類し、回答者の出身地域で比較した。これより、西アジア・アフリカ出身者には滞在年数が「1年未満」と短い回答者が23.7%と比較的多かった。インド亜大陸出身者は全体における15年以上の長期滞在者の占める比率が、他と比較して多く22.9%である。東南アジア出身者は3年未満の回答者数が全体の半数を超えており、特に「1-2年未満」の回答者が前2者と比較しておよそ倍で、19.7%である。一方で、滞在年数が「15年以上」の長期滞在者は著しく少なく1.6%である。

図表 2-12 回答者の滞在年数 (Q29)

		回答者数	1年未満	1-2年未満	2-3年未満	3-5年未満
出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	10.5	2.6	21.1
	インド亜大陸	48	8.3	10.4	18.8	10.4
	東南アジア	61	11.5	19.7	23	13.1
総数		149	13.4	14.1	16.1	14.8

		5-10年未満	10-15年未満	15年以上	無回答
出身地域	西アジア・アフリカ	10.5	18.4	7.9	5.3
	インド亜大陸	8.3	10.4	22.9	10.4
	東南アジア	16.4	8.2	1.6	6.6
総数		12.8	11.4	10.1	7.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

わが国における家族 (Q6)

わが国における家族構成については、全体で51.0%が「配偶者」と回答しており、次いで「子ども」(33.6%)、「その他」(18.8%)、「兄弟」(10.1%)と続く。「その他」の具体的な回答としては、友人が挙げられる。滞在年数別には、いずれのカテゴリーにおいても「配偶者」と「子ども」は特徴的な項目となっているが、特に「10年以上」において特に顕著(それぞれ78.1%、50.0%)である。2年未満と2~5年未満では「その他」の選択率の高さが特徴的である。10年以上では「その他」は存在しない結果となった。出身地域別には、インド亜大陸では「父」(12.5%)、「母」(14.6%)、「兄弟」(20.8%)、東南アジアでは「その他」(27.9%)が特徴的な項目として挙げられる(図表2-13)。

図表 2-13 わが国における家族構成 <複数回答> (%)

滞在年数	回答者数	祖父	父	母	配偶者	兄弟	姉妹	子ども	その他
		母							
2年未満	41	—	7.3	9.8	43.9	9.8	9.8	24.4	22.0
2-5年未満	46	—	—	6.5	47.8	8.7	4.3	34.8	30.4
5-10年未満	19	5.3	10.5	10.5	42.1	5.3	10.5	31.6	10.5
10年以上	32	—	9.4	9.4	78.1	12.5	3.1	50.0	—

出身地域	西アジア・アフリカ	38	—	2.6	5.3	52.6	7.9	7.9	31.6	13.2
	インド亜大陸	48	2.1	12.5	14.6	47.9	20.8	8.3	27.1	12.5
	東南アジア	61	—	3.3	6.6	50.8	3.3	3.3	39.3	27.9
総数		149	0.7	6.0	8.7	51.0	10.1	6.0	33.6	18.8

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

以下の図表 2-14 は、在日ムスリムの、わが国における家族類型を示したものである。回答者と親族関係にある世帯員がいる親族世帯は全体の 60.4%であった。「単独世帯」は 23.5%。同居しているものの中に回答者と親族関係にある者がいない「非親族世帯」は、16.1%であった。具体的に見ると、「夫婦と子どもから成る世帯」(33.6%)、「単独世帯」(23.5%)、「夫婦のみの世帯」「非親族世帯」(ともに 16.1%) の割合が高く、わが国における家族類型は、核家族型あるいは単身型が特徴として挙げられる。なお「非親族世帯」の世帯員について、その具体的な回答としては、友人が最も多い。

図表 2-15 は、滞在年数および出身地域と、家族類型のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、2 年未満および 2~5 年未満はほぼ同様の傾向を示しており、「夫婦+子ども」「単独世帯」「非親族世帯」の割合が高い。5~10 年未満では、「夫婦+子ども」「単独世帯」の割合が高い。10 年以上では、「単独世帯」が約 1 割にとどまり、「夫婦+子ども」に加え「夫婦のみ」の割合が高くなっている。概ね滞在年数の長期化とともに単身型は減少し、核家族型の割合が増加する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカでは「夫婦+子ども」(34.2%)、「単独世帯」(26.3%)、「夫婦のみ」(21.1%) の割合が高い。インド亜大陸では、「単独世帯」(27.1%)、「夫婦+子ども」(22.9%) の割合が高い。また、「その他の親族世帯」の割合が 14.6%と他のカテゴリーと比較して著しく高い。なお、インド亜大陸出身者における「その他の親族」の具体的な回答としては、兄弟・姉妹が最も多い。東南アジアでは、「夫婦+子ども」(41.0%)、「非親族世帯」(24.6%)、「単独世帯」(19.7%) の割合が高く、とりわけ非親族世帯の割合が他のカテゴリーと比較して著しく高い。

図表 2-15 わが国における家族類型 (％)

		回答者数	夫婦のみ	夫婦+子ども	一人親+子ども	夫婦+親	夫婦+子ども+親	その他の親族世帯	非親族世帯	単独世帯
滞在年数	2 年未満	41	14.6	29.3	2.4	2.4	—	2.4	19.5	29.3
	2-5 年未満	46	13.0	28.3	2.2	—	2.2	8.7	23.9	21.7
	5-10 年未満	19	10.5	36.8	—	—	5.3	—	10.5	36.8
	10 年以上	32	28.1	46.9	3.1	—	3.1	9.4	—	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	34.2	2.6	—	—	2.6	13.2	26.3
	インド亜大陸	48	18.8	22.9	4.2	—	4.2	14.6	8.3	27.1
	東南アジア	61	9.8	41.0	—	1.6	1.6	1.6	24.6	19.7
総数		149	16.1	33.6	2.0	0.7	2.0	6.0	16.1	23.5

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

第3章 来日前—母国での生活

本章では在日ムスリムが日本に来る以前の母国における生活に関し、滞在年数と出身地域から概観する。具体的には、母国における家族構成、職業、学歴、来日理由、来日時の斡旋業者の利用、来日費用の調達先に関する回答につき、滞在年数別、出身地域別にクロス集計した結果を考察する。

母国の家族 (Q5)

母国における家族構成については、全体で80%近くが「兄弟」「姉妹」がいると回答しており、次いで「母」77.9%、「父」65.8%となっている。もっとも少ないのは「子ども」20.1%であり、次に「配偶者」21.5%となっている。このことは特に西アジア・アフリカ出身の回答者に顕著であり、「子ども」10.5%、「配偶者」13.2%というように、その他の属性と比較してもっとも低い数値を示している(図表3-1)。

図表3-1 母国の家族構成 (Q5)

<複数回答>

(%)

		回答者数	祖父 母	父	母	配偶者	兄弟	姉妹	子ども	その他
滞在年数	2年未満	41	41.5	80.5	80.5	19.5	82.9	78.0	14.6	12.2
	2-5年未満	46	41.3	69.6	84.8	21.7	82.6	87.0	26.1	8.7
	5-10年未満	19	42.1	73.7	73.7	21.1	78.9	78.9	26.3	-
	10年以上	32	9.4	46.9	71.9	25.0	75.0	75.0	18.8	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	39.5	57.9	76.3	13.2	81.6	73.7	10.5	7.9
	インド亜大陸	48	27.1	60.4	79.2	27.1	83.3	87.5	22.9	8.3
	東南アジア	61	36.1	77.0	80.3	21.3	77.0	80.3	23.0	8.2
総数		149	33.6	65.8	77.9	21.5	79.2	79.9	20.1	8.1

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

以下の図表3-2は、在日ムスリムの、母国における家族類型を示したものである。回答者と親族関係にある世帯員がいる親族世帯が全体の95.9%を占めている。具体的な構成をみると、「その他の親族世帯」(34.9%)、「夫婦、子どもと親から成る世帯」(26.8%)、「夫婦と子どもから成る世帯」(23.5%)の割合が高い。「一人親と子どもから成る世帯」が10.7%を占めているが、その多くは回答者の配偶者と子どもから成る世帯とも考えられる。今回の調査では設計上の問題から、母国の家族について正確な情報が得られたとは言えず、今後の課題として確認しておきたい。「その他の親族世帯」の具体的な形態としては、核家族型に更に兄弟姉妹が同居しているケースなどが挙げられる。わが国における家族類型(図表2-14参照)とは対照的に、「単独世帯」「夫婦のみ世帯」の割合が著しく低く、

「非親族世帯」と回答したものはいなかった。

図表 3-3 は、滞在年数および出身地域と、家族類型のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、10 年未満のカテゴリーでは、「夫婦＋子ども＋親」の割合が約 30%であるのに対して、10 年以上では、その割合は 15%程度にとどまる。出身地域別に見ると、各地域ともほぼ同様の傾向を示しているが、西アジア・アフリカでは「夫婦＋子ども＋親」が 31.6%と最も割合が高く、インド亜大陸、東南アジアでは「その他の親族世帯」の割合（それぞれ 43.8%、36.1%）が最も高い。

図表 3-3 母国における家族類型 (%)

		回答者数	夫婦のみ	夫婦＋子ども	一人親＋子ども	夫婦＋子ども＋親	その他の親族世帯	単独世帯
滞在年数	2 年未満	41	2.4	24.4	9.8	31.7	31.7	—
	2-5 年未満	46	—	15.2	13.0	30.4	37.0	4.3
	5-10 年未満	19	—	31.6	5.3	31.6	26.3	5.3
	10 年以上	32	—	31.3	12.5	15.6	37.5	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	—	21.1	15.8	31.6	23.7	7.9
	インド亜大陸	48	—	20.8	12.5	22.9	43.8	—
	東南アジア	61	1.6	26.2	6.6	27.9	36.1	1.6
総数		149	0.7	23.5	10.7	26.8	34.9	3.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

母国での職業 (Q23)

母国での職業は、「専門職・管理職」がもっとも多く 34.2%、次いで「学生」30.8%、「自営業」14.4%であった (図表 3-4)。

滞在年数別にみても、滞在年数 5 年未満では 40%以上が「専門職・管理職」と回答しているが、滞在年数 5～10 年未満の回答者では、「学生」がもっとも多く 47.4%で、ついで「専門職・管理職」、「事務・営業」がそれぞれ 15.8%と 2 番目に多い。滞在年数 10 年以上では「専門職・管理職」と「学生」がそれぞれ 30.0%と並んだが、「自営業」も 23.3%と相対的に高い。

出身地域別では、西アジア・アフリカで「学生」が 44.7%と最も多く、次いで「専門職・管理職」28.9%、「自営業」15.8%であった。インド亜大陸では「専門職・管理職」がもっとも多く 33.3%、次いで「自営業」24.4%、「学生」26.7%であった。東南アジアでは「専門職・管理職」が 39.3%、「学生」が 23.0%であったが、「現業・工場労働」が約

10%を占めている（図表3-5）。

図表3-5 母国での職業（Q23）

(%)

		回答者数	自営業	被雇用者(専門 職・管理職)	被雇用者(事 務・営業)	被雇用者(現 業・工場労働)
滞在年数	2年未満	41	9.8	41.5	7.3	4.9
	2-5年未満	46	13.0	43.5	-	6.5
	5-10年未満	19	10.5	15.8	15.8	5.3
	10年以上	30	23.3	30.0	3.3	6.7
出身地域	西アジア・アフリカ	38	15.8	28.9	2.6	2.6
	インド亜大陸	45	24.4	33.3	4.4	4.4
	東南アジア	61	6.6	39.3	6.6	9.8
総数		146	14.4	34.2	4.8	6.2

		被雇用者 (農林水産業)	家事手伝い	無職・失業中	学生	無回答
滞在年数	2年未満	-	4.9	2.4	26.8	2.4
	2-5年未満	-	2.2	2.2	30.4	2.2
	5-10年未満	-	-	5.3	47.4	-
	10年以上	3.3	-	-	30.0	3.3
出身地域	西アジア・アフリカ	-	2.6	-	44.7	2.6
	インド亜大陸	2.2	-	-	26.7	4.4
	東南アジア	-	3.3	4.9	23.0	6.6
総数		0.7	2.1	2.1	30.8	4.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

最終学歴（Q24）

最終学歴は、全体で68.5%が「大学・大学院」卒業と回答しており、次いで「高校」13.4%、「専門学校・短大」9.4%となっており、回答者は平均的に高学歴であったといえよう（図表3-6）。

滞在年数別でみると、どの滞在年数別グループでも「大学・大学院」がもっとも多かったが、滞在年数2年未満では80%以上が「大学・大学院」と回答しており、滞在年数10年未満の回答者全体では「高校」以上の学歴を回答した者が95%を超えていた。いっぽう滞在年数10年以上では「大学・大学院」の回答者は59.4%にとどまる。

出身地域別では、どの地域でも「大学・大学院」がもっとも多かったが、西アジア・アフリカで「大学・大学院」の回答がもっとも多く81.6%、次に東南アジア67.2%、インド亜大陸58.3%となっている（図表3-7）。

図表 3-7 最終学歴

(%)

		回答者数	小学校	中学校	高校	専門学校・ 短大	大学・ 大学院	無回答
滞在年数	2年未満	41	-	4.9	9.8	2.4	82.9	-
	2-5年未満	46	2.2	2.2	17.4	13.0	65.2	-
	5-10年未満	19	-	-	21.1	5.3	73.7	-
	10年以上	32	9.4	3.1	6.3	18.8	59.4	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	5.3	-	7.9	2.6	81.6	2.6
	インド亜大陸	48	4.2	4.2	12.5	18.8	58.3	2.1
	東南アジア	61	-	3.3	18.0	6.6	67.2	4.9
総数		149	2.7	2.7	13.4	9.4	68.5	3.4

(注：滞在年数不詳 11名、出身地域不詳 2名)

来日理由 (Q25)

来日理由でもっとも多かったのは「研究・勉強」(37.6%)で、ついで「出張・海外赴任」(18.1%)、「研修」(14.1%)となっている(図表3-8)。

滞在年数別でも、すべての滞在年数グループで「研究・勉強」がトップを占めているが、滞在年数2年未満では「研修」(24.2%)、「家族・親族の呼寄せ」(17.1%)が続く。滞在年数5~10年未満では「出張・海外赴任」と「家族・親族の呼寄せ」が15.8%で同率であった。

出身地域別でも、すべての地域で「研究・勉強」がもっとも多い回答であったが、西アジア・アフリカでは「研修」(23.7%)が2番目に多く、「その他」(18.4%)が続く。「その他」の具体的な回答としては、「日本人妻」「観光」などが挙げられる。インド亜大陸では他のグループと比較して「研究・勉強」が27.1%と少なく、「その他」(20.8%)、「出張・海外赴任」(18.8%)となっている。「その他」の具体的な回答としては、「日本に生まれた」「宗教法人に雇用されている」があった。また、「お金が稼げる」(16.7%)、「仕事があると聞いた」(14.6%)といった、出稼ぎ的理由も目立つ(図表3-9)。

図表 3-9 来日理由 (Q25)

<複数回答>(%)

		回答者数	入国しや すさ	斡旋業者 の紹介	仕事がある と聞いた	お金が稼 げる	家族・親族 の呼寄
滞在年数	2年未満	41	-	-	4.9	9.8	17.1
	2-5年未満	46	4.3	2.2	4.3	8.7	6.5
	5-10年未満	19	-	-	5.3	10.5	15.8
	10年以上	32	3.1	-	9.4	-	-
出身地域	西アジア・アフリカ	38	-	-	-	-	7.9
	インド亜大陸	48	6.3	-	14.6	16.7	4.2
	東南アジア	61	-	1.6	3.3	4.9	14.8
総数		149	2.0	0.7	6.0	7.4	9.4

		友人・知人 の呼寄	研修	研究・ 勉強	出張・ 海外赴任	その他	無回答
滞在年数	2年未満	2.4	24.4	39.0	14.6	22.0	-
	2-5年未満	4.3	10.9	34.8	23.9	10.9	-
	5-10年未満	-	5.3	57.9	15.8	5.3	-
	10年以上	6.3	12.5	40.6	18.8	15.6	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	5.3	23.7	50.0	5.3	18.4	2.6
	インド亜大陸	6.3	6.3	27.1	18.8	20.8	2.1
	東南アジア	-	14.8	36.1	26.2	9.8	4.9
総数		3.4	14.1	37.6	18.1	15.4	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

来日時の斡旋業者の利用 (Q26)

来日に際し、斡旋業者を利用したかという問いについては、80%以上が「利用していない」と回答している(図表3-10)。このことは、滞在年数や出身地域によっても差が無いが、もっとも多く「利用していない」と回答したのは滞在年数2年未満で92.7%、西アジア・アフリカ出身者で86.8%となっている。逆に、もっとも多く「利用した」と回答したのは滞在年数2~5年未満で23.9%、インド亜大陸出身者で18.8%となっている。(図表3-11)

図表3-11 斡旋業者の利用 (Q26) (％)

		回答者数	利用した	利用していない	無回答
滞在年数	2年未満	41	7.3	92.7	-
	2-5年未満	46	23.9	73.9	2.2
	5-10年未満	19	5.3	94.7	-
	10年以上	32	12.5	78.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	86.8	5.3
	インド亜大陸	48	18.8	79.2	2.1
	東南アジア	61	14.8	78.7	6.6
総数		149	14.1	80.5	5.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

来日費用の調達先 (Q27)

来日費用をどのように調達したかという問いについては、30.2%が「国費」と回答し、次いで「自己資金」29.5%、「家族・親族」25.5%となっている(図表3-12)。

滞在年数別では、滞在年数10年未満のすべてのグループでもっとも多い回答が「国費」、そして「自己資金」「家族・親族」となっているが、滞在年数10年以上では「家族・親族」がもっとも多く40.6%であった。出身地域別でみると、西アジア・アフリカおよび東南アジア出身者で「国費」がもっとも多く、「自己資金」「家族・親族」と続くが、インド亜大陸では「家族・親族」が43.8%ともっとも多かった。(表3-13)

図表3-13 来日費用の調達先 (Q27)

<複数回答> (%)

		回答者数	国費	自己資金	斡旋業者	家族・ 親族	友人・ 知人	その他	無回答
滞在年数	2年未満	41	36.6	31.7	4.9	22.0	4.9	12.2	-
	2-5年未満	46	34.8	26.1	2.2	21.7	4.3	13.0	-
	5-10年未満	19	42.1	31.6	-	21.1	5.3	26.3	-
	10年以上	32	15.6	31.3	-	40.6	3.1	9.4	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	39.5	34.2	-	18.4	2.6	15.8	2.6
	インド亜大陸	48	10.4	35.4	-	43.8	6.3	8.3	2.1
	東南アジア	61	39.3	23.0	8.2	16.4	3.3	16.4	4.9
総数		149	30.2	29.5	3.4	25.5	4.0	13.4	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

在日ムスリムの母国における家族は、三世代以上の家族である。母国では高等教育を受け、専門職・管理職に就いていたが、研究や勉強を目的として、斡旋業者を利用せず、国費、または自己資金で来日した者が多かった。

母国における家族については滞在年数や出身地域によってほとんど差は無かったが、職業については、滞在年数5年を区切りとして、5年未満の者は「専門職・管理職」、5年以上の者は「学生」という傾向がみられた。出身地域では西アジア・アフリカ出身者で「学生」が目立った。学歴については、滞在年数が短いほど高等教育を受けており、また西アジア・アフリカ出身者に高学歴の者が多かったといえる。

来日理由では、インド亜大陸出身の回答者の約3割が出稼ぎに類する回答をした以外は、研究・勉強、出張・海外赴任、研修といった回答が多数派を占めていたことから、ほとんどの者が斡旋業者を利用せず来日した。それでも滞在年数2～5年未満およびインド亜大陸出身者の約5人に1人が斡旋業者を利用していた。また、滞在年数10年以上およびインド亜大陸出身者については、来日費用を家族や親族から調達していた者が目立った。

以上のことから、本調査の対象となった在日ムスリムのなかでもインド亜大陸出身者の母国での生活には、従来の「出稼ぎ労働者」のイメージを裏付ける要素が比較的多く散見されたが、西アジア・アフリカ出身者にはそうした要素が少ないといえる。

第4章 日本で働く・学ぶ・住まう

本章では、主に在日ムスリムの日本における職業、職場環境、住居等についてみていくことにする。クロス集計については、他の章と同様に滞在年数、出身地域をとりあげている。

現在の職業 (Q7)

まず、現在の職業からみていくことにする。回答者の職業としては、「学生」が 32.2%と最も多く、次いで「専門職・管理職」(28.9%)、「現業・工場労働」(16.8%)、「自営業」(11.4%)と続いている。「学生」が 3 割、「被雇用者」が 5 割、「自営業」が 1 割となった。回答者の来日理由は「研究や勉強のため」をあげる割合が 28.0%と最も多くなっており (Q25)、現在の職業で「学生」が 3 割を占めることと矛盾していない。

また、滞在年数別にみると、回答者の職業のうち、「学生」の占める割合は最も高いが、滞在年数 10 年以上の「学生」の回答者は見受けられなかった。また、滞在年数が延びるにつれ、「自営業」の割合はほぼ増えている。他の職業については、滞在年数の延長による一貫した傾向はみられないが、「専門職・管理職」は 2~5 年未満 (34.8%) と 10 年以上 (43.8%) の割合が高く、「現業・工場労働」は滞在年数 10 年を境にして増加から減少へと割合の変化がみられる。

出身地域別に職業を見ると、西アジア・アフリカ出身者は、「専門職・管理職」の占める割合が最も高く (42.1%)、次いで「学生」(34.1%)、「自営業」(13.2%)となっているが、インド亜大陸出身者は「現業・工場労働」(27.1%)の割合が高く、「自営業」(22.9%)、「専門職・管理職」(18.8%)と続いている。また、東南アジア出身者は「学生」の占める割合が最も高く (41.0%)、次いで「専門職・管理職」(29.5%)、「現業・工場労働」(18.0%)となっている。出身地域によって日本における職業に差がみられるという結果が得られた。

図表 4-2 現在の職業 (Q7) (%)

		回答者数	自営業	専門職・管理職	事務職・営業職
滞在年数	2年未満	41	4.9	19.5	4.9
	2-5年未満	46	4.3	34.8	2.2
	5-10年未満	19	15.8	15.8	—
	10年以上	32	28.1	43.8	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	42.1	2.6
	インド亜大陸	48	22.9	18.8	4.2
	東南アジア	61	1.6	29.5	4.9
総数		149	11.4	28.9	4.0

		現業・工場労働	無職・失業中	学生	無回答
滞在年数	2年未満	17.1	7.3	43.9	2.4
	2-5年未満	17.4	—	37.0	4.3
	5-10年未満	21.1	—	47.4	—
	10年以上	12.5	—	—	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	2.6	2.6	34.2	2.6
	インド亜大陸	27.1	4.2	16.7	6.3
	東南アジア	18.0	—	41.0	4.9
総数		16.8	2.0	32.2	4.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

雇用形態 (Q8)

次に、回答者のうち現在働いている者(度数128)の雇用形態をみると、「正規社員」は60.2%、「臨時社員・パート・アルバイト」は22.7%、「研修」は8.6%となった。また、職業とのクロス集計をみると(図表4-4)、「正規社員」では、専門職・管理職(90.7%)、「臨時社員・パート・アルバイト」では事務職・営業職(33.3%)、「研修」では学生(20.0%)の割合が最も高くなっている。なお、現在働いていない者21名のうち「学生」は18名、「無職・失業中」は3名である。

また、滞在年数別に雇用形態をみると、滞在年数が延びるにつれ、「正規社員」の割合は増える傾向にある。一方で「臨時社員・パート・アルバイト」は滞在年数の延長とともに割合が減っている。また、「研修」中の回答者は滞在年数が5年以上になると見受けられない。

出身地域別の雇用形態では、西アジア・アフリカ出身者は他の地域と比較して「正規社員」の割合が高く(77.4%)、東南アジア出身者は「臨時社員・パート・アルバイト」(36.5%)、「研修」(13.5%)の割合が高くなっている。

図表4-4 雇用形態 (Q8) (%)

		回答者数	正規社員	臨時社員・パート・アルバイト	研修	その他	無回答
職業	自営業	17	64.7	5.9	5.9	11.8	11.8
	専門職・管理職	43	90.7	7.0	2.3	—	—
	事務職・営業職	6	66.7	33.3	—	—	—
	現業・工場労働	25	64.0	24.0	8.0	—	4.0
	学生	30	20.0	50.0	20.0	3.3	6.7
滞在年数	2年未満	34	44.1	38.2	11.8	—	5.9
	2-5年未満	39	59.0	23.1	12.8	—	5.1
	5-10年未満	13	61.5	23.1	—	7.7	7.7
	10年以上	32	75.0	12.5	—	6.3	6.3

(注：職業不詳7名、滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

図表 4-4 雇用形態 (Q8) つづき

(%)

	回答者数	正規社員	臨時社員・パート・アルバイト	研修	その他	無回答
出身地域 西アジア・アフリカ	31	77.4	12.9	6.5	—	3.2
インド亜大陸	44	68.2	13.6	2.3	4.5	11.4
東南アジア	52	44.2	36.5	13.5	1.9	3.8
総数	128	60.2	22.7	8.6	2.3	6.3

(注：職業不詳 7 名、滞在年数不詳 10 名、出身地域不詳 1 名)

現在の仕事の紹介者 (Q9)

現在の仕事の紹介者は、「友人」の 29.7% が最も高く、次いで「その他」(17.2%)、「直接たずねた」(16.4%)、「広告」(10.2%)、「家族・親戚」(7.0%) 等が続いている。約 3 割の回答者は友人を媒介として職を見つけていることになる。なお、主な「その他」の内容としては、「自ら起業した」、「会社」、「大学」があげられ、少数意見としては「政府」、「E メール」等があげられている。

次に、滞在年数別に仕事の紹介者をみると、滞在年数の増加による一貫した割合の変化は見受けられないが、2 年未満は、「援助団体」の回答割合が比較的高く (8.8%)、「友人」の割合が低い (11.8%)。また、「ムスリムのブローカー」(5.9%) に唯一回答のある滞在年数カテゴリーである。「援助団体」については、滞在年数が 5 年未満でのみ回答を得た。5~10 年未満では、「直接尋ねた」(30.8%)、「友人」(53.8%) の占める割合が高くなっている。また、10 年以上では、「日本人ブローカー」が 9.4% となっており、他の滞在年数カテゴリーに比べて回答割合が高くなっている。

出身地域別にみると、東南アジア出身者が特徴的である。「家族・親戚」の割合が他地域出身者より回答割合が高くなっており (13.5%)、「援助団体」(9.6%)、「同国人ブローカー」(1.9%)、「ムスリムのブローカー」(3.8%) については東南アジア出身者のみが仕事の紹介者として回答している。

図表 4-6 現在の仕事の紹介者 (Q8)

(%)

	回答者数	広告	直接訪ねた	家族・親戚	援助団体	友人
滞在年数 2 年未満	34	11.8	11.8	5.9	8.8	11.8
2-5 年未満	39	12.8	15.4	15.4	2.6	38.5
5-10 年未満	13	—	30.8	7.7	—	53.8
10 年以上	32	6.3	18.8	—	—	28.1
出身地域 西アジア・アフリカ	31	9.7	16.1	3.2	—	29.0
インド亜大陸	44	15.9	18.2	2.3	—	36.4
東南アジア	52	5.8	15.4	13.5	9.6	23.1
総数	128	10.2	16.4	7.0	3.9	29.7

		同国人ブ ローカー	日本人ブ ローカー	ムスリムの ブローカー	その他	無回答
滞在年数	2年未満	—	2.9	5.9	29.4	11.8
	2-5年未満	—	—	—	7.7	7.7
	5-10年未満	—	—	—	7.7	—
	10年以上	—	9.4	—	25.0	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	—	3.2	—	32.3	6.5
	インド亜大陸	—	2.3	—	11.4	13.6
	東南アジア	1.9	3.8	3.8	13.5	9.6
総数		0.8	3.1	1.6	17.2	10.2

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

職場の従業員数 (Q10)

職場の従業員数については、「1～9人」が28.9%と最も高く、次いで「50～299人」(21.1%)、「20～49人」(15.6%)等となっている。従業員数300人以上の比較的大きな職場に勤める回答者は1割程度となっており、中小規模の職場に多くの回答者が勤めているという結果がえられた。

次に、出身地域別のクロス集計をみると、西アジア・アフリカ出身者は従業員数「20～49人」の割合が最も高く(29.0%)、インド亜大陸出身者及び東南アジア出身者は従業員数「1～9人」の割合が最も高くなっている(それぞれ31.8%、28.8%)。一方、300人以上の従業員数では、「300～999人」で西アジア・アフリカ(9.7%)、「1000人以上」で東南アジア(9.6%)の割合がそれぞれ他地域と比較して高くなっている。

図表 4-8 職場の従業員数 (Q10) (%)

		回答者数	1-9人	10-19人	20-49人
滞在年数	2年未満	34	20.6	8.8	14.7
	2-5年未満	39	38.5	5.1	20.5
	5-10年未満	13	23.1	7.7	15.4
	10年以上	32	31.3	6.3	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	31	22.6	9.7	29.0
	インド亜大陸	44	31.8	4.5	13.6
	東南アジア	52	28.8	9.6	9.6
総数		128	28.9	7.8	15.6

		50-299人	300-999人	1000人以上	無回答
滞在年数	2年未満	14.7	5.9	5.9	29.4
	2-5年未満	23.1	—	2.6	10.3
	5-10年未満	15.4	7.7	7.7	23.1
	10年以上	28.1	9.4	6.3	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	12.9	9.7	3.2	12.9
	インド亜大陸	22.7	4.5	2.3	20.5
	東南アジア	25.0	1.9	9.6	15.4
総数		21.1	4.7	5.5	16.4

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

収入の使用目的 (Q11)

収入の使用目的を複数回答で得た結果は、回答数の多い順に「生活費」(64.1%)、「仕送り」(30.5%)、「教育費」(28.1%)、「娯楽費用」(23.4%)、事業資金(21.1%)等となった。

滞在年数別にみると、すべての滞在年数カテゴリーで「生活費」の割合が高いが、2年未満では、「生活費」以外の項目で他の滞在年数カテゴリーよりも回答割合が少なくなっている。2～5年未満では、2年未満と比べて「生活費」以外の全ての項目の割合が増加している。さらに、5～10年未満になると、「家を買う」、「事業資金」、「教育費」、「仕送り」、「生活費」の割合は全ての滞在年数カテゴリーで最も高くなり収入を多用途に用いていることがわかる。10年以上の滞在年数では、「車を買う」、「娯楽費用」の割合が高く、生活費の余剰を余暇に回していることが示唆された。

出身地域別でも、収入の使用目的は「生活費」の割合が最も高いが、西アジア・アフリカ出身者は「娯楽費用」において他の出身地域より割合が少なく(16.1%)、インド亜大陸出身者は「家を買う」(9.1%)、「車を買う」(6.8%)の割合が低く、逆に「借金返済」(31.8%)、「仕送り」(38.6%)の割合が高くなっている。

図表 4-10 収入の使用目的 (Q11) <複数回答> (%)

		回答者数	家を買う	車を買う	事業資金	教育費	借金返済
滞在年数	2年未満	34	5.9	5.9	5.9	11.8	11.8
	2-5年未満	39	15.4	17.9	23.1	25.6	23.1
	5-10年未満	13	23.1	7.7	38.5	46.2	23.1
	10年以上	32	21.9	18.8	28.1	40.6	21.9
出身地域	西アジア・アフリカ	31	19.4	12.9	22.6	29.0	12.9
	インド亜大陸	44	9.1	6.8	25.0	25.0	31.8
	東南アジア	52	17.3	17.3	17.3	30.8	13.5
総数		128	14.8	12.5	21.1	28.1	19.5

		仕送り	娯楽費用	生活費	特になし	その他
滞在年数	2年未満	20.6	14.7	64.7	2.9	17.6
	2-5年未満	30.8	17.9	56.4	7.7	10.3
	5-10年未満	53.8	30.8	76.9	7.7	7.7
	10年以上	28.1	40.6	65.6	—	—
出身地域	西アジア・アフリカ	29.0	16.1	67.7	3.2	9.7
	インド亜大陸	38.6	27.3	56.8	4.5	11.4
	東南アジア	25.0	25.0	67.3	3.8	7.7
総数		30.5	23.4	64.1	3.9	9.4

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

住宅形態 (Q12)

次に、住宅に関する質問項目を見ていく。回答者の日本における住宅形態については、「民間賃貸住宅」が47.0%、「公団賃貸住宅」が16.1%となっており6割程度の回答者が賃貸住宅に居住しているという結果となった。対して持ち家は「独立」が8.1%、「集合住宅」が5.4%となっており、1割強となった。

また、滞在年数別にみると、2年未満で「公団賃貸」(22.0%)、「寮」(24.4%)の割合が他の滞在年数カテゴリーに比べて高くなっており、「民間賃貸」(26.8%)の割合は低くなっている。2～5年未満では、「独立」(4.3%)、「寮」(8.7%)の割合が低い。また、5～10年未満は、「独立」(15.8%)の割合が高く、「社宅」を回答する者がいなかったことが特徴となっている。10年以上では、「集合住宅」(9.4%)、「民間賃貸」(62.5%)、「社宅」(18.2%)の割合が高くなっている。

出身地域別にみると、西アジア・アフリカ出身者は「社宅」を回答する者がいないこと、インド亜大陸出身者は「民間賃貸住宅」(56.3%)の割合が高く、「寮」(6.3%)の割合が低いこと、東南アジア出身者は「民間賃貸住宅」(39.3%)の割合が低く、「社宅」(13.1%)の割合が高いことが特徴として考えられるだろう。

図表 4-12 住宅形態 (Q12) (%)

		回答者数	独立	集合住宅	公団賃貸	民間賃貸
滞在年数	2年未満	41	9.8	4.9	22.0	26.8
	2-5年未満	46	4.3	4.3	13.0	56.5
	5-10年未満	19	15.8	5.3	10.5	52.6
	10年以上	32	9.4	9.4	12.5	62.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	7.9	15.8	47.4
	インド亜大陸	48	10.4	6.3	12.5	56.3
	東南アジア	61	6.6	3.3	18.0	39.3
総数		149	8.1	5.4	16.1	47.0

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

図表 4-12 住宅形態 (Q12) つづき (%)

		社宅	寮	その他	無回答
滞在年数	2年未満	7.3	24.4	2.4	2.4
	2-5年未満	10.9	8.7	—	2.2
	5-10年未満	—	15.8	—	—
	10年以上	18.2	18.2	—	9.1
出身地域	西アジア・アフリカ	—	18.4	2.6	—
	インド亜大陸	4.2	6.3	2.1	2.1
	東南アジア	13.1	14.8	—	4.9
総数		6.7	12.8	1.3	2.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

住居の紹介者 (Q13)

住居の紹介者については、「その他」の 23.5%が最も多かったが、次いで「正規の不動産屋」の 22.1%となっており、「同国人」、「ブローカー」、「ムスリムの友人」、「雇用主」はそれぞれ 1 割程度となっている。「日本人の友人」は 4.0%と全ての項目の中で最も低い割合となった。なお、「その他」の主な内容としては、「学校」、「妻」、といった回答であった。少数意見としては、「インターネット」、「国際協力機構 (JICA)」、「都市再生機構 (旧日本住宅公団)」等があげられている。

次に滞在年数別のクロス集計をみると、2 年未満では「その他」の割合が高く (36.6%)、学校の紹介で住居をみつけていることが示唆される。2~5 年未満では、「同国人」(19.6%)、「雇用主」(19.6%) の割合が他の滞在年数カテゴリーに比べて相対的に高くなっている。10 年以上では、「日本人の友人」(12.5%) の割合が高いこと、「ムスリムの友人」(6.3%) の割合が低く、「正規の不動産屋」(34.4%) の割合が高くなっている。

出身地域別にみても、インド亜大陸出身者は「同国人」(20.8%) の割合が高く、「ブローカー」をあげる回答者がいないことが特徴となっており、東南アジア出身者は逆に「同国人」(6.6%) の割合が少なく、「ブローカー」(21.3%) の割合が高い。また、東南アジア出身者は「雇用主」(16.4%) の割合が高いことも特徴となっている。

図表 4-14 住居の紹介者 (Q13) (%)

		回答者数	同国人	日本人の友人	ムスリムの友人	正規の不動産屋
滞在年数	2 年未満	41	9.8	2.4	14.6	14.6
	2-5 年未満	46	19.6	2.2	15.2	21.7
	5-10 年未満	19	15.8	—	10.5	21.1
	10 年以上	32	6.3	12.5	6.3	34.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	7.9	15.8	18.4
	インド亜大陸	48	20.8	4.2	8.3	25.0
	東南アジア	61	6.6	1.6	11.5	21.3
総数		149	12.8	4.0	11.4	22.1

		ブローカー	雇用主	その他	無回答
滞在年数	2 年未満	14.6	2.4	36.6	4.9
	2-5 年未満	8.7	19.6	13.0	—
	5-10 年未満	15.8	10.5	26.3	—
	10 年以上	12.5	—	18.8	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	10.5	5.3	28.9	—
	インド亜大陸	—	6.3	29.2	6.3
	東南アジア	21.3	16.4	16.4	4.9
総数		12.1	10.1	23.5	4.0

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本滞在中にしたいこと (Q14)

日本滞在中にしたいことを複数回答でたずねた結果、「勉強して専門能力を身につける」が 49.0%となっており半数の回答を得た。次いで「生活を楽しむ」(29.5%)、「お金を稼ぐ」(28.9%)、「いい仕事を見つける」(28.2%) がそれぞれ 3 割程度、「事業を起こす」(22.8%)、「子供の才能を伸ばす」(17.4%) が 2 割程度の回答割合であった。

滞在年数別にみると、「いい仕事を見つける」は滞在年数が延びるにつれ割合が減少している。2 年未満では、「いい仕事を見つける」(36.6%)、「専門能力を身につける」(61.0%) の割合が高く、2～5 年未満では、「生活を楽しむ」(19.6%)、「子どもの才能を伸ばす」(10.9%) の割合が低い。5～10 年未満でも同様に「生活を楽しむ」(21.1%)、「子供の才能を伸ばす」(10.9%) の割合が低くなっている。10 年以上では、「専門能力を身につける」(25.0%) の割合が低く、「子どもの才能を伸ばす」(31.3%) の割合が高くなっている。

出身地域別では、インド亜大陸出身者は「専門能力を身につける」(37.5%) の割合が低く、東南アジア出身者は「お金を稼ぐ」(44.3%) の割合が高いことが特徴となっている。

図表 4-16 日本滞在中にしたいこと (Q14) <複数回答>

(%)

		回答者数	いい仕事を見つける	生活を楽しむ	お金を稼ぐ	事業を起こす
滞在年数	2 年未満	41	36.6	39.0	31.7	14.6
	2-5 年未満	46	30.4	19.6	32.6	23.9
	5-10 年未満	19	26.3	21.1	26.3	21.1
	10 年以上	32	18.8	37.5	25.0	28.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	34.2	21.1	21.1
	インド亜大陸	48	29.2	29.2	16.7	27.1
	東南アジア	61	31.1	27.9	44.3	21.3
総数		149	28.2	29.5	28.9	22.8

		専門能力を身につける	子どもの才能を伸ばす	特になし	その他
滞在年数	2 年未満	61.0	12.2	2.4	4.9
	2-5 年未満	52.2	10.9	6.5	6.5
	5-10 年未満	57.9	21.1	—	10.5
	10 年以上	25.0	31.3	9.4	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	55.3	21.1	2.6	7.9
	インド亜大陸	37.5	16.7	10.4	12.5
	東南アジア	52.5	16.4	4.9	3.3
総数		49.0	17.4	6.0	7.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

本章では、主に在日ムスリムの日本における職業、職場環境、住居等についてみてきた。

ここで結果について概観しておくことにする。回答者の日本における職業は、学生が3割、被雇用者が5割、自営業が1割となった。ただし、出身地域別にみると学生は、東南アジア出身者の占める割合が高く、被雇用者においても専門職・管理職は西アジア・アフリカ出身者、現業・工場労働はインド亜大陸出身者の占める割合が高い。就業の際には友人を媒介としている者が多い。援助団体の利用は滞在年数5年未満に限られている。収入の使用目的は生活費をあげる回答者が多いが、滞在年数の延長に従って用途が多岐に渡る傾向にあり、10年以上在日している回答者は余剰収入があることも示唆される。また、住宅については、回答者の約半数が民間の賃貸住宅に居住し、正規の不動産屋を通じて入居する者が多い。こうした就業状態にあるムスリムは、出身地域ごとの細かな差はあるにせよ、日本で専門能力を身につけるべく暮らしている者が多いといえるだろう。

第5章 信仰生活

それぞれの母国から来日し、わが国で生活するムスリムは、どのような信仰生活を送っているのだろうか。

本調査では、信仰心の変化、イスラーム規範の遵守度、ハラール食品店の利用、モスクや礼拝所での礼拝の頻度など、ムスリムの信仰生活を描き出す質問項目が用意された。

イスラームは、宗教であると同時に生活規範であるとされる。日常生活のあらゆる局面にイスラームの規範は存在するといつてよい。その意味で、以下で扱う質問項目は、イスラームを奉ずる人々の、わが国での日常生活の一端を描き出す作業と言い換えることも出来る。以下では、そうした在日ムスリムの信仰生活に係る質問項目についてみていく。

信仰心の変化 (Q18)

ここでは、来日前と、現在の信仰心の変化についてみていく。図表 5-1 は、全体の集計結果を示したものである。

日本に来て、信仰心が「強くなった」が 36.2%、「少し強くなった」が 16.8%となっており、信仰心が日本に来てむしろ強まっている回答者が 53%に上る。逆に「少し弱くなった」「弱くなった」についてみると、それぞれ、7.4%、4.7%となっており、12.1%が信仰心が弱まったと考えている。「変わらない」と考える回答者は 32.2%である。

以下の図表 5-2 は、滞在年数および、出身地域と信仰心の変化のクロス集計結果を示したものである。

まず滞在年数別に見ていこう。単純集計結果を反映し、いずれのグループでも、「強くなった」「少し強くなった」と回答している割合が高い。ただし、強まりの度合いに特徴を見出すことが出来る。2-5 年未満および 10 年以上において、「強くなった」と回答している割合が、それぞれ 45.7%、43.8%となっている。一方、2 年未満および 5-10 年未満は、「強くなった」と回答する割合が相対的に低く、「少し強くなった」と回答する割合が、それぞれ 22.0%、21.1%となっている。

次いで、出身地域別に見ていこう。

各グループについて「強くなった」「少し強くなった」の値を合計し、信仰心が強まったと考えるものの割合を算出すると、西アジア・アフリカが 63.2%、インド亜大陸が 56.2%、東南アジアが 45.9%となる。いずれのグループでも、「強くなった」「少し強くなった」と回答している割合が高い。

ただし、インド亜大陸東南アジア地域出身者の回答が、「強くなった」「少し強くなった」の双方に分散しているのに対して、西アジア・アフリカは「強くなった」が 55.3%、「少し強くなった」が 7.9%となっており、信仰心が「強くなった」と考える回答者の割合が

非常に高い。

一方、信仰心の弱まりについてみると、東南アジア地域出身者が、「弱くなった」と回答したものの割合は他の地域出身者と比較して低いものの、「少し弱くなった」と回答したものが13.1%となっており、高い割合となっている。

図表 5-2 信仰心の変化 (Q18) (%)

		回答者 数	強くな った	少し強 くなっ た	変わら ない	少し弱 くなっ た	弱くな った	無回 答
滞在年数	2年未満	41	26.8	22.0	36.6	9.8	4.9	—
	2-5年未満	46	45.7	13.0	26.1	8.7	6.5	—
	5-10年未満	19	31.6	21.1	36.8	5.3	5.3	—
	10年以上	32	43.8	9.4	28.1	6.3	3.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	55.3	7.9	28.9	2.6	5.3	—
	インド亜大陸	48	35.4	20.8	29.2	4.2	6.3	4.2
	東南アジア	61	26.2	19.7	34.4	13.1	3.3	3.3
総数		149	36.2	16.8	32.2	7.4	4.7	2.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

イスラーム規範の遵守 (Q19)

ここでは、わが国において、イスラームの規範をどの程度遵守しているかについてみていく。図表 5-3 は、全体の集計結果を示したものである。

回答割合の多い順に、「まあまあ厳密に」46.3%、「非常に厳密に」31.5%、「あまり厳密でない」17.4%と続き、「気にしていない」は1.3%にとどまる結果となった。

以下の図表 5-2 は、滞在年数および、出身地域とイスラーム規範の遵守度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別にみると2年未満では、「非常に厳密に」と「まあまあ厳密に」に回答が分散しており、それぞれ、43.9%と41.5%であった。2年未満における「非常に厳密に」の割合は、各グループを通じて最も高い。次いで2-5年未満では、「まあまあ厳密に」52.2%、5-10年未満では、「非常に厳密に」42.1%、10年以上では、「まあまあ厳密に」56.3%となっており、それぞれ最も高い割合を示している。

出身地域別に見ると、各カテゴリー間で大きな特徴は見られないものの、インド亜大陸が、「非常に厳密に」が29.2%と最も低く、「あまり厳密ではない」が20.8%と、他のカテゴリーと比較してやや高い値をとっている。

図表 5-4 イスラーム規範の遵守 (Q19) (%)

	回答者数	非常に厳密に	まあまあ厳密に	あまり厳密ではない	気にしていない	無回答
滞在年数 2年未満	41	43.9	41.5	12.2	2.4	—
2-5年未満	46	26.1	52.2	17.4	2.2	2.2
5-10年未満	19	42.1	31.6	26.3	—	—
10年以上	32	18.8	56.3	18.8	—	6.3
出身地域 西アジア・アフリカ	38	36.8	44.7	13.2	—	5.3
インド亜大陸	48	29.2	47.9	20.8	2.1	—
東南アジア	61	31.1	45.9	16.4	1.6	4.9
総数	149	31.5	46.3	17.4	1.3	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

母国語の新聞 (Q20①)

ここでは、母国語の新聞の利用度についてみていく。図表 5-5 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「週 2 回以上」(36.9%)、「読んでいない」(34.2%)、「週 1 回」(9.4%)、「月 1 回以下」(4.7%)、「月 2 回くらい」(2.0%) となり、頻繁に母国語の新聞を読むグループと、読んでいないグループに大きく分かれる結果となった。

以下の図表 5-6 は、滞在年数および、出身地域と母国語の新聞の利用度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、それぞれ、2年未満では、「読んでいない」(39.0%)、2-5年未満では、「週 2 回以上」(43.5%)、5-10年未満では、「週 2 回以上」(47.4%)、10年以上では、「読んでいない」(37.5%) が最も高い値をとった。

いずれの категорияにおいても、「読んでいない」と「週 2 回以上」に回答が集中する傾向が見て取れるが、5-10年未満は、「月 1 回以下」で 15.8%と他の categoryと比較して高い値をとり、10年以上においては「週 2 回以上」の割合が(無回答の割合の多さを考慮する必要があるものの)、25.0%と他の categoryと比較して低い値をとっている。滞在期間が長くなるにつれて、母国語の新聞を読む頻度は減少する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカおよびインド亜大陸では「読んでいない」がそれぞれ 40%以上存在するのに対し、東南アジアにおいて、「読んでいない」が 23.0%にとどまる。東南アジアは、「週 2 回以上」も 49.0%と、他の categoryと比較して高い値をとっている。母国語の新聞の利用頻度における、出身地域による差が確認できる。ただし、この結果は、出身地域に対応する母国語メディアの存在の有無に規定されている可能性がある。

図表 5 - 6 母国語の新聞 (Q20 ①)

(%)

	回答者数	読んでいない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数 2年未満	41	39.0	2.4	2.4	14.6	36.6	4.9
2-5年未満	46	30.4	4.3	2.2	10.9	43.5	8.7
5-10年未満	19	26.3	15.8	—	10.5	47.4	—
10年以上	32	37.5	3.1	3.1	3.1	25.0	28.1
出身地域 西アジア・アフリカ	38	44.7	2.6	—	13.2	26.3	13.2
インド亜大陸	48	41.7	2.1	2.1	2.1	27.1	25.0
東南アジア	61	23.0	8.2	3.3	13.1	49.2	3.3
総数	149	34.2	4.7	2.0	9.4	36.9	12.8

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

ハラルショップの利用 (Q20②)

ここでは、ハラルショップの利用度についてみていく。図表 5-7 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「月 1 回以下」(28.9%)、「月 2 回程度」(19.5%)、「週 1 回」(18.8%)、「週 2 回以上」(15.4%)、「利用していない」(6.7%)となっている。

以下の図表 5-8 は、滞在年数および、出身地域とハラルショップの利用度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、2 年未満では、「月 2 回程度」(24.4%)、2-5 年未満、5-10 年未満では、「月 1 回以下」がそれぞれ 30.4%、52.6%と最も高い値をとっており、とりわけ 5-10 年未満における「月 1 回以下」の割合は、他のカテゴリーと比較して 2 割以上高い値をとっている。10 年以上では、「月 1 回以下」と「週 1 回」が同率 (28.1%) となっている。また、10 年以上では最も利用度の高い「週 2 回以上」の割合が 6.3%と他のカテゴリーと比較して低い値をとっている。

出身地域別にみると、いずれのカテゴリーにおいても、「月 1 回以下」の利用にとどまる層が、2 割から 3 割存在する。一方、ハラルショップをコンスタントに利用していると考えられる、「月 2 回程度」以上の割合についてみると、西アジア・アフリカでは、「週 1 回」(28.9%)、インド亜大陸では、「月 2 回程度」(25.0%)、東南アジアでは「週 2 回以上」(24.9%) がそれぞれ最も高い値をとっている。

図表 5-8 ハラルショップの利用 (Q20②)

(%)

	回答者数	利用していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数 2年未満	41	4.9	22.0	24.4	17.1	19.5	12.2
2-5年未満	46	10.9	30.4	19.6	21.7	15.2	2.2
5-10年未満	19	—	52.6	15.8	10.5	21.1	—
10年以上	32	9.4	28.1	9.4	28.1	6.3	18.8

出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	31.6	15.8	28.9	7.9	7.9
	インド亜大陸	48	6.3	22.9	25.0	14.6	10.4	20.8
	東南アジア	61	6.6	32.8	16.4	14.8	24.6	4.9
総数		149	6.7	28.9	19.5	18.8	15.4	10.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

ハラルレストランの利用 (Q20③)

ここでは、ハラルレストランの利用度についてみていく。図表 5-9 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「月 1 回以下」(31.5%)、「利用していない」(19.5%)、「月 2 回程度」(13.4%)、「週 1 回」(10.7%)、「週 2 回以上」(8.1%) となった。とりわけ「利用していない」と「月 1 回以下」の合計は 51% となり、先ほどのハラルショップ(図表 5-7)と比較して、全体的な傾向としては、利用度は低い傾向にある。

以下の図表 5-10 は、滞在年数および、出身地域とハラルレストランの利用度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、いずれの категорияにおいても、「月 1 回以下」の利用にとどまる層が、3 割程度存在する。「週 2 回以上」の利用頻度に特徴的に示されるように、ハラルレストランの利用度は、滞在期間の長期化が進むにつれ、低下する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカでは、「利用していない」割合が、31.6%と他の category に比べて高い値をとっている。最も利用度の高い「週 2 回以上」では、東南アジアが、13.1%と他の category に比べて高い値をとっている。

図表 5-10 ハラルレストランの利用 (Q20③) (%)

		回答者数	利用していない	月 1 回以下	月 2 回程度	週 1 回	週 2 回以上	無回答
滞在年数	2 年未満	41	22.0	29.3	14.6	7.3	12.2	14.6
	2-5 年未満	46	17.4	32.6	13.0	15.2	8.7	13.0
	5-10 年未満	19	15.8	36.8	21.1	10.5	5.3	10.5
	10 年以上	32	21.9	31.3	12.5	9.4	3.1	21.9
出身地域	西アジア・アフリカ	38	31.6	31.6	10.5	13.2	5.3	7.9
	インド亜大陸	48	12.5	29.2	8.3	12.5	4.2	33.3
	東南アジア	61	18.0	31.1	19.7	8.2	13.1	9.8
総数		149	19.5	31.5	13.4	10.7	8.1	16.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

モスクや礼拝所での礼拝 (Q20④)

ここでは、ムスリムがどの程度モスクや礼拝所での礼拝へ参加しているかについてみていく。図表 5-11 は、モスクや礼拝所での礼拝への参加度について全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「週 1 回」(43.0%)、「週 2 回以上」(26.8%)、「月 1 回以下」(10.1%)、「月 2 回程度」(6.0%)、「参加していない」(2.0%) となった。

各モスクや礼拝所で金曜礼拝や週末の集団礼拝が行われているという状況を鑑み、週 1 回以上をコンスタントな参加の基準とすると、約 7 割が毎週 1 回はモスクや礼拝所に通っているとの結果が得られる。

以下の図表 5-12 は、滞在年数および、出身地域と度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、「週 1 回」がすべてのグループにおいて最も多いが、とりわけ 2 年未満において 53.7% と高い割合となっている。また「月 1 回以下」で、2-5 年未満と 5-10 年未満が、それぞれ 15.2% と 21.1% となっており、2 年未満(2.4%)、10 年以上(3.1%) と比べ高い値をとっている。

出身地域別に見ると、「週 1 回」がすべてのグループにおいて最も多いが、インド亜大陸が 37.5% と、西アジア・アフリカの 44.7%、東南アジアの 47.5% に比べて低い値をとっている。一方、東南アジアは「週 2 回以上」の割合が 16.4% にとどまり、西アジア・アフリカの 34.2%、インド亜大陸の 31.3% に比べて低い値をとっている。

図表 5-12 モスクや礼拝所での礼拝 (Q20 ④)
(%)

	回答者数	参加していない	月 1 回以下	月 2 回程度	週 1 回	週 2 回以上	無回答
滞在年数 2 年未満	41	2.4	7.3	4.9	53.7	24.4	7.3
2-5 年未満	46	2.2	15.2	4.3	39.1	28.3	10.9
5-10 年未満	19	—	21.1	10.5	36.8	31.6	—
10 年以上	32	—	3.1	6.3	43.8	28.1	18.8
出身地域 西アジア・アフリカ	38	—	10.5	—	44.7	34.2	10.5
インド亜大陸	48	—	8.3	8.3	37.5	31.3	14.6
東南アジア	61	4.9	11.5	8.2	47.5	16.4	11.5
総数	149	2.0	10.1	6.0	43.0	26.8	12.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)

ここでは、イスラーム関係の講演会・勉強会への参加度についてみていく。図表 5-1 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「参加していない」(26.8%)、「月 1 回以下」(21.5%)、「週 1 回」(19.5%)、「週 2 回以上」(14.1%)、「月 2 回程度」(6.0%)となった。

以下の図表 5-14 は、滞在年数および、出身地域とイスラーム関係の講演会・勉強会への参加度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、2 年未満と 5-10 年未満において「参加していない」が、それぞれ 31.7%と 31.6%と最も多くなっている。2-5 年未満では、「月 1 回以下」が 28.9%と最も多い。10 年以上では、「参加していない」と「週 2 回以上」がともに 25.0%と同率となったが、とりわけ、「週 2 回以上」の参加が他のカテゴリと比較して高い値をとっている。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカにおいて「参加していない」が 47.4%と、インド亜大陸の 18.8%、東南アジアの 19.7%と比べて、著しく高い値をとっている。インド亜大陸では、最も参加度の高い「週 2 回以上」が 22.9%と最も多い結果となった。東南アジアは、「月 1 回以下」(26.2%)と、「週 1 回」(23.0%)の占める割合が多くなっている。

図表 5-14 イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)

(%)

	回答者数	参加していない	月 1 回以下	月 2 回程度	週 1 回	週 2 回以上	無回答
滞在年数 2 年未満	41	31.7	14.6	9.8	24.4	12.2	7.3
2-5 年未満	46	23.9	28.3	6.5	15.2	10.9	15.2
5-10 年未満	19	31.6	21.1	5.3	26.3	15.8	—
10 年以上	32	25.0	18.8	3.1	12.5	25.0	15.6
出身地域 西アジア・アフリカ	38	47.4	15.8	5.3	18.4	7.9	5.3
インド亜大陸	48	18.8	18.8	4.2	16.7	22.9	18.8
東南アジア	61	19.7	26.2	8.2	23.0	11.5	11.5
総数	149	26.8	21.5	6.0	19.5	14.1	12.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

布教活動(タブリーグなど)への参加 (Q20⑥)

ここでは、布教活動(タブリーグなど)への参加度についてみていく。

図表 5-17 は、全体の集計結果を示したものである。「参加していない」が 35.6%と最も多い結果となったが、「週 2 回」が 7.4%、「週 1 回」が 17.4%、「月 2 回くらい」(8.1%)、「月 1 回以下」(16.8%)となっており、約半数がこうした活動へ何らかの形で参加しているとの結果が得られた。

以下の図表 5-18 は、滞在年数および、出身地域と布教活動（タブリーグなど）への参加度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「参加していない」が最も多い結果となっているが、その割合は5-10年未満で47.4%と最も高い。一方、10年以上では28.1%にとどまった。

出身地域別に見ると、滞在年数別のクロス集計結果と同様に、「参加していない」が最も多い。とりわけ西アジア・アフリカにおいて、「参加していない」割合が57.9%と、他のカテゴリーに比べて、著しく高い値をとっている。同様に、「月1回以下」「月2回程度」においても、西アジア・アフリカがともに低い値をとっている。「週1回」「週2回以上」では、参加度に各カテゴリー間で差は見られない結果となった。

図表 5-18 布教活動（タブリーグなど）への参加（Q20⑥） (%)

		回答者数	参加していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	36.6	12.2	12.2	17.1	7.3	14.6
	2-5年未満	46	39.1	15.2	4.3	21.7	6.5	13.0
	5-10年未満	19	47.4	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3
	10年以上	32	28.1	21.9	9.4	12.5	9.4	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	57.9	7.9	2.6	15.8	7.9	7.9
	インド亜大陸	48	22.9	18.8	8.3	18.8	6.3	25.0
	東南アジア	61	29.5	21.3	11.5	18.0	8.2	11.5
総数		149	35.6	16.8	8.1	17.4	7.4	14.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

本章では在日ムスリムの信仰生活に係る質問項目について、集計結果の考察を行ってきた。ここでは、これまでの考察を踏まえつつ、全体の傾向について検討する。

各々の母国からわが国に來日した、ムスリムらは、その半数以上が自らの信仰心の強まりを経験している。信仰心の強まりは主観的な基準で回答されるため、信仰心は「変わらない」としたものの捉え方については、今後検討すべき課題ではあるものの、イスラーム規範の遵守を問うた質問項目においては、「非常に厳密に」「まあまあ厳密に」と回答したものの合計が77.8%に上るとの集計結果より、わが国においても、信仰心は維持、あるいは強まる傾向にあり、かつ、イスラーム規範が実践されていることが推察される。

とはいえ、この傾向は、クロス集計の考察において明らかになったように、滞在年数、出身地域によってばらつきが生じている。「信仰心の変化」では、西アジア・アフリカ地域出身者において、西アジア・アフリカは「強くなった」が55.3%、「少し強くなった」が7.9%となり、他のカテゴリーと比較して、信仰心の顕著な強まりが確認できる。

「イスラーム規範の遵守」では、とりわけ2年未満と5-10年以上において、イスラーム規範の遵守度の度合いが強い。

Q20 では、彼らの信仰生活の一端を描き出す一連の質問項目が用意された。

直接的に信仰生活とは関わりを持たない「母国語の新聞」の利用度については、出身地域に対応する母国語メディアの存在の有無に規定されている可能性はあるものの、10年以上の滞在者において、「週 2 回以上」利用するものの割合が著しく低下する傾向にある。ハラールショップ、ハラールレストランの双方の質問項目とも、食に係る質問項目であったが、ハラールショップに比べてハラールレストランの利用度は、滞在年数、出身地域のいずれのカテゴリーにおいても低い値をとった。

「ハラールショップの利用」では、単純集計結果を見ると、「利用していない」層は、6.7%にとどまる結果となった。ただし、その利用度にはばらつきがあり、とりわけ出身地域で見ると、東南アジア出身者においてハラールショップが頻繁に利用されている。

ハラールレストランは、滞在年数で見ると、滞在年数の短いものほど頻繁に利用しており、長期の滞在になるほど利用度は低下する。出身地域別では東南アジア出身者の利用率が高い結果となった。「モスクや礼拝所での礼拝」は単純集計結果が示すように「週 1 回」(43.0%)、「週 2 回以上」(26.8%) となっており、7 割近いムスリムが週 1 回以上モスクや礼拝所に通っている。滞在年数別では 2 年未満のもの参加度がとりわけ高い。出身地域では、東南アジア出身者の参加度が他のカテゴリーに比べて低い結果となった。「イスラーム関係の講演会・勉強会」および「布教活動（タブリーグなど）への参加」は、モスクや礼拝所での礼拝への参加度と比較して、その参加度は低い値をとった。とりわけ西アジア・アフリカ出身者の参加度が低い傾向にある。

信仰について問うた本章の分析結果は概ね以上のようなようになった。

わが国のムスリムの信仰生活について概観すると、信仰心の高まりを多くのムスリムが経験し、イスラーム規範は遵守される。とりわけ問題となる食の問題を克服するだけでなく、場合によっては日用雑貨も購入することの出来るハラールショップの利用度もカテゴリー間でその頻度に細かな差はあるものの、高い。モスクや礼拝所での礼拝に参加する割合も非常に高い。ただし今回の調査は、モスクで行われており、基本的にモスクを訪れているムスリムが対象となっている。そのため、本調査結果はわが国に暮らすムスリム全体のモスクや礼拝所の参加度を明らかにすることは出来ない。つまりモスクや礼拝所を訪れないムスリムの比率を明らかにすることはできず、明らかにされるのはあくまでも、モスクに礼拝を訪れるムスリムの姿であり、その参加の頻度であるという基本的な制約がある。その点に考慮しつつその頻度についてみると、多くのムスリムがモスクや礼拝所に週 1 回は足を運んでいることが明らかとなった。以上の結果より、概ねイスラームの基本的な宗教実践は、わが国においても維持される傾向にあると推察される。一方、やや副次的な項目群であるハラールレストランの利用度や講演会・勉強会、布教活動への参加度は上記の項目に比べて全体的に低い値をとる結果となった。とりわけ、出身地域による差が顕著であったが、前述のようにハラールレストランは滞在年数の長期化とともに利用度が低下しており、その要因について更なる検討が必要である。

第6章 日本で暮らすということ

本章では、在日ムスリムにおける日本で生活状況について、実態と意識の双方の側面からみていく。クロス集計については、他の章と同様に滞在年数、出身地域をとりあげている。

日本語能力「聞く・話す」(Q15①)

ここでは、日本語能力のうち、「聞く・話す」の能力についてみていく。図表6-1は、全体の集計結果を示したものである。「出来る」と「あまり出来ない」が36.2%と最も多く、次いで「とても出来る」が20.8%であった。「まったく出来ない」は5.4%にとどまった。「とても出来る」および「出来る」をあわせた、聞く・話すことが「出来る」ものの割合は、57.0%となった。

以下の図表6-2は、滞在年数および、出身地域と日本語能力の「聞く・話す」とのクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満では、「あまり出来ない」(63.4%)、2~5年未満と5~10年未満では「出来る」がそれぞれ41.3%と52.6%、「10年以上」では「とても出来る」が53.1%と最も高い割合をとった。また「5~10年未満」および「10年以上」の滞在者では、「まったく出来ない」がいずれも存在しない結果となった。滞在年数の長期化とともに、「聞く・話す」能力が上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別にみると、西アジア・アフリカとインド亜大陸において、「出来る」がそれぞれ31.6%と43.8%となっており最も高い。一方、東南アジアでは「あまり出来ない」が45.9%と最も高い値を割合となっている。西アジア・アフリカは、「とても出来る」と回答した割合が28.9%と、他のカテゴリーと比較して顕著に高い割合となっている。

図表6-2 日本語能力「聞く・話す」(Q18) (%)

		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	24.4	63.4	12.2	—
	2-5年未満	46	10.9	41.3	39.1	6.5	2.2
	5-10年未満	19	31.6	52.6	10.5	—	5.3
	10年以上	32	53.1	31.3	15.6	—	—
出身地域	西アジア・アフリカ	38	28.9	31.6	28.9	10.5	—
	インド亜大陸	48	18.8	43.8	31.3	2.1	4.2
	東南アジア	61	18.0	31.1	45.9	4.9	—
総数		149	20.8	36.2	36.2	5.4	1.3

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

日本語能力「読み」(Q15②)

ここでは、日本語能力のうち、「読み」の能力についてみていく。図表 6-3 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「あまり出来ない」(38.9%)、「出来る」(24.8%)、「まったく出来ない」(16.8%)、「とても出来る」(15.4%)となった。「とても出来る」および「出来る」をあわせた、読みが「出来る」ものの割合は、40.2%となった。

以下の図表 6-4 は、滞在年数および、出身地域と「読み」能力のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別にみると、「5~10年未満」において「出来る」が同率なっているのを除き、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が最も高い割合となっている。また2年未満では「とても出来る」が存在せず、「まったく出来ない」が31.7%と他のカテゴリーと比較して著しく高い値をとっている。10年以上では、「あまり出来ない」の34.4%に続き、「とても出来る」が31.3%と高い割合となっている。上記の「聞く・話す」能力ほど高率ではないものの、滞在年数の長期化とともに、「読み」能力が上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別に見ると、「あまり出来ない」がすべてのカテゴリーにおいて最も高い割合となっている。インド亜大陸において「まったく出来ない」割合が8.3%と、他のカテゴリーと比較して低い値をとっている。

図表 6-4 日本語能力「読み」(Q15②) (%)

		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	19.5	46.3	31.7	2.4
	2-5年未満	46	13.0	26.1	41.3	19.6	—
	5-10年未満	19	26.3	31.6	31.6	0.0	10.5
	10年以上	32	31.3	18.8	34.4	6.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	13.2	34.2	28.9	2.6
	インド亜大陸	48	10.4	31.3	43.8	8.3	6.3
	東南アジア	61	16.4	24.6	39.3	16.4	3.3
総数		149	15.4	24.8	38.9	16.8	4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

日本語能力「書き」(Q15③)

ここでは、日本語能力のうち、「書き」の能力についてみていく。図表 6-3 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「あまり出来ない」(43.6%)、「出来る」(20.1%)、「まったく出来ない」(17.4%)、「とても出来る」(14.1%)となった。これ

まで「とても出来る」および「出来る」を足した、「出来る」ものの割合は34.2%となり「聞く・話す」および「読み」と比較して最も低い値をとった。

以下の図表 5-6 は、滞在年数および、出身地域と「書き」能力のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が4割から5割を占めており、最も高い割合となっているものの、滞在年数の長期化とともに、「書き」能力は上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が最も高い割合となっている。とりわけ、インド亜大陸が52.1%と、他のカテゴリーと比較して最も高い割合となっている。西アジア・アフリカでは、「まったく出来ない」の28.9%、「とても出来る」の21.1%がそれに続く。インド亜大陸では、他のグループと比較して「とても出来る」および「まったく出来ない」とするものの割合が低く、「出来る」(25.0%) および先ほどの「あまり出来ない」に回答が集中している傾向が見て取れる。

図表 6-6 日本語能力「書き」(Q15③)

(%)

		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	19.5	46.3	31.7	2.4
	2-5年未満	46	10.9	15.2	50.0	19.6	4.3
	5-10年未満	19	26.3	26.3	42.1	—	5.3
	10年以上	32	28.1	15.6	40.6	6.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	13.2	34.2	28.9	2.6
	インド亜大陸	48	8.3	25.0	52.1	6.3	8.3
	東南アジア	61	14.8	19.7	44.3	19.7	1.6
総数		149	14.1	20.1	43.6	17.4	4.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

日本人の友人数 (Q16①)

ここでは、日本人の友人数についてみていく。図表 6-7 は、全体の集計結果を示したものである。「10人以上」と回答したものが49.0%とほぼ半数を占める結果となった。次いで「2~3人」(12.1%)、「6~9人」(9.4%)と続く。

以下の図表 6-8 は、滞在年数および、出身地域と日本人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ5~10年以上が73.1%と他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。一方、2年未満ではその割合は、34.1%にとどまる。2年未満は「0人」および「1人」の割合も高く、それぞれ14.6%と19.5%となっており、他のカテゴリーと比較しても、その割合は著しく高い。出身地域別についてみても、すべてのカテゴリーにおいて「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ、東南アジアが63.9%と他のカテゴリーと比較して最も高い割合となっている。

図表 6-8 日本人の友人 (Q16①)

(%)

		回答者数	0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	14.6	19.5	14.6	2.4	14.6	34.1	—
	2-5年未満	46	8.7	2.2	15.2	2.2	13.0	47.8	10.9
	5-10年未満	19	5.3	—	—	10.5	5.3	73.7	5.3
	10年以上	32	3.1	6.3	9.4	12.5	3.1	56.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	10.5	10.5	15.8	7.9	7.9	44.7	2.6
	インド亜大陸	48	12.5	8.3	16.7	8.3	6.3	33.3	14.6
	東南アジア	61	3.3	6.6	4.9	4.9	13.1	63.9	3.3
総数		149	8.2	8.2	11.6	6.8	9.5	49.0	6.8

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

同国人の友人数 (Q16②)

ここでは、同国人の友人数についてみていく。図表 6-9 は、全体の集計結果を示したものである。上述の日本人の友人数と同様に、「10人以上」と回答したものが 65.9%にのぼり、著しく多い結果となった。

以下の図表 6-10 は、滞在年数および、出身地域と同国人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、いずれの категорияにおいても、「10人以上」が 6 割以上を占める。出身地域別にみても、いずれの categoriaにおいても、「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ東南アジアでは、「10人以上」が、85.2%と著しく高い割合を取り、かつ 0 人から 4~5 人までと回答したものが存在しない結果となった。一方、インド亜大陸では、「10人以上」と回答したものの割合は、45.8%にとどまった。

図表 6-10 同国人の友人数 (Q16②)

(%)

		回答者数	0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	—	12.2	9.8	2.4	68.3	7.3
	2-5年未満	46	2.2	2.2	6.5	6.5	6.5	67.4	8.7
	5-10年未満	19	—	—	5.3	10.5	15.8	63.2	5.3
	10年以上	32	3.1	3.1	3.1	9.4	—	68.8	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	2.6	2.6	10.5	7.9	7.9	63.2	5.3
	インド亜大陸	48	2.1	2.1	14.6	18.8	4.2	45.8	12.5
	東南アジア	61	—	—	—	—	6.6	85.2	8.2
総数		149	1.3	1.3	7.4	9.4	6	65.8	8.7

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

ムスリムの友人数 (Q16③)

ここでは、ムスリムの友人数についてみていく。図表 6-11 は、全体の集計結果を示したものである。上述の日本人の友人数と同様に、「10人以上」と回答したものが 69.1%にのぼり、著しく多い結果となった。

以下の図表 6-12 は、滞在年数および、出身地域と同国人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、いずれの категорияにおいても、「10人以上」が6~7割以上を占める。出身地域別にみても、いずれの categoriaにおいても、「10人以上」が最も高い割合となっているものの、東南アジアが、「10人以上」が、88.5%と著しく高い割合を取ったのに対し、インド亜大陸ではその比率は45.8%にとどまっている。

図表 6-12 ムスリムの友人数 (Q16③) (%)

		回答者数	0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	2.4	7.3	14.6	2.4	65.9	7.3
	2-5年未満	46	2.2	2.2	2.2	2.2	8.7	73.9	8.7
	5-10年未満	19	—	—	5.3	5.3	10.5	73.7	5.3
	10年以上	32	—	3.1	6.3	9.4	—	62.5	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	2.6	2.6	5.3	10.5	7.9	68.4	2.6
	インド亜大陸	48	—	4.2	8.3	12.5	8.3	45.8	20.8
	東南アジア	61	—	—	1.6	—	1.6	88.5	8.2
総数		149	0.7	2	4.7	7.4	5.4	69.1	10.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

仕事満足度 (Q17①)

ここでは、仕事満足度についてみていく。図表 6-13 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」(48.9%)、「非常に満足」(27.0%)、「どちらかといえば不満」(9.9%)、「非常に不満」(4.3%)となった。なお、本質問項目に回答したものの総数は141名で、第4章「雇用形態 (Q8)」にて確認した現在働いている者の総数(度数128、そのうち無回答8)より多い。この差は、過去になんらかの形で就業していながらも、現在は働いていないものがその経験によって回答したことに由来するものと考えられる。

以下の図表 6-14 は、滞在年数および、出身地域と仕事満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべての categoriaにおいて「どちらかといえば満足」の割合が最も高く、「非常に満足」がそれに続く。2年未満は他の categoriaと比較して、「どちらかといえば不満」(13.5%)と「非常に不満」(8.1%)の割合がやや高い。出身地域別でも、「どちらかといえば満足」の割合が最も高い結果となっている。

図表 6-14 仕事満足度 (Q17①)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	37	27.0	40.5	13.5	8.1	10.8
	2-5年未満	43	23.3	51.2	11.6	4.7	9.3
	5-10年未満	18	33.3	61.1	5.6	—	—
	10年以上	32	31.3	46.9	9.4	3.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	34	20.6	58.8	14.7	—	5.9
	インド亜大陸	45	26.7	42.2	6.7	8.9	15.6
	東南アジア	61	31.1	47.5	9.8	3.3	8.2
総数		141	27.0	48.9	9.9	4.3	9.9

(注：滞在年数不詳 11名、出身地域不詳 2名)

居住満足度 (Q17②)

ここでは、居住満足度についてみていく。図表 6-15 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」(45.0%)、「非常に満足」(32.9%)、「どちらかといえば不満」(11.4%)、「非常に不満」(2.7%)となった。

以下の図表 6-16 は、滞在年数および、出身地域と居住満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満、2～5年未満、5～10年未満において「どちらかといえば満足」の割合が最も高くなっている(それぞれ 46.3%、47.8%、57.9%)。一方 10年以上では、「非常に満足」の割合が 46.9%と最も高くなっている。

図表 6-16 居住満足度 (Q17②)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	34.1	46.3	12.2	—	7.3
	2-5年未満	46	30.4	47.8	13.0	4.3	4.3
	5-10年未満	19	26.3	57.9	10.5	—	5.3
	10年以上	32	46.9	34.4	9.4	3.1	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	31.6	47.4	10.5	2.6	7.9
	インド亜大陸	48	33.3	43.8	2.1	6.3	14.6
	東南アジア	61	34.4	44.3	18.0	—	3.3
総数		149	32.9	45.0	11.4	2.7	8.1

(注：滞在年数不詳 11名、出身地域不詳 2名)

家族満足度 (Q17③)

ここでは、家族満足度についてみていく。本質問項目は、同居家族のいない一人暮らしの回答者も多く回答している。もちろん一人暮らしであっても、わが国において離れて住む家族が存在している可能性も示唆されるため、「本質問項目の結果は、わが国における同居家族についてのみの満足度を表すものではない」ということを予め断っておく。また、厳密に一人暮らしの回答者の別居家族の有無を本調査の一連の質問項目より明らかにすることは困難である。こうした事情を踏まえ、図表 6-17 で全体の集計結果についてのみ確認しておく。回答割合の多い順に「非常に満足」(53.6%)、「どちらかといえば満足」(22.4%)、「どちらかといえば不満」(6.8%)、「非常に不満」(2.0%)となり、「非常に満足」の割合が半数を超える結果となった。

医療満足度 (Q17④)

ここでは、医療満足度についてみていく。図表 6-18 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「非常に満足」(43.6%)、「どちらかといえば満足」(32.9%)、「どちらかといえば不満」(9.4%)、「不満」(2.0%)となった。

以下の図表 6-19 は、滞在年数および、出身地域と医療満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーで「非常に満足」の割合が最も高い結果となったが、とりわけ 5 年以上の滞在者のカテゴリーにおいてその傾向は顕著である。出身地域別でも、「非常に満足」の割合がすべてのカテゴリーで最も高い結果となったが、インド亜大陸では、33.3%と他のカテゴリーと比較して低い割合となっている。

図表 6-19 医療満足度 (Q17④)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	41.5	34.1	7.3	4.9	12.2
	2-5年未満	46	39.1	37.0	10.9	2.2	10.9
	5-10年未満	19	57.9	26.3	10.5	—	5.3
	10年以上	32	50.0	31.3	6.3	—	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	55.3	23.7	10.5	2.6	7.9
	インド亜大陸	48	33.3	25.0	14.6	4.2	22.9
	東南アジア	61	45.9	42.6	4.9	—	6.6
総数		149	43.6	32.9	9.4	2	12.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

経済状況満足度 (Q17⑤)

ここでは、経済状況満足度についてみていく。図表 6-20 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」(43.6%)、「非常に満足」(26.2%)、「どちらかといえば不満」(16.8%)、「非常に不満」(4.0%)となった。

以下の図表 6-21 は、滞在年数および、出身地域と経済状況満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2 年未満、5~10 年未満、10 年以上において、「どちらかといえば満足」の割合が最も高い。2-5 年未満では、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」の割合が、34.8%で同率であった。出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「どちらかといえば満足」の割合が最も高い。とりわけ東南アジアで 50.8%と他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。西アジア・アフリカでは、「非常に満足」と「どちらかといえば不満」が同率(23.7%)でそれに続く。一方、インド亜大陸と東南アジアでは、「非常に満足」(それぞれ 27.1%、27.9%)が「どちらかといえば満足」に続いた。

図表 6-21 経済状況満足度 (Q17⑤)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2 年未満	41	24.4	43.9	22.0	4.9	4.9
	2-5 年未満	46	34.8	34.8	17.4	6.5	6.5
	5-10 年未満	19	26.3	42.1	21.1	—	10.5
	10 年以上	32	15.6	59.4	9.4	3.1	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	42.1	23.7	5.3	5.3
	インド亜大陸	48	27.1	33.3	14.6	4.2	20.8
	東南アジア	61	27.9	50.8	14.8	3.3	3.3
総数		149	26.2	43.6	16.8	4	9.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本人との付き合い満足度 (Q17⑥)

ここでは、日本人との満足度についてみていく。図表 6-22 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「どちらかといえば満足」(36.2%)、「非常に満足」(31.5%)、「どちらかといえば不満」(16.1%)、「非常に不満」(6.0%)となった。「非常に満足」と、「どちらかといえば満足」をあわせた割合は、67.7%であった。

以下の図表 6-23 は、滞在年数および、出身地域と日本人との付き合い満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2 年未満では「非常に満足」が 34.1% と最も多いほかは、「どちらかといえば満足」が最も高い結果となった。とりわけ、5~10 年未満が 52.6% と、他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。2 年未満は、「どちらかといえば不満」も 26.8% と、他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカとインド亜大陸で、「非常に満足」が（それぞれ 34.2%、37.5%）、東南アジアでは、「どちらかといえば満足」（44.3%）が最も高い割合となっている。

図表 6-23 日本人との付き合い満足度 (Q17②)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2 年未満	41	34.1	26.8	26.8	7.3	4.9
	2-5 年未満	46	32.6	39.1	13.0	6.5	8.7
	5-10 年未満	19	31.6	52.6	5.3	10.5	—
	10 年以上	32	31.3	40.6	12.5	—	15.6
出身地域	西アジア・アフリカ	38	34.2	31.6	21.1	10.5	2.6
	インド亜大陸	48	37.5	31.3	12.5	2.1	16.7
	東南アジア	61	26.2	44.3	14.8	4.9	9.8
総数		149	31.5	36.2	16.1	6	10.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

同国人との付き合い満足度 (Q17⑦)

ここでは、同国人との付き合い満足度についてみていく。図表 6-24 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「非常に満足」（54.3%）、「どちらかといえば満足」（32.9%）、「どちらかといえば不満」（4.7%）、「非常に不満」（0.7%）となった。「非常に満足」と「どちらかといえば満足」と回答したものの割合の合計は、87.2%となった。

以下の図表 6-25 は、滞在年数および、出身地域とのクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2 年未満と 2~5 年未満では「非常に満足」がそれぞれ 73.2% と 56.5% と最も高い割合となっている。とりわけ、2 年未満において、同国人との付き合いに対する満足の度合いは高く、他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。一方、5~10 年未満と 10 年以上では、「どちらかといえば満足」（それぞれ 52.6%、40.6%）が最も高い割合となった。滞在期間の長期化とともに同国人との付き合いに対する満足の度合いは減少する傾向にある。出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて、「非常に満足」の割合が最も高いが、インド亜大陸は 41.7% と他のカテゴリーと比較して低い割合にとどまっている。

図表 6-25 同国人との付き合い満足度 (Q17②)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	73.2	24.4	—	—	2.4
	2-5年未満	46	56.5	30.4	8.7	—	4.3
	5-10年未満	19	42.1	52.6	—	—	5.3
	10年以上	32	34.4	40.6	9.4	3.1	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	65.8	23.7	5.3	2.6	2.6
	インド亜大陸	48	41.7	35.4	8.3	—	14.6
	東南アジア	61	59.0	34.4	1.6	—	4.9
総数		149	54.4	32.9	4.7	0.7	7.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

ムスリムとの付き合い満足度 (Q17③)

ここでは、ムスリムとの付き合い満足度についてみていく。図表 6-26 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「非常に満足」(57.7%)、「どちらかといえば満足」(32.2%)、「どちらかといえば不満」(3.4%)、「非常に不満」(1.3%)となった。「非常に満足」と「どちらかといえば満足」と回答したものの割合の合計は、89.9%となり、ほぼ9割がムスリムとの付き合いに満足していると回答している。なお日本人、同国人、ムスリムそれぞれとの付き合い満足度において、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」とあわせた値をみると、ムスリムが最も多く、次いで同国人、日本人となる。ムスリムと同国人の双方においてその値は約9割に上る一方、日本人では約7割にとどまった。

以下の図表 6-27 は、滞在年数および、出身地域とムスリムとの付き合い満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「非常に満足」が最も高い割合を示しており、中でも2年未満では75.6%と他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。出身地域別に見ても、すべてのカテゴリーにおいて「非常に満足」が最も高い割合を示している。とりわけ西アジア・アフリカでは73.7%となっており、他のカテゴリーと比較して著しく高い割合を示している。

図表 6-27 ムスリムとの付き合い満足度 (Q17②)

(%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	75.6	22.0	2.4	—	—
	2-5年未満	46	50.0	37.0	6.5	2.2	4.3
	5-10年未満	19	52.6	42.1	—	5.3	—
	10年以上	32	53.1	34.4	3.1	—	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	73.7	21.1	5.3	—	—
	インド亜大陸	48	50.0	31.3	4.2	4.2	10.4
	東南アジア	61	55.7	39.3	—	—	4.9
総数		149	57.7	32.2	3.4	1.3	5.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

現在の悩みや心配事 (Q21)

図表 6-28 は現在の悩みや心配事についての単純集計結果 (複数回答) を表したものである。最も多かったのは「言葉が通じない」で 38.3%、次いで「食べ物」の 36.2%であった。30%以上の選択率があった項目としては、「母国の治安・経済」(32.2%)、「将来の生活」(31.5%)、「子どもの教育」(30.9%) があげられる。選択率が低かったものとしては、「仕事がない」(10.1%)、「住居のこと」(10.1%)、「職場の人間関係」(10.1%) があげられる。食べる・話すについて悩んでいる在日ムスリムが多く、住む・働くについては悩みや心配事になっていないことがわかる。

以下の図表 6-29 は、滞在年数および、出身地域と現在の悩みや心配事のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別で見ると、滞在コーホートごとに悩みや心配事の種類が異なることがみてとれる。2年未満では「日本の習慣」、「言葉が通じない」、「食べ物」があげられ、2~5年未満では「ホームシック」、「将来の生活」、「自由時間がない」、5~10年未満では悩みや心配事が全体的に少なく、10年以上になると「子どもの教育」、「住居のこと」が特徴的な項目としてあげられている。

出身地域別で見ると、全体的に選択率が高かったのは東南アジア出身地域者であり、「仕事がない」、「職場の人間関係」、「地域の人間関係」、「ホームシック」などネットワークに関連する項目の選択率が高かった。

図表 6-29 現在の悩みや不安 (Q22) <複数回答> (%)

		子どもの教育	母国の治安・経済	家族・自分の健康	言葉が通じない	母国の家族	将来の生活	ホームシック	自由時間がない
滞在年数	2年未満	21.7	37.5	29.0	42.1	30.0	21.3	28.6	17.2
	2-5年未満	23.9	29.2	25.8	35.1	32.5	34.0	35.7	34.5
	5-10年未満	10.9	14.6	22.6	10.5	12.5	14.9	16.7	13.8

	10年以上	34.8	12.5	16.1	8.8	20.0	23.4	11.9	24.1
出身地域	西アジア・アフリカ	26.1	18.8	25.8	26.3	30.0	25.5	21.4	31.0
	インド亜大陸	37.0	31.3	32.3	28.1	37.5	34.0	31.0	24.1
	東南アジア	37.0	50.0	41.9	45.6	32.5	40.4	47.6	41.4
総数		30.9	32.2	20.8	38.3	26.8	31.5	28.2	19.5

		仕事がない	住居のこと	日本の習慣	日本人の考え方	職場の人間関係	食べ物	地域の人間関係	その他
滞在年数	2年未満	40.0	33.3	61.9	35.7	40.0	44.4	36.0	-
	2-5年未満	33.3	20.0	23.8	32.1	6.7	24.1	32.0	100.0
	5-10年未満	13.3	13.3	9.5	14.3	26.7	11.1	20.0	-
	10年以上	13.3	26.7	-	14.3	20.0	16.7	8.0	-
出身地域	西アジア・アフリカ	6.7	40.0	28.6	35.7	20.0	35.2	24.0	-
	インド亜大陸	33.3	13.3	28.6	21.4	26.0	25.9	16.0	33.3
	東南アジア	60.0	40.0	38.1	42.9	46.7	37.0	56.0	66.7
総数		10.1	10.1	14.1	18.8	10.1	36.2	16.8	2.0

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

総合的な生活満足度 (Q22)

図表6-30は生活満足度を表したグラフである。最も多かったのが「満足」の60.4%であった。「非常に満足」と「満足」を合わせた満足群は70.6%であり、「非常に不満足」と「不満足」を合わせて不満足群は18.8%となっている。

以下の図表6-31は、滞在年数および、出身地域と総合的な生活満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、「非常に満足」では2年未満で7.3%、2~5年未満で21.7%、5~10年未満で10.5%、10年以上で25.0%となり、W字曲線を描くことがみてとれる。このW字曲線は、次に検討する日本への主観的適応度と同様の傾向曲線である。出身地域別でみると、西アジア・アフリカで「満足」に集中する傾向があり、インド亜大陸、東南アジアは満足群と不満足群にバラツク傾向が特徴としてみてとれる。

図表6-31 総合的な生活満足度 (Q22)

(%)

	回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	非常に不満足	無回答
滞在年数	2年未満	41	7.3	70.7	19.5	2.4
	2-5年未満	46	21.7	56.5	15.2	4.3
	5-10年未満	19	10.5	73.7	15.8	-
	10年以上	32	25.0	56.3	15.6	-
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	73.7	7.9	2.6
	インド亜大陸	48	16.7	54.2	18.8	4.2
	東南アジア	61	18.0	57.4	21.3	-
総数	149	16.1	60.4	16.8	2.0	4.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

日本の生活への適応度 (Q31)

図表 6-32 は在日ムスリムの日本の生活への主観的適応度を表したグラフである。「まあまあ適応している」が最も多く、61.7%であり、次いで「非常に適応している」が 19.5%であった。合わせて 8 割の人が適応していると感じていることがわかる。

以下の図表 6-33 は、滞在年数および、出身地域と日本の生活への適応度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、10 年以上では「非常に適応している」が最も高くなっており、43.8%が非常に適応していると感じている。「あまり適応していない」、「全く適応していない」の非適応をみると、2 年未満で約 20%、2~5 年未満で約 8%、5~10 年未満で約 26%、10 年以上で 10%となる W 字曲線を描いていることがみてとれる。

出身地域別でみると、インド亜大陸では適応群と非適応群の 2 極化が特徴的な傾向としてみてとれる。

図表 6-33 日本の生活への適応度 (Q31)

(%)

		回答者数	非常に適応している	まあまあ適応している	あまり適応していない	まったく適応していない	無回答
滞在年数	2 年未満	41	9.8	70.7	17.1	2.4	-
	2-5 年未満	46	17.4	73.9	4.3	4.3	-
	5-10 年未満	19	10.5	63.2	21.1	5.3	-
	10 年以上	32	43.8	43.8	6.3	0.0	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	18.4	71.1	2.6	5.3	2.6
	インド亜大陸	48	22.9	50.0	16.7	4.2	6.3
	東南アジア	61	18.0	63.9	9.8	1.6	6.6
総数		149	19.5	61.7	10.1	3.4	5.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

資料：英語調查票



SOCIAL SURVEY ON MUSLIM POPULATION IN JAPAN

October—November, 2005

Research Office of Sociological and Area Studies would conduct this survey on Muslim Population in Japan as a part of our academic activities of School of Human Sciences of Waseda University, in order to further our knowledge on Muslim's life in Japanese society.

For the success of survey, we would like to request you to cooperate. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.

If you have any question, never hesitate to contact our chief research conductors, Mr. OKAI.

We appreciate in advance for your cooperation.

Note

1. Choose ONE if no specific direction and circle the number of the answer you choose. If you choose "Other" describe in details.
2. Follow the question numbers and directions.
3. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.
4. When done, make sure no mistake or no missed answer.

Research Office of Prof. TANADA Hirofumi
School of Human Science
Waseda University
E-mail: htanada@waseda.jp

Dr. Hirofumi TANADA
Professor
Research Office of Sociological and Area Studies
School of Human Sciences
Waseda University

Inquiry: Yoko TAKAHASHI, Hirofumi OKAI
Graduate Student, Graduate School of Human Sciences,
Waseda University
Tel: 03-3203-4141(ext. 76-3550) Dial-in&Fax: 04-2947-6830 E-mail: h-okai916@ruri.waseda.jp

Q1. How old are you? ()

Q2. What country are you from? ()

Q3. Are you currently married?

1. Yes ⇒SQ1 2. No

SQ1. What country is your partner from?

1. Japanese 3. Other country
2. Same country

Q4. When did you come to Japan the first time?

() year

Q5. What family members do you have in your home country? Choose as many as apply.

1. Grandparents 5. Brother
2. Father 6. Sister
3. Mother 7. Child
4. Spouse 8. Other (Describe :)

Q6. Who live with you currently? Choose as many as apply.

1. Grandparents 5. Brother
2. Father 6. Sister
3. Mother 7. Child
4. Spouse 8. Other (Describe :)

Q7. What is your work?

1. self-employed (including, employed in family business) 5. Employee (agriculture, forestry, and fishery)
2. Employee (professional or managerial work) 6. Housework
3. Employee (clerical, sales, or service work) 7. unemployed ⇒Q12
4. Employee (manual work such as factory work) 8. Student

Q8. What is your work condition?

1. Full-time worker 3. Trainee
2. Part-time worker 4. Other (Describe :)

Q9. How did you find the current job?

1. Advertisement 6. Broker of your country
2. Visited by yourself 7. Japanese Broker
3. Family/Relatives 8. Muslim Broker
4. Support group 9. Other (Describe :)
5. Friend

Q10. How many employees do they work in your work place?

1. 1~9 4. 50~299
2. 10~19 5. 300~999
3. 20~49 6. more than 1000

Q11. How do you spend what you earned through your occupation? Choose as many as apply.

1. Buying a house 6. Remittance for your home country
2. Buying a car 7. Entertainment
3. Business investment 8. Daily needs
4. Education of children 9. Nothing special
5. Debt payment 10. Other (Describe :)

Q 1 2. What kind of residence do you live in currently?

- | | |
|---|---|
| 1. one's own house (detached house) | 4. private lease and apartment for rent |
| 2. one's own house (housing complex in apartment house etc.) | 5. company housing |
| 3. public management lease house such as public corporations (公団) | 6. dormitory |
| | 7. other (describe:) |

Q 1 3. How did you find the place to live currently?

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. a person born in your country | 5. a broker |
| 2. a Japanese friend | 6. the employer |
| 3. a Muslim friend | 7. other (describe:) |
| 4. a real estate agent | |

Q 1 4. What do you like to do during your stay in Japan? Choose Three only.

- | | |
|------------------------|--|
| 1. Find a good job | 5. Study and specialize your own ability |
| 2. Enjoy the life | 6. Educate your own children |
| 3. Earn money | 7. Nothing special |
| 4. Start some business | 8. Other (Describe :) |

Q 1 5. What the level of Japanese do you command?

	Very good	Good	Not Good	Not at all
Listening and Speaking				
Reading				
Writing				

Q 1 6. How many friends do you have in Japan? List all of Japanese friends, friends from your own country, and Muslim friends.

- ①Japanese friends
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10
- ②Friends from your own country
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10
- ③Muslim Friends
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10

Q 1 7. How satisfied are you in following points?

	1 Very satisfied	2 Fairly satisfied	3 Fairly unsatisfied	4 Very unsatisfied
①Work	1	2	3	4
②Resident	1	2	3	4
③Family	1	2	3	4
④Medical care	1	2	3	4
⑤Financial condition	1	2	3	4
⑥Relation with Japanese	1	2	3	4
⑦Relation with people from your country	1	2	3	4

Q 1 8. Have your faith changed since you came to Japan?

- 1. Became stronger
- 2. Became fairly stronger
- 3. Not changed
- 4. Became fairly weaker
- 5. Became weaker

Q 1 9. How much do you follow Islamic rules in your everyday life?

- 1. very strictly
- 2. fairly strictly
- 3. not very strictly
- 4. I don't care

Q 2 0. Do you use or participate among the followings?

- ① Newspaper in your mother tongue
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week
- ②.Halal Food shop
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week
- ③.Halal Restaurant
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week
- ④. Prayer service in Mosque or prayer room
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week
- ⑤.Study group or lecture related to Islam
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week
- ⑥.Dawah/Tabligh
 - 1. Not at all
 - 2. Less than once a month
 - 3. Twice a month
 - 4. Once a week
 - 5. Twice a week

Q 2 1. Do you have any concern currently? Choose as many as apply.

- 1. Child Education
- 2. Security/Economy in your country
- 3. Health of yourself and family
- 4. Difficulty in language
- 5. Family in your country
- 6. Future life
- 7. Homesick
- 8. Lack of free time
- 9. Jobless
- 10. Residence
- 11. Difficulty in getting Japanese Habit
- 12. Difficulty in Japanese way of thinking
- 13. Office politics
- 14. Food
- 15. Community relationships
- 16. Other (Describe : _____)

Q 2 2. In general, are you satisfied with the current life in Japan?

- 1. Very satisfied
- 2. Satisfied
- 3. Not satisfied
- 4. Not satisfied at all

Q 2 3. What did you work in your country?

- 1. self-employed (including, employed in family business)
- 2. employee (professional or managerial work)
- 3. employee (clerical, sales, or service work)
- 4. employee (manual work such as factory work)
- 5. employee (agriculture, forestry, and fishery)
- 6. housework
- 7. unemployed
- 8. student

Q 2 4. What school did you attend the last? (currently student/drop-out should be answered same as graduated)

- 1. Elementary School
- 2. Junior High School
- 3. High School
- 4. Collage
- 5. University/ Graduate School

Q 2 5. What is the reason to come to Japan? Choose as many as apply.

- 1. Easy to enter the country
- 2. Introduced by broker
- 3. Told that there was a job in Japan
- 4. Earn a lot of money
- 5. Invited by family or relatives
- 6. Invited by friends
- 7. To have training
- 8. To study or further your own study
- 9. Business trip or oversea duty

10. Other (Describe :)

Q26. When you came to Japan, have you used any broker?

1. Yes
2. No

Q27. How have you managed to cover the expense to come to Japan? Choose as many as apply.

1. Government grant
2. Your own budget
3. Broker
4. Family/Relatives
5. Friends
6. Other (Describe :)

Q28. How much do you earn monthly?

1. Less than ¥100,000
2. ¥100,000- less than ¥200,000
3. ¥200,000- less than ¥300,000
4. ¥300,000- less than ¥400,000
5. ¥400,000- less than ¥500,000
6. more than ¥500,000
7. Don't know

Q29. How long have you ever stayed in Japan in total?

() year () month(s)

Q30. How much do you adopt yourself to the life in Japan?

1. Very adopted
2. Adopted
3. Not adopted
4. Not adopted at all

Q31. How long are you going to stay in Japan in the future?

1. About a year
2. About two years
3. About three years
4. About five years
5. About ten years
6. More than ten years
7. As long as possible
8. Permanently

THANK YOU FOR YOUR COOPERATION!!

執筆者一覧 (2006年8月現在)

- 店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院教授
(序、調査結果の概要、第1章)
- 村田 久 東京大学助手
(第6章)
- 高橋 陽子 早稲田大学人間科学学術院助手
(第3章)
- 石川 基樹 早稲田大学人間科学研究科博士課程
(第4章)
- 岡井 宏文 早稲田大学人間科学研究科博士課程
(第1章、第5章、第6章)
- 北爪 秀紀 早稲田大学人間科学研究科修士課程修了
(第2章)